ONKYO

AVレシーバー

TX-NR626

取扱説明書

特長

アンプ

- 各種サラウンド方式に対応した7チャンネルアンプ
- 再生周波数の広帯域化を図るWRAT（Wide Range Amplifier Technology）搭載
- 信号とノイズ領域との近接を回避して、聴感上のS/Nを向上させる、オプティマム・ゲイン・ボリューム回路

処理

- 高性能ビデオフォーマットコンバーター「Qdeo™」搭載
- ビデオコンバーター搭載〔ビデオ（コンポジット）/コンポーネント信号をHDMI出力端子に出力〕
- HDMI（Audio Return Channel、3D、DeepColor、x.v.Color、Lip Sync、4K（アップスケーリング、Passthrough）、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DSD、マルチチャンネルPCMに対応）
- Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audioリスニングモード搭載
- Dolby Pro Logic IIz Height（フロントハイスピーカー対応）リスニングモード搭載
- ダウンミックスによる、フロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
- もともとの音源のまま、ピュアな音を楽しむDirectリスニングモードと、ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできるPure Audioリスニングモード搭載
- 圧縮された音楽ファイルを、より良い音で楽しむMusic Optimizer™機能搭載
- Phase Matching Bassシステム搭載
- 192 kHz /24bit D/Aコンバーター搭載
- 極めて高い演算能力を持つ、32bit DSP（Digital Signal Processor）搭載
- LFEチャンネルを持たないソースでも、サブウーファーを効果的に動作させるダブルバス機能搭載
- 小音量でもサラウンドを楽しめる、レイトナイト機能搭載（Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD時のみ）
- ネットワーク、USB経由でMP3、WMA、WMA Lossless、FLAC、WAV、Ogg Vorbis、AAC、Apple Lossless、DSD、Dolby TrueHDフォーマットの音楽ファイルを再生可能
- 新たに正確な信号を作り出し、デジタル信号のゆらぎを排除するPLL（Phase Locked Loop）方式ジッタークリーナー搭載

接続

- デジタル映像/音声信号を、1本のケーブルで伝送可能なHDMI入力6系統、出力2系統装備
- 4K（アップスケーリング、Passthrough*）対応HDMI入力端子装備

* HDMI IN1端子からHDMI IN4端子にのみ対応しています。

- コンポーネント映像入力端子1系統、出力端子1系統装備
- システムを制御するオンキヨー RIHD（Remote Interactive over HDMI）搭載
- デジタル音声入力端子として、光1系統/同軸2系統装備
- USBストレージを接続できるフロントUSB端子装備
- MHL対応モバイル機器対応のHDMI IN1端子を装備
- 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能
- インターネットラジオ受信可能
- Wi-Fi（無線LAN）接続が可能
- ワイヤレス音楽再生が可能なBluetooth機能搭載

その他

- AM/FM合わせて最大40局までプリセット可能
- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定可能（Audyssey MultEQ®）
- 小音量でもサラウンドを楽しめるAudyssey Dynamic EQ®機能搭載
- 音量の大小を即時に調整するAudyssey Dynamic Volume®機能搭載
- 2つまたは3つのスピーカーでも、バーチャル5.1サラウンドが楽しめるT-D（Theater-Dimensional）リスニングモード搭載
- AACデコーダー搭載
- 映画館の音響特性に配慮して高音域が強調された映画音声を家庭での再生に合わせて補正するシネマフィルター機能搭載
- 音声と映像のズレを補正する、AVシンクコントロール機能搭載
- 映像/音声入力が無く、無操作の状態で一定時間経つと、本機が自動的にスタンバイ状態に移行する、自動スタンバイ機能搭載
- モニターを見ながら、簡単設定ができるOSD（On Screen Display）機能搭載
- 他機の操作を可能にする、プリプログラム機能（OSD機能によるコード検索が可能）搭載のリモコン付属
- メインルームで再生しながら別室で異なるソースを楽しめるゾーン2機能搭載

目次

基本的な接続・設定や操作については、同梱の「スタートアップガイド」と一緒に本書をご覧ください。本書では、それぞれの詳細や応用設定について詳しく説明しています。

はじめに

接続をする

電源のオン・オフと基本操作をする

再生をする

設定をする

他の製品を操作する

その他

本機のすべての設定をお買い上げ時の状態に戻す場合は、**82**ページをご覧ください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
（本機の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

■ ETHERNET ポートには電話回線を接続しない

禁止

本機のETHERNET ポートに以下のネットワークや回線を接続すると、必要以上の電流が流れ、故障や火災の原因となります。

- 一般電話回線
- デジタル式構内交換機（PBX）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

警告

■電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、アンテナ、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■心臓ペースメーカーを装着されている場合は、本機を使用しない

禁止

電波によりペースメーカーの動作に影響を与える原因となります。

■病院などの医療機関内、医療用機器の近くや、飛行機の中では本機を使用しない

禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となります。

■他の機器に電波障害などが発生した場合、本機の使用を中止する

禁止

電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となります。

■長時間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

警告

■電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

注意

接続、設置に関するご注意

■不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

■屋外アンテナ工事は販売店に依頼する

必ずする

アンテナ工事には技術と経験が必要です。

⚠ 注意

電源コード・電源プラグに関するご注意

■表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

移動時のご注意

■移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

■機器内部の点検について

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

電波に関するご注意

本機は、2.4 GHz の周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、下記①に示すようにいろいろな機器が使用しています。また、お客様に存在がわかりにくい機器として下記②に示すような機器もあります。

① **2.4 GHz を使用する主な機器の例**
- コードレスフォン
- コードレスファクシミリ
- 電子レンジ
- 無線LAN 機器（IEEE802.11b/g/n）
- ワイヤレスAV 機器
- ゲーム機のワイヤレスコントローラー
- マイクロ波治療機器類
- ビデオ送信機
- 特定の外部モニターおよび LCD ディスプレイ

② **存在がわかりにくい2.4 GHz を使用する主な機器の例**
- 万引き防止システム
- アマチュア無線局
- 工場や倉庫などの物流管理システム
- 鉄道車両や緊急車両の識別システム

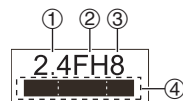
これらの機器と本機を同時に使用すると、電波の干渉により、音がとぎれて雑音のように聴こえたり、音が出なくなることがあります。
受信状況の改善方法としては以下の方法があります。
- 電波を発生している相手機器の電源を切る
- 干渉している機器の距離を離して設置する

- 本機は電波を使用しているため、第３者が故意または偶然に傍受することが考えられます。重要な通信や人命にかかわる通信には使用しないでください。
- 弊社ではお客様のネットワーク接続環境、接続機器に関する通信エラーや不具合について、一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。プロバイダーまたは各接続機器のメーカーにお問い合わせください。

電波法に基づく認証について

本機内蔵の無線LAN・Bluetoothモジュールは電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています（または、受けた部品を使用しています）。
したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は、日本国内のみで使用できます。ただし、以下の行為をすると法律により罰せられることがあります。
- 本機内蔵の無線LAN・Bluetoothモジュールを分解／改造すること。
- 本機内蔵の無線LAN・Bluetoothモジュールに貼られている証明ラベルをはがすこと。

周波数について

認証済みの無線LAN機器では次のようなマーク（一例です）がついていますが、その意味は次のようになります。

① 無線設備が使用する帯域を表します
② 変調方式を表します
③ 想定される与干渉距離（数字×10m以下）を表します
④ 全帯域を使用し、移動体識別装置の帯域を回避可能です

本機では無線LAN・Bluetoothモジュールが本機内部に内蔵されており認証ラベルを見ることができませんが、下記の認証を受けています。

Wi-Fi

2.4DS4/OF4

2.4GHz帯を使用、DS-SS変調方式およびOFDM変調方式を採用、与干渉距離40m以下

Bluetooth

2.4GHz帯を使用、FH-SS変調方式、与干渉距離80m以下

使用範囲について

ご家庭内での使用に限ります（通信の環境により伝送距離が短くなることがあります）。
次のような場合、電波状態が悪くなったり電波が届かなくなることが原因で、音声がとぎれたり停止したりします。
- 鉄筋コンクリートや金属の使われている壁や床を通して使用する場合。
- 大型の金属製家具の近くなど。
- 人混みの中や、建物障害物の近くなど。
- 2.4 GHz を利用する無線LAN（IEEE802.11b/g/n)、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。
- 集合住宅（アパート・マンションなど）にお住まいで、お隣で使用している電子レンジ設置場所が本機に近い場合。なお、電子レンジは、使用していなければ電波干渉は起こりません。

電波の反射について

本機が通信する電波には、直接届く電波（直接波）と、壁や家具、建物などに反射してさまざまな方向から届く電波（反射波）があります。これにより、障害物と反射物とのさまざまな反射波が発生し、電波状態の良い位置と悪い位置が生じ、音声がうまく受信できなくなることがあります。このようなときは、無線LAN機能搭載機器の場所を少し動かしてみてください。無線LAN機能搭載機器と本機の間を人間が横切ったり、近づいたりすることによっても、反射波の影響で音声がとぎれたりすることがあります。

- 本機の使用によって発生した損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- 無線LANはすべてのご利用環境での動作を保証するものではありません。距離や障害物により十分な通信速度が出なかったり接続できない場合があります。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。
- 航空機器や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関の指示に従ってください。

■ ご注意いただきたい電子機器の例

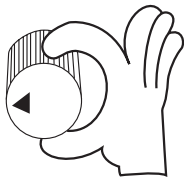
補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。
ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーまたは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要さない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに電波の発射を停止したうえ、オンキヨーオーディオコールセンターにご連絡いただき、混信回避のための処置など（たとえば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、オンキヨーオーディオコールセンター（➔ P.98）へお問い合わせください。

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

付属品

ご使用の前に、次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-866M）…（1）
乾電池（単3形、R6）…（2）

スピーカーコード用ラベル…（1）（➔ P.16）

電源コード…（1）（➔ P.26）

測定用マイク…（1）（➔ P.29）

AM室内アンテナ…（1）（➔ P.24）

FM室内アンテナ…（1）（➔ P.24）

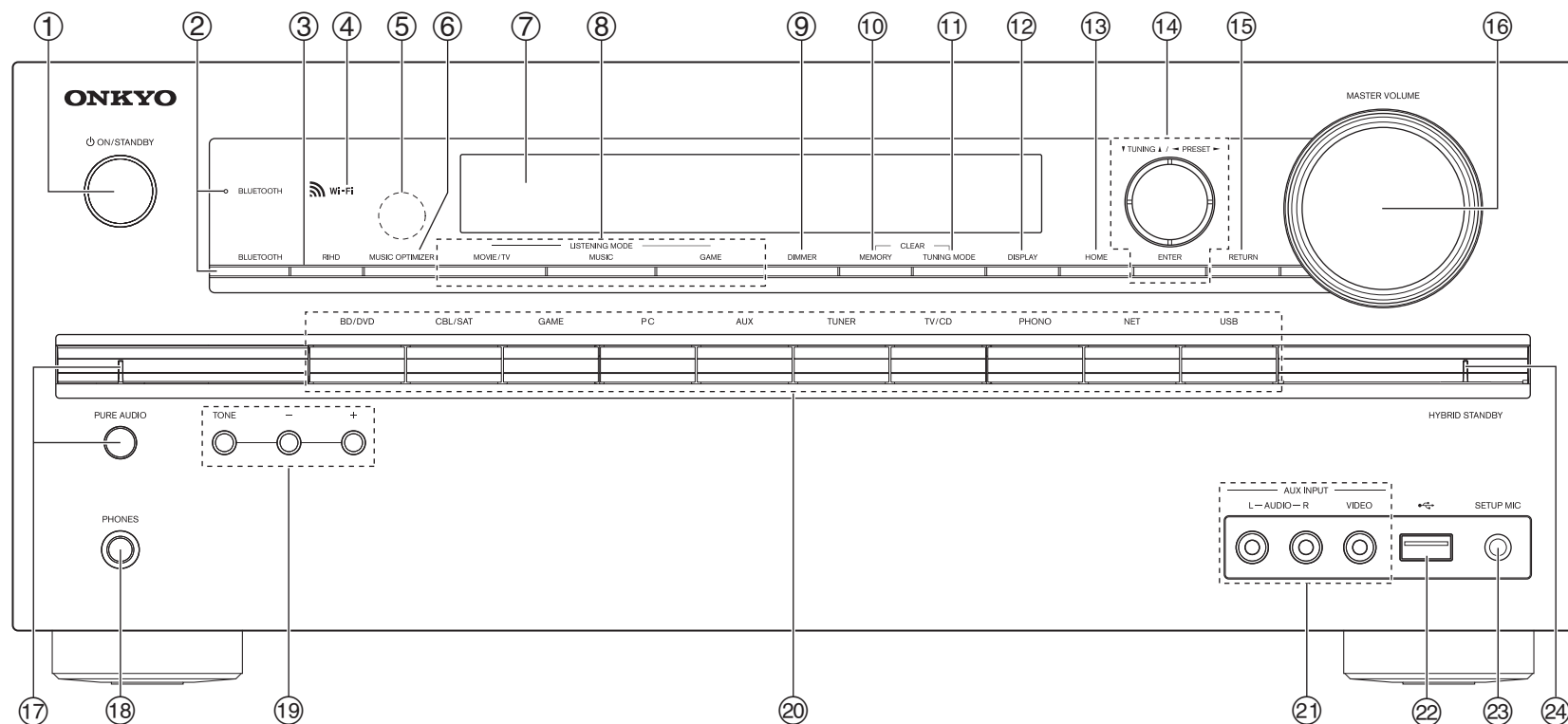
取扱説明書（本書）…（1）

スタートアップガイド…（1）

保証書…（1）

カタログおよび包装箱などに表示されている、型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

前面パネルと後面パネル

前面パネル

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① **⏻ON/STANDBYボタン**（26）
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② **BLUETOOTHボタン/インジケーター**（35、71）
「BLUETOOTH」入力セレクタを選びます。また Bluetooth対応機器とペアリングすることができます。ペアリング中に点滅し、ペアリングが完了すると点灯に変わります。

③ **RIHDボタン**（50）
本機と HDMI接続したCEC（Consumer Electronics Control）対応機器や、RIHD 対応機器との連動をオン/オフします。

④ **Wi-Fiインジケーター**（31）
アクセスポイントとの接続中に点滅し、アクセスポイントとの接続が完了すると点灯に変わります。

⑤ **リモコン受光部**（15）
リモコンからの信号を受信します。

⑥ **MUSIC OPTIMIZERボタン**（54）
ミュージックオプティマイザー機能をオン/オフします。

⑦ **表示部**（11）

⑧ **LISTENING MODEボタン**（44）
リスニングモードを選びます。

⑨ **DIMMERボタン**（49）
表示部の明るさを切り換えます。

⑩ **MEMORYボタン**（42）
放送局を登録したり、削除するときに使用します。

⑪ **TUNING MODEボタン**（42）
選局モードを切り換えるときに使用します。

⑫ **DISPLAYボタン**（49）
表示部の情報を切り換えます。

⑬ **HOMEボタン**（51）
ホームメニューを表示します。

⑭ **TUNING ▲/▼**（42）、**PRESET ◄/►**（43）、**カーソル、ENTERボタン**
AM/FM放送をお聴きになる時に、**TUNING ▲/▼**ボタンは周波数選択に使用し、**PRESET ◄/►** ボタンは登録した放送局を選択する時に使用します。カーソルは設定項目を選択するときに使用します。**ENTER**ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑮ **RETURNボタン**
設定中に 1 つ前の表示に戻します。

⑯ **MASTER VOLUMEつまみ**（33）
音量をMin · 1…79 · Max の範囲で調整します。

⑰ **PURE AUDIOボタン/インジケーター**（44）
リスニングモードをPure Audioにします。
リスニングモードがPure Audioのとき、インジケーターが点灯します。

⑱ **PHONES端子**（25）
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑲ **TONE/トーンレベルボタン**（53）
高音、低音を調整します。

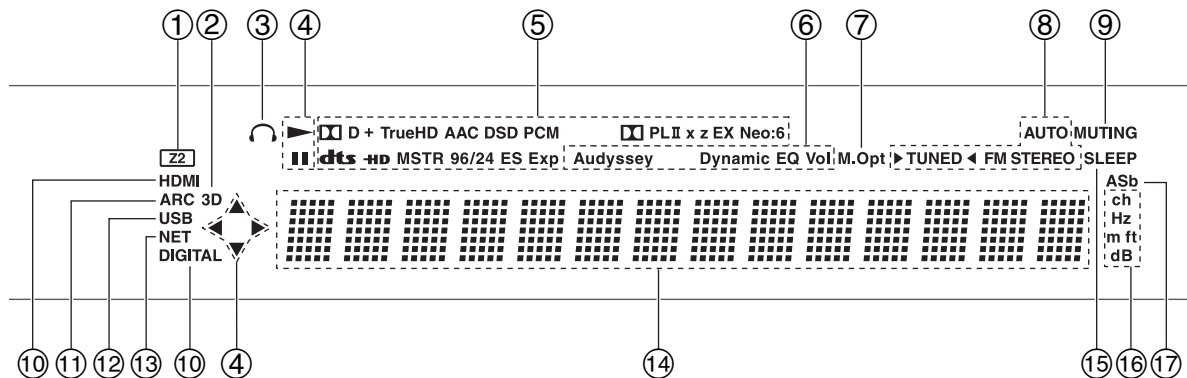
⑳ **入力切換ボタン**（33）
入力を切り換えて、再生する機器を選びます。

㉑ **AUX INPUT VIDEO/AUDIO端子**
ビデオカメラなどを接続します。

㉒ **USB端子**（36）
USBストレージ（USBメモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。

㉓ **SETUP MIC端子**（29）
付属の測定用マイクを接続して、自動スピーカー設定を行います。

㉔ **HYBRID STANDBYインジケーター**（27）
HDMIスルー、ネットワークスタンバイ機能が有効に設定されているときに本機がスタンバイになると点灯します。
本機の設定状況によっては点灯しないこともあります。

表示部

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① **Z2表示（72）**
ゾーン2への出力をオンにすると点灯します。

② **3D表示**
入力信号が3Dのときに点灯します。

③ **ヘッドホン表示（25）**
ステレオヘッドホンを**PHONES**端子に接続すると点灯します。

④ **►、❚❚、カーソル表示（36）**
NET、USB操作時に点灯します。

⑤ **リスニングモード、デジタル音声入力信号フォーマット表示（44、66）**
入力されているデジタル信号の種類、およびリスニングモードを表示します。

⑥ **Audyssey/Dynamic EQ/ Vol 表示（29、62）**

Audyssey表示
自動スピーカー測定中に点滅します。また、「**Audyssey**」が有効に設定されているときに点灯します（29、62）。

Dynamic EQ表示
Dynamic EQが「**オン**」に設定されているときに点灯します（➔ P.62）。

Dynamic Vol表示
Dynamic Volumeが有効に設定されているときに点灯します（➔ P.62）。

⑦ **M.Opt（Music Optimizer）表示（54）**
ミュージックオプティマイザーが有効に設定されているときに点灯します。

⑧ **AM/FM受信状態表示**

AUTO表示（42）
選局モードがオートのときに点灯します。

TUNED表示（42）
自動的に放送局を探しているときは、►◄ が点滅します。放送局を受信するとチューンド表示（►**TUNED**◄）が点灯します。

FM STEREO表示（42）
FM ステレオ局を受信すると点灯します。

⑨ **MUTING表示（50）**
ミューティングが働いているときに点滅します。

⑩ **音声入力表示（22）**

HDMI表示（68）
HDMI信号が入力かつ選択されているときに点灯します。

DIGITAL表示
デジタル信号が入力かつ選択されているときに点灯します。

⑪ **ARC（Audio Return Channel）表示（69）**
オーディオリターンチャンネルに対応したテレビからの音声信号を**HDMI OUT MAIN**端子から入力かつ選択されているときに点灯します。

⑫ **USB表示（36）**
入力に「**USB**」が選ばれているとき、USBストレージ（USBメモリーなど）が接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。

⑬ **NET表示（36～40、70）**
入力に「**NET**」が選ばれているとき、本機がネットワークに接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。

⑭ **多目的表示部**
入力信号の様々な情報を表示します。**DISPLAY**ボタンを押すと、入力されている信号のフォーマットやリスニングモードなどを表示します。

⑮ **SLEEP表示（49）**
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

⑯ **チャンネル/単位表示**

ch 表示
チャンネルの設定時などに点灯します。

Hz表示
クロスオーバー周波数の設定時などに点灯します。

m/ft 表示
スピーカー距離の設定時などに点灯します。

dB表示
スピーカー音量の設定時などに点灯します。

⑰ **ASb（自動スタンバイ）表示（69）**
自動スタンバイ設定中に点灯します。

後面パネル

ETHERNET
HDMI (ASSIGNABLE)
IN
6
5 (PC)
4 (GAME)
3 (CBL/SAT)
2 (BD/DVD)
1 MHL (AUX)
OUT SUB
OUT MAIN
ARC
電源入力AC100V
REMOTE CONTROL
(TV/CD)
OPTICAL
COAXIAL
1 (BD/DVD)
2 (CBL/SAT)
DIGITAL IN (ASSIGNABLE)
GND
COMPONENT VIDEO
IN
OUT
ASSIGNABLE
(CBL/SAT)
MONITOR OUT
V
ANTENNA
AM
FM75Ω
PHONO
TV/CD
PC
GAME
CBL/SAT
BD/DVD
VIDEO/AUDIO IN
LINE OUT ZONE 2
PRE OUT SUBWOOFER
SPEAKERS
SURROUND BACK or FRONT HIGH
SURROUND
FRONT
CENTER
7.1ch or Bi-AMP
5.1ch
ONKYO
TX-NR626

接続については「接続をする」をご覧ください（➔ P.16～25）。

① **RI REMOTE CONTROL端子**
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。

② **COMPONENT VIDEO IN/OUT端子**
コンポーネント映像を入出力する端子です。入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

③ **ETHERNET端子**
ホームネットワーク（LAN）と接続するための端子です。イーサネットケーブルを使ってルータやハブに接続します。

④ **AM ANTENNA/FM ANTENNA（75Ω）端子**
付属のAM室内アンテナ/FM室内アンテナまたは、AM/FM屋外アンテナを接続する端子です。

⑤ **HDMI IN/OUT（MAIN/SUB）端子**
HDMI IN端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子です。各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。
HDMI OUT（**MAIN**/**SUB**）端子
本機からデジタル映像信号とデジタル音声信号をテレビに出力する端子です。
MAIN/**SUB**のどちらから出力するかは、「**モニター出力設定**」で切り換えます（➔ P.57）。

⑥ **スピーカー端子**
スピーカーを接続します。

⑦ **電源入力AC100V端子**
付属の電源コードを接続します。

⑧ **DIGITAL IN COAXIAL/OPTICAL端子**
デジタル再生機器と音声接続する入力端子です。各端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

⑨ **GND端子**
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑩ **コンポジットビデオ/アナログオーディオ端子**
アナログ映像信号とアナログ音声信号を入力する端子です。

⑪ **MONITOR OUT V端子**
接続しているモニターやテレビにビデオ映像を出力する端子です。

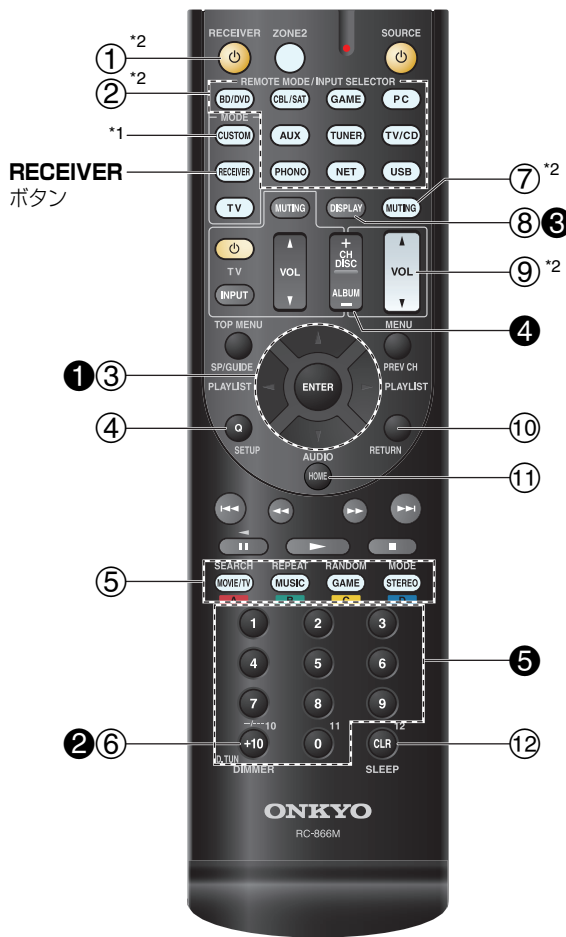
⑫ **ZONE 2 LINE OUT端子**
別室（ゾーン2）で使用するアンプを接続するアナログの音声出力端子です。

⑬ **SUBWOOFER PRE OUT端子**
アンプ内蔵サブウーファーを接続します。
2つの端子からは同じ信号が出力されます。

リモコン

本機を操作する

RECEIVERモード

本機を操作するときは、はじめに**RECEIVER**ボタンを押して、RECEIVERモードにしてください。

（　）内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① **RECEIVERボタン**（26）
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② **REMOTE MODE/INPUT SELECTORボタン**（33）
入力を切り換えて、再生する機器を選びます。

③ **▲/▼/◄/►/ENTERボタン**
設定項目を選択します。**ENTER**ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

④ **Q SETUPボタン**（52）
本機の簡単な設定を行います。

⑤ **リスニングモードボタン**（44）
リスニングモードを選びます。

⑥ **DIMMERボタン**（49）
表示部の明るさを切り換えます。

⑦ **MUTINGボタン**（50）
音を一時的に小さくします。

⑧ **DISPLAYボタン**（49）
表示部の情報を切り換えます。

⑨ **VOL ▲/▼ボタン**（33）
音量を調整します。

⑩ **RETURNボタン**
設定中に1つ前の表示に戻します。

⑪ **HOMEボタン**（51）
ホームメニューを表示します。

⑫ **SLEEPボタン**（49）
スリープタイマーを設定します。

ヒント

- リモコンでお手持ちのブルーレイディスク/DVDプレーヤーやCDプレーヤーなどの、AV機器も操作することができます。詳しくは「本機のリモコンで他の製品を操作する」をご覧ください（➔ **P.73**）。

■ チューナー操作

本機のチューナーを操作するときは、**TUNER**（または**RECEIVER**）ボタンを押してください。
TUNERボタンを押すと、AM放送またはFM放送を選べます。

❶ **▲/▼ボタン**
周波数を選びます。

❷ **D.TUNボタン**（42）
（チューナーモード時のみ）
ダイレクト選局モードを選びます。

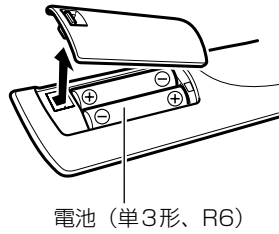
❸ **DISPLAYボタン**
プリセット局の名前や周波数などの情報を表示します。

❹ **CH ＋/－ボタン**（43）
登録した放送局を選びます。

❺ **数字ボタン**（42）
登録した放送局を選びます。また、ダイレクト選局モードで直接周波数も選べます。

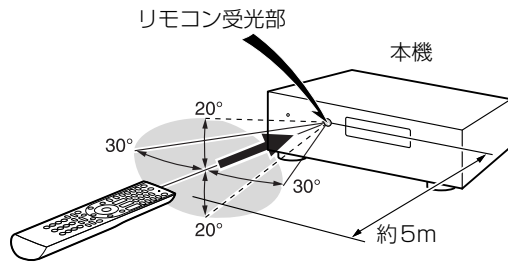
*1 機器を操作する場合、リモコンコードを登録する必要があります。
詳細は「リモコンコードを登録する」をご覧ください（➔ **P.73**）。

*2 RECEIVERモード以外の**REMOTE MODE**ボタンを選択しているときも使用できます（TVモード時は除く）。

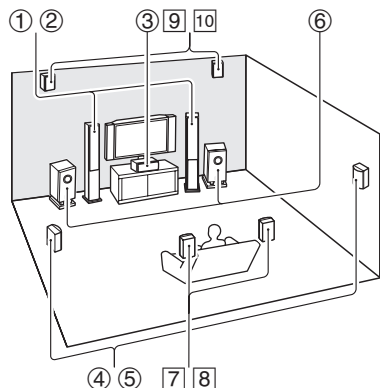
■乾電池を入れる

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために、電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと、腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して、2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

■リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。

接続をする

接続をする

スピーカーを接続する

① ②	フロントスピーカー
③	センタースピーカー
④ ⑤	サラウンドスピーカー
⑥	サブウーファー
7 8	サラウンドバックスピーカー
9 10	フロントハイスピーカー

スピーカーの配置

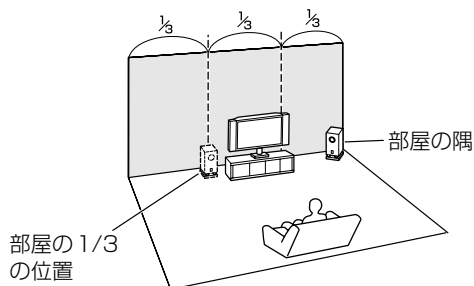
以下の表は、使用できるチャンネル数を示しています。チャンネル数はスピーカーの数によって異なります。
スピーカーの数に関係なく、とても強力かつ充実した重低音効果を発揮するためにはパワードサブウーファーの使用を推奨します。
最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定（➔ P.29）または手動設定（➔ P.59）を行ってください。

チャンネル数	2	3	4	5	6	7	7
フロントスピーカー	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
センタースピーカー		✔		✔	✔	✔	✔
サラウンドスピーカー			✔	✔	✔	✔	✔
サラウンドバックスピーカー（1台）*1					✔		
サラウンドバックスピーカー（2台）*1						✔	
フロントハイスピーカー *1							✔

再生できるスピーカーの組み合わせの例です。

5.1チャンネル再生の場合：
① ② ③ ④ ⑤ ⑥
7.1チャンネル再生の場合：
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ＋ 7 8
① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ＋ 9 10

*1 サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーを同時に使うことはできません。

パワーアンプ内蔵サブウーファーを使う

最大2つのパワーアンプ内蔵サブウーファーを接続して使用できます。
それぞれの端子から同じ信号が出力されます。
再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。

ヒント

- サブウーファー側で音量調整ができる場合、音量を上げてください。また、カットオフフィルター切換スイッチはDIRECT（ダイレクト）にしてください。カットオフフィルター切換スイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。
- ご使用のサブウーファーにアンプが内蔵されていない場合は、お手持ちのアンプ機器の入力端子にサブウーファーのプリアウト端子を接続して、ご使用ください。

スピーカーコード用ラベルを取り付ける

スピーカー端子は識別できるように色分けされています。

スピーカー	色
左フロント、左フロントハイ	白
右フロント、右フロントハイ	赤
センター	緑
左サラウンド	青
右サラウンド	グレー
左サラウンドバック	茶
右サラウンドバック	ベージュ

付属のスピーカーコード用ラベルも色分けされています。
上記の表を参照して、各スピーカーコードのプラス（+）側に取り付けてください。ラベルと同じ色のスピーカー端子にケーブルを接続するだけで、スピーカー接続を行うことができます。

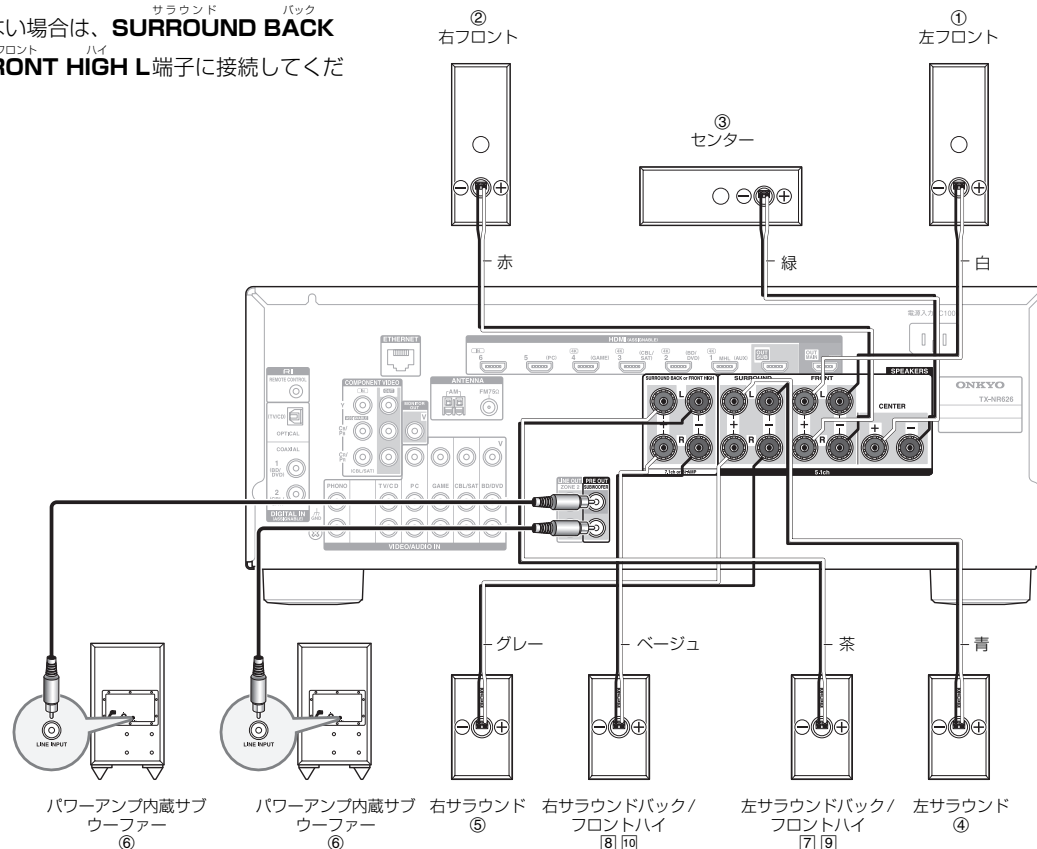
スピーカーコード/パワーアンプ内蔵サブウーファーを接続する

5.1 チャンネル再生をするときは、① ② ③ ④ ⑤ ⑥ を接続してください。

サラウンドバックスピーカーを1台しか使用しない場合は、**SURROUND BACK or FRONT HIGH L**端子に接続してください。

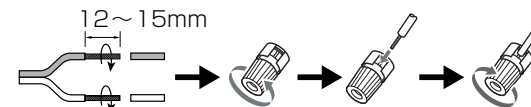
② 右フロント
① 左フロント
③ センター
赤　緑　白
グレー　ベージュ　茶　青

パワーアンプ内蔵サブウーファー ⑥
パワーアンプ内蔵サブウーファー ⑥
右サラウンド ⑤
右サラウンドバック/フロントハイ ⑧ ⑩
左サラウンドバック/フロントハイ ⑦ ⑨
左サラウンド ④

- スピーカーケーブルを接続するときは、アンプ端子のプラス（+）側とスピーカー端子の（+）側を、マイナス（ー）はマイナス（ー）とを、各チャンネルごとに必ず合わせて接続してください。間違って接続すると、位相が逆になり低音が出にくくなるなど再生音が悪くなります。各スピーカーケーブルの被覆に色が付いている方をプラス（+）側に接続するなどして間違わないようにしてください。

電源コードを接続する前に、すべての接続が完了していることを確認してください。初めて本機の電源を入れると、必要な初期設定のウィザードが起動します（➔ P.27）。

- スピーカーに添付の取扱説明書をご覧ください。
- お買い上げ時は「左右フロント/センター/左右サラウンド/左右サラウンドバック/サブウーファー」の7.1chスピーカーを使用する設定になっています。

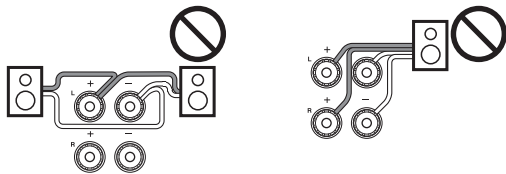
■ ネジ式スピーカー端子

スピーカーコードの被覆を先端から12～15mm剥ぎ、芯線をしっかりよじります。

■ バナナプラグ

- スピーカー端子をしっかり締めてから、バナナプラグを挿入してください。
- スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子のバナナプラグ用の穴に直接挿入しないでください。

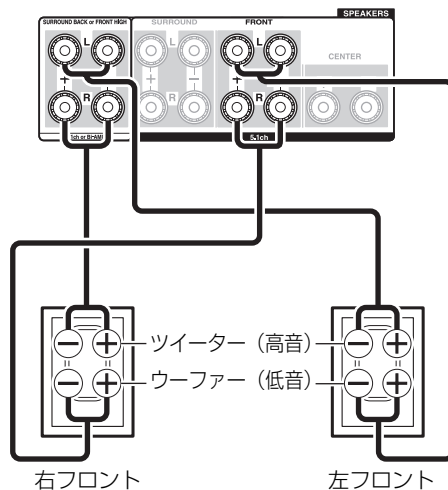
■スピーカー接続時の注意事項

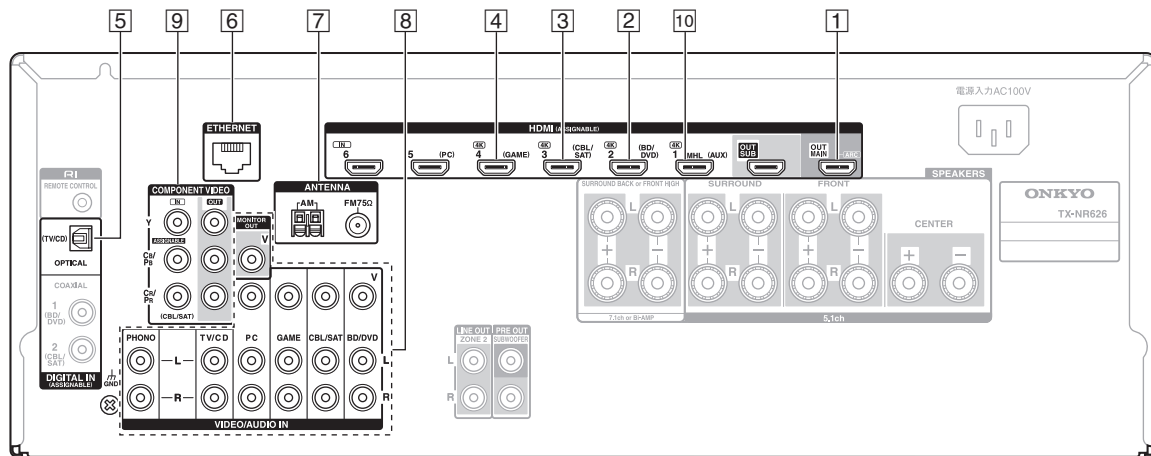
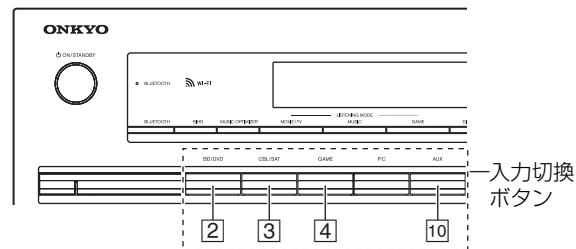
- 本機には、インピーダンスが4～16オームのスピーカーを接続してください。インピーダンスが4オーム以上6オーム未満のスピーカーを1台でも接続するときは、必ず「**インピーダンス**」を「**4オーム**」（➔ P.59）に設定してください。小さいインピーダンスのスピーカーをお使いの場合、アンプのボリュームを長時間に渡って大音量に設定して使用すると、内蔵されている保護回路が作動する場合があります。
- スピーカーコードが、必要以上に長かったり細かったりすると、音質に影響を与えることがあります。そのようなコードは使用しないでください。
- プラスのコードとマイナスのコードをショートさせないでください。故障の原因になります。
- コードの芯線を本機の後面パネルと接触させないでください。故障の原因になります。

- スピーカー端子に2本以上のコードを接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーを複数の端子に接続しないでください。

バイアンプ接続をする

重要

- バイアンプ接続を行うときは、スピーカーのツイーター（高音）端子とウーファー（低音）端子をつなぐショート金具を必ず取り外してください。
- バイアンプ接続に対応するスピーカーのみ使用可能です。詳しくはスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

バイアンプ接続に対応したスピーカーを接続し、低音域と高音域の音質を向上させることができます。
バイアンプ接続では、最大5.1チャンネル再生になります。
図のように**FRONT**端子と**SURROUND BACK or FRONT HIGH**端子を使用して接続してください。
バイアンプ接続が完了し、本機の電源を入れたら、スピーカーセッティングを「**バイアンプ**」にしてください（➔ P.59）。

テレビやAV機器を接続する

電源コードを接続する前に、すべての接続が完了していることを確認してください。セットアップメニューをテレビの画面に表示するにはテレビとHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）が必要です。

入力切換ボタンを選ぶと、割り当てられた端子に接続した機器の信号が再生されます。

- AV機器の接続を行う場合は、AV機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- プラグは奥までしっかり押し込んでください（ノイズや誤動作の原因になります）。
- ケーブル同士の接触を防ぐため、映像・音声ケーブルや電源・スピーカーコードが接近しないようにしてください。

接続方法について

1 テレビのHDMI入力端子と接続します。お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）*1機能に対応していない場合は、本機をHDMIケーブルで接続すると同時に、光デジタルケーブルで5の接続をする必要があります。

また、**HDMI OUT SUB**端子に、もう1系統テレビを接続することができます。

*1 テレビの音声を本機の1の端子に伝送する機能です。テレビと本機の接続はHDMIケーブル1本のみで可能となります。

2 ブルーレイディスクやDVDプレーヤーなどと接続してください。

3 衛星放送やケーブルテレビチューナーなどと接続してください。

4 ゲーム機などと接続してください。

6 ルータとイーサネットケーブルで接続してください。接続すれば、ネットワーク機能をご利用いただけます。

7 付属のAM/FM室内アンテナを接続してください。

8 ピンケーブルで接続してください。この接続で、別室（ゾーン2）に居ながら入力機器の音声を聴くこともできます。

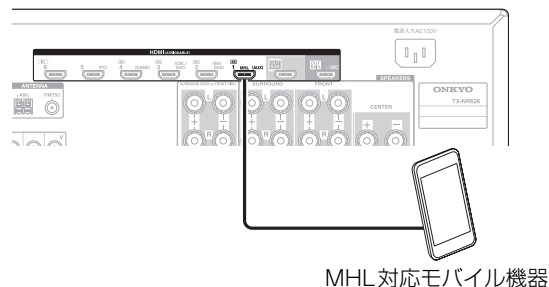
9 コンポーネントビデオケーブルで接続してください。

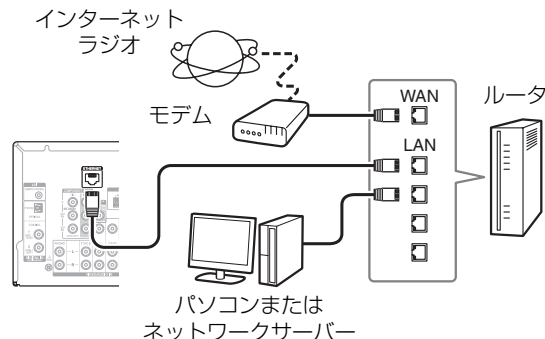
10 ビデオカメラやMHL対応モバイル機器などと接続してください。

ヒント

- HDMI接続したAV機器の音声をテレビのスピーカーで聴く場合は、「**HDMIスルー**」設定を有効にし（➔ P.68）、本機をスタンバイ状態にします
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーで、上記の操作をしても音声が出ないときは、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー側でHDMI音声出力の設定をPCMにしてください。
- フォノプリアンプ内蔵のレコードプレーヤー（MM）を**TV/CD IN**端子に接続します。フォノプリアンプを使用しない、または内蔵していない場合は、**PHONO IN**端子に接続してください。
  可動コイル（MC）カートリッジタイプの場合、本機に対応するMCヘッドアンプまたはMC変圧器を**PHONO IN**端子に接続してください。詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
  アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の**GND**端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。

■MHL（Mobile High-definition Link）

本機後面パネルの**HDMI IN 1**端子は、MHL（Mobile High-definition Link）に対応しており、接続したMHL対応モバイル機器から映像と音声を送信できます。

ネットワーク機器の接続（任意接続）

ネットワーク機器がそろったら、以下のように接続して、ホームネットワーク（LAN）を構築します。
本機は無線LAN接続もできます。接続方法は「無線LANの設定をする」をご覧ください（➔ P.31）。

本機の**USB**端子にパソコンを接続しないでください。本機の**USB**端子にはパソコンから音声を入力できません。

お買い上げ時の入力切換ボタンと端子の割り当ては、下記の通りです。これらの設定は、変更できます（コンポジットビデオ/アナログオーディオ端子の割り当ては、変更出来ません）。

入力切換ボタン	HDMI端子	COMPONENT VIDEO端子	DIGITAL IN COAXIAL /OPTICAL端子	コンポジットビデオ/アナログオーディオ端子
BD/DVDボタン	**HDMI IN 2**		**DIGITAL IN COAXIAL 1**（同軸）	**VIDEO/AUDIO IN BD/DVD**
CBL/SATボタン	**HDMI IN 3**	**COMPONENT VIDEO IN**	**DIGITAL IN COAXIAL 2**（同軸）	**VIDEO/AUDIO IN CBL/SAT**
GAMEボタン	**HDMI IN 4**			**VIDEO/AUDIO IN GAME**
PCボタン	**HDMI IN 5**			**VIDEO/AUDIO IN PC**
AUXボタン	**HDMI IN 1**			**VIDEO/AUDIO IN AUX**
TV/CDボタン			**DIGITAL IN OPTICAL**（光）	**AUDIO IN TV/CD**
PHONOボタン				**AUDIO IN PHONO**

RIHD

本機は、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動動作を行うことができ、RIHDと呼んでいます。本機をRIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー、レコーダーに接続してお使いになると、いろいろなリンク操作ができます。
お買い上げ時の設定はオフになっておりますので、オンに設定を変更する必要があります。
初期設定の後に設定してください。

RIHDと互換性のある機器について

下記の製品がRIHDと互換性があります（2013年1月現在）。最新の情報は、オンキヨーホームページでご確認ください。

■テレビ【順不同】

- パナソニック製のビエラリンク対応テレビ
- 東芝製のレグザリンク対応テレビ
- 日立製のWoooリンク対応テレビ
- ソニー製のブラビアリンク対応テレビ*1
- シャープ製のAQUOSファミリンク対応テレビ

*1 当社が独自の調査で動作確認した結果です。

■プレーヤー、レコーダー【順不同】

- オンキヨー製、インテグラ製のRIHD対応プレーヤー
- パナソニック製のビエラリンク対応プレーヤー、レコーダー（パナソニック製のビエラリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- 東芝製のレグザリンク対応プレーヤー、レコーダー（東芝製のレグザリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- シャープ製のAQUOSファミリンク対応プレーヤー、レコーダー（シャープ製のテレビと合わせてお使いの場合のみ）

* 上記以外の機器でもHDMI規格のCECに対応していれば連動する可能性がありますが、動作は保証されません。

ご注意

- 連動機能が適切に働くように、HDMI端子には以下の台数より多くのRIHD対応機器を接続しないでください。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー：最大3台
- ブルーレイディスク/DVDレコーダー：最大3台
- ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大4台
- 本機にHDMIを介して他のAVレシーバーを接続しないでください。
- RIHD対応機器が上記より多く接続されている場合には、連動機能は保証いたしかねます。

RIHD接続をするとできる操作

■ RIHDと互換性のあるテレビの場合

本機をRIHDと互換性のあるテレビに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

- テレビの電源をスタンバイ状態にすると本機もスタンバイ状態に切り換わります。
- テレビのメニュー画面で、音声を本機に接続したスピーカーから音を出すか、あるいはテレビのスピーカーから音を出すかを設定できます。
- テレビのアンテナや外部入力の映像・音声も本機に接続したスピーカーから音を出すことができます。(HDMIケーブル以外に光デジタルケーブル等の接続が必要です。)
- テレビのリモコンで本機の入力を選択できます（東芝製のテレビのみ）。
- テレビのリモコンで本機の音量調整やその他の操作ができます。

■ RIHDと互換性のあるプレーヤー/レコーダーの場合

本機をRIHDと互換性のあるプレーヤー/レコーダーに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

- プレーヤー/レコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器の接続されているHDMI入力に切り換わります。
- 本機に付属のリモコンでプレーヤー/レコーダーの操作ができます。

* お使いの機器によっては、すべての機能が働くわけではありません。

ご注意

- **HDMI IN**端子に接続された機器を「**TV/CD**」入力に割り当てた場合、適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。

設定の確認をする

1. すべての接続機器の電源を入れます。
2. テレビの電源を切り、リンク動作によって接続機器の電源が自動で切れることを確認します。
3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーの電源を入れます。
4. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーを再生して、以下のことを確認します。
   - 本機の電源が自動で入り、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーを接続している入力が選択される。
   - テレビの電源が自動で入り、本機を接続している入力が選択される。
5. お使いのテレビの取扱説明書をご覧になりながら、テレビのメニュー画面から「テレビのスピーカーの使用」を選び、テレビのスピーカーから音が出て本機に接続したスピーカーから音が出ないことを確認します。
6. テレビのメニュー画面から、「本機に接続したスピーカーの使用」を選び、本機に接続したスピーカーから音が出てテレビのスピーカーから音が出ないことを確認します。

ご注意

- DVDオーディオ、スーパーオーディオCDの音声はテレビのスピーカーから音声が出ないことがあります。DVDプレーヤーの音声出力設定を2ch PCMに設定すれば、テレビのスピーカーから音を出すことができるようになります。(プレーヤーによっては、できないことがあります。)
- テレビのスピーカーから音を出す操作をしても、本機の音量調整や入力の切り換え操作をすると、本機に接続したスピーカーから音が出るようになります。テレビから音を出したいときは、もう一度テレビの操作をやり直してください。
- RIやRI EX対応機器と接続してご使用の場合で動作がうまくいかないときは、RIケーブルを外して操作してみてください。
- テレビの入力を、本機が接続されたHDMI端子以外を選ぶと、本機の入力は「**TV/CD**」に切り換わります。
- 本機は、必要と判断したとき、連動して自動的にパワーオンします。RIHD対応テレビやプレーヤー・レコーダーと接続してお使いの場合でも、必要ないときは本機はパワーオンしません。テレビ側の設定で、音声をテレビから出力するように設定していると、連動してパワーオンしないことがあります。
- 組み合わせる機器により、本機との連動動作が働かない場合があります。この場合は、本機を直接操作してください。
- 本機のリモコンで、RIHDを利用してプレーヤー/レコーダーの操作ができないときは、その機器がRIHDやCECのリモコン操作に対応していないことが考えられます。リモコンにその機器のメーカーのリモコンコードを登録してご使用ください。

接続のヒント

映像と音声信号の流れ

本機はAV機器とテレビの間に接続してください。AV機器の信号は本機を介してテレビに伝送されます。テレビの音声も本機で楽しむことができます。

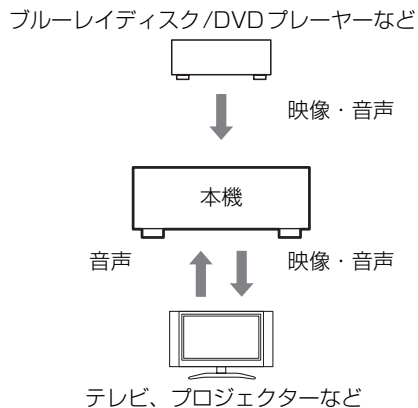
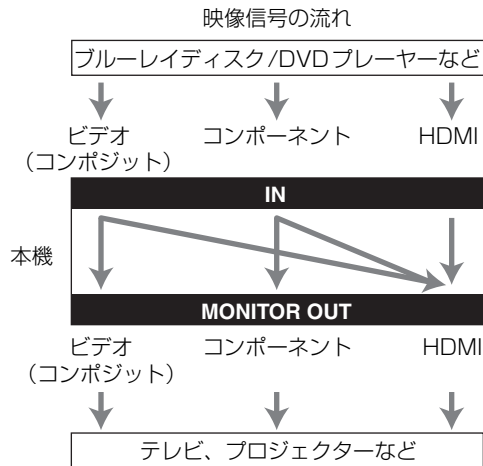
ブルーレイディスク/DVDプレーヤーなど

映像・音声

本機

音声

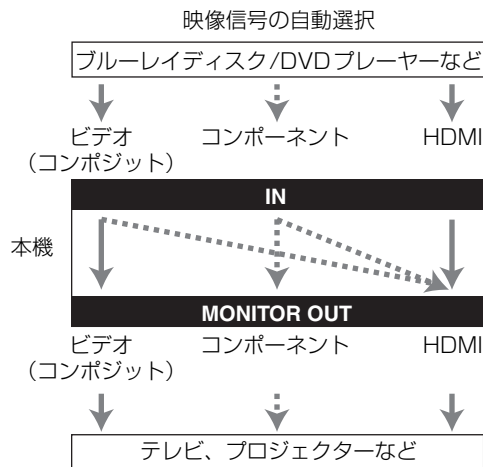
映像・音声

テレビ、プロジェクターなど

映像関連機器は、ビデオ（コンポジット）、コンポーネント、HDMIの3種類の映像入出力端子に接続できます。一番画質のよい接続形式はHDMIになります。
コンポジット映像入力端子、コンポーネント映像入力端子に入力された映像信号は変換されてHDMI出力端子から出力されます。

コンポジット映像入力端子、コンポーネント映像入力端子に入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。

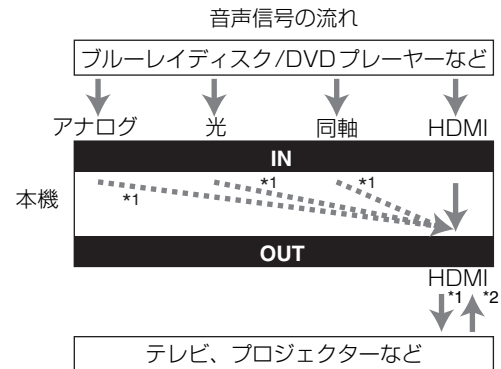
ご注意

- コンポーネント映像入力端子に入力された映像信号を、変換してHDMI出力端子から出力するには、再生機器の出力解像度を480iに設定してください。480p以上の解像度で入力があった場合は、エラーメッセージが表示されます。

■映像信号の自動選択について

1つの入力系統に、複数の映像信号が入力されている場合は、HDMI、コンポーネントビデオ、ビデオ（コンポジット）の順で優先出力されます。
ただし、コンポーネントビデオの場合、信号が入力されてなくても、割り当てを行っていれば、優先されます。また、入力を割り当ててない場合は、信号が入力されていないことになります。
図のように、HDMI入力端子とコンポジット映像入力端子から映像信号が入力された場合、変換されたコンポジット映像入力端子からの映像信号は出力されず、HDMI入力端子からの映像信号が自動的に選ばれて、HDMI出力端子から出力されます。

- 映像変換機能を切るには「**ピクチャーモード**」を「**バイパス**」に設定してください（➔ P.64）。

音声関連機器は、アナログ、デジタル（光、同軸）、HDMIの音声入出力端子に接続できます。
本機は、デジタル入力信号を変換して、アナログ出力することはできません（またその逆も行いません）。

1つの入力系統に複数の音声信号が入力されている場合は、HDMI、デジタル（光、同軸）、アナログの順で優先出力されます。

[*1] 「**テレビオーディオ出力（メイン）**」または「**テレビオーディオ出力（サブ）**」の設定によって異なります（➔ P.68）。

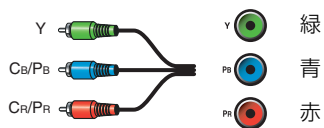
[*2] ARC機能対応テレビで、「**Audio Return Channel**」を「**自動**」に設定すると（➔ P.69）、テレビの音声が本機に入力されます。「**TV/CD**」入力切換を選び、ARC機能対応テレビである必要があります。

ヒント

- HDMI入力からの音声を出力している場合は、表示部の**HDMI**表示が点灯します。OPTICAL（オプティカル）入力またはCOAXIAL（コアキシャル）入力からの音声を出力している場合は、表示部の**DIGITAL**（デジタル）表示が点灯します。アナログ入力からの音声を出力している場合は、**HDMI**表示と**DIGITAL**表示のどちらも点灯しません。

接続に必要なケーブルの名称と接続端子の形状

■ HDMIケーブル
映像信号と音声信号をデジタル伝送します。

■ コンポーネントビデオケーブル
ビデオケーブル（コンポジット）より高画質な映像信号を伝送します。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。

■ ビデオケーブル（コンポジット）
標準的な映像信号用の端子で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。

■ 光デジタルケーブル（OPTICAL（オプティカル））
PCM*1、Dolby DigitalやDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は同軸デジタルと同レベルです。

■ 同軸デジタルケーブル（COAXIAL（コアキシャル））
PCM*1、Dolby DigitalやDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は光デジタルと同レベルです。

オレンジ

■ オーディオ用ピンケーブル
アナログ音声信号を伝送します。

白
赤

*1 PCM入力信号（ステレオ/モノラル）で利用できるサンプリングレートは、32、44.1、48、88.2、96 kHz（キロヘルツ）です。HDMI接続の場合は、176.4、192kHzも利用できます。

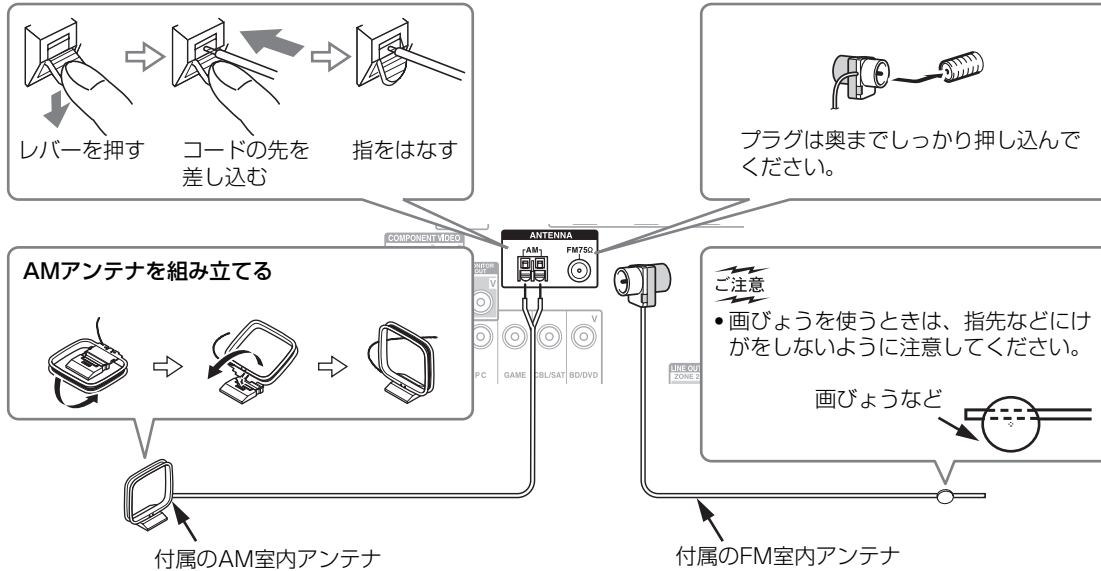
光デジタル入力端子について

本機の光デジタル入力端子は、すべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして、光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

アンテナを接続する

付属のAM/FM室内アンテナを接続して、内蔵チューナーでAM/FM放送を聴くことができます。
内蔵チューナーを使用する場合、必ずアンテナを接続してください。アンテナを接続していない場合、AM/FM放送を受信できません。

ご注意

- アンテナ接続が完了したら、放送を聴きながら受信状態が良好になるようアンテナの位置を変えたり向きを調整してください。
- AMアンテナは、本機、テレビ、スピーカーコード、電源コードからは、できるだけ離してください。

ヒント

- 付属のAM室内アンテナできれいに受信できない場合は、市販の屋外アンテナを使用してください。
- 付属のFM室内アンテナできれいに受信できない場合は、市販の屋外アンテナを使用してください。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品に、RIケーブルとオーディオ用ピンケーブルを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです（本機には付属していません）。
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。

1 **各オンキヨー製機器が、オーディオ用ピンケーブルで接続されていることを確認してください（接続例の接続8）（➔ P.19）**

2 **RIケーブルを接続します（図をご覧ください）**

3 **RIドックやカセットテープデッキを使う場合は、入力表示を切り換えます（➔ P.49）**

RI（リモートインタラクティブ）機能で、以下のシステム機能を利用できます。

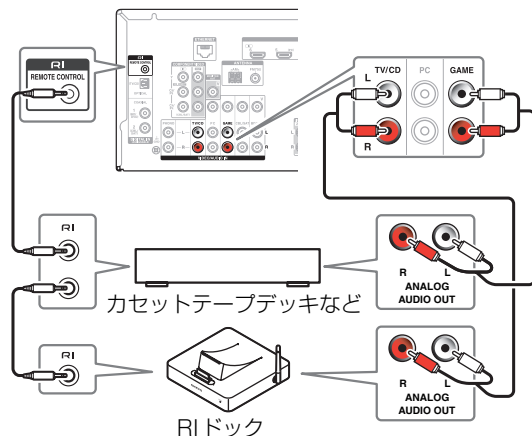
■ システムオンとオートパワーオン

本機がスタンバイモードになっている状態で、RI接続されている機器の再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、該当する機器が入力ソースに選ばれます。

■ ダイレクトチェンジ

RI接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

■ リモコン操作

本機のリモコンを使って、RIに対応している
オンキヨー製機器を操作できます。リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作します。RI専用リモコンコードを登録してください（➔ P.74）。

ご注意

- 製品によっては、RI接続をしても、一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は、順序の指定はありません。
- RI端子が２つある場合、２つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、オンキヨーオーディオコールセンターにお問い合わせください。
- ゾーン２への出力をオンにしている場合、連動機能は働きません。

ヘッドホンで聴く

1 **標準プラグ（φ6.3 mm）のステレオヘッドホンを、PHONES端子に接続する**

ヘッドホンをPHONES端子に接続している間、🎧表示が点灯します。

ご注意

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。（ゾーン２スピーカーはオフになりません。）
- Pure Audio、Stereo、MonoまたはDirect以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると、自動的にStereoリスニングモードになります。

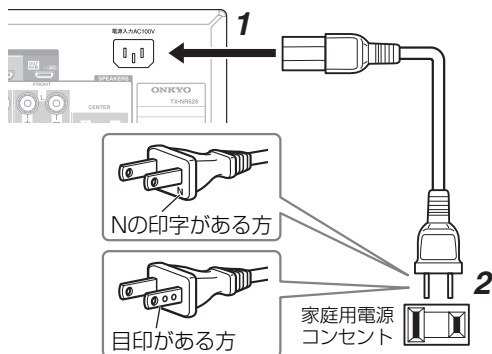
電源のオン・オフと基本操作をする

本機の電源を入れる・切る

電源コードを接続する

1 **付属の電源コードを、本機の電源入力AC100V端子に接続します**

2 **電源コードをコンセントに接続します**

付属の電源コードは、より良い音でお聴きいただくために極性の管理がされています。
電源コードには下記の2つのタイプがあります。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

ご注意

- **電源コードを接続する前に、すべての接続が完了していることを確認してください。**
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。
- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で、**電源入力AC100V**端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

電源を入れる

1 **前面パネルの⏻ON/STANDBYボタンを押す**

または

リモコンのRECEIVERボタンを押して⏻RECEIVERボタンを押す

■簡単初期設定を行う

本機をスムーズに使っていただくために、本機を初めて使用する前に簡単なステップで設定することができます。詳しくは「初期設定 (設定ウィザード)」をご覧ください (➔ P.27)。

電源を切る

1 **前面パネルの⏻ON/STANDBYボタンを押す**

または

リモコンのRECEIVERボタンを押して⏻RECEIVERボタンを押す

本機がスタンバイ状態になります。本機の電源を入れたときに、大きな音が鳴って驚かないように、必ず音量を下げてから電源を切るようにしてください。

ヒント

- 本機の設定状況によっては、**HYBRID STANDBY**インジケーターが点灯する場合があります。(➔ P.27)
- 電源の設定については、「自動スタンバイ」をご覧ください（➔ P.69）。
- スタンバイ状態時にHDMIスルーが設定されていないと、MHL対応モバイル機器を接続しても充電されません。

ファームウェアアップデート通知

ファームウェアの更新が可能な場合「**最新のファームウェアがリリースされました**」というメッセージを表示して通知します。このメッセージが表示されるのは、本機をインターネットに接続している場合に限ります（➔ P.20、31）。画面の指示にしたがって更新を行ってください。

▲/▼ボタンで以下のいずれかを選び**ENTER**ボタンを押す

- **アップデートします**：
  アップデートを開始します。「ファームウェアの更新について」をご覧ください（➔ P.89）。
- **後でアップデートします**：
  次回本機の電源を入れた時に再通知します。
- **アップデートしません**：
  今後、アップデートを通知しません。

ヒント

- この通知を行うか否かは「**アップデート通知**」で設定が可能です（➔ P.70）。

HYBRID STANDBYインジケーターについて

電源回路の最適化により、本機がスタンバイ状態時の消費電力の上昇を抑えられる機能です。**HYBRID STANDBY** インジケーターは以下のいずれかの場合に点灯します。

- 「**HDMIスルー**」を有効に設定している場合（HDMI表示は消灯します）。
- 「**ネットワークスタンバイ**」を有効に設定している場合（NET表示は消灯します）。

ご注意

- 別室（ゾーン）をオンにしている、または**HDMI IN 1**（MHL）入力端子に接続しているMHL（Mobile High-definition Link）対応のモバイル機器を充電している場合、**HYBRID STANDBY** インジケーターは点灯しません。

初期設定（設定ウィザード）

初めて本機の電源を入れると、本機を使用する前に行なっていただきたい設定のウィザードが起動します。テレビ画面に表示されるガイダンスを見ながら誰にでも簡単に行っていただくことができます。

ヒント

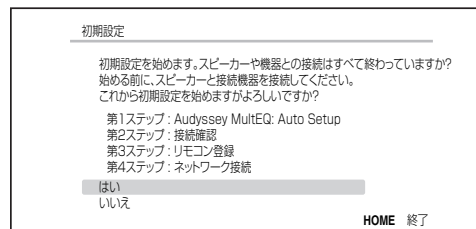
- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。

オンスクリーンディスプレイの言語を選択する

このステップでは、オンスクリーンディスプレイの表示言語を選択して設定します。「**OSD設定**」の「**言語(Language)**」をご覧ください（➔ P.67）。

ヒント

- **HOME**ボタンを押すと設定画面が閉じてしまいます。初期設定を再起動するには「**ハードウェア設定**」メニューで「**初期設定**」を選んでください（➔ P.71）。

言語選択の後に初期設定の開始画面が表示されます。

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選び ENTERボタンを押す

▸ **はい**：
「Audyssey MultEQ: Auto Setup」へ進みます。

▸ **いいえ**：
設定をスキップして初期設定を終了します。「初期設定を終了する」に進んでください（➔ P.28）。「**ハードウェア設定**」メニューで「**初期設定**」を選ぶと、いつでも初期設定の再起動ができます（➔ P.71）。

Audyssey MultEQ: Auto Setup

このステップでは、自動スピーカー設定を行います。

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選び ENTERボタンを押す

▸ **今**：
画面の指示に従って自動スピーカー設定を行います。「自動スピーカー設定を使う」の手順2以降をご覧ください（➔ P.29）。この設定を行った後に「**接続確認**」へ進みます。

▸ **後で設定します**：
自動スピーカー設定をスキップします。**ENTER**ボタンを押して「**接続確認**」へ進みます。

接続確認

このステップでは、ソース機器の接続を確認します。

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTER（エンター）ボタンを押す

- **はい、続けます**:
  接続を確認します。
- **いいえ、とばします**:
  接続確認をスキップして「**リモコン登録**」へ進みます。

2 接続を確認したいセレクタを選びENTERボタンを押す

選択しているソース機器の映像/音声が表示されます。

3 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

- **はい**:
  手順４へ進みます。
- **いいえ**:
  エラーの原因が表示されます。画面の指示に従って接続を再度確認してください。

4 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

- **はい**:
  手順２に戻ります。
- **いいえ、確認を終了します**:
  確認を終了して「**リモコン登録**」へ進みます。

リモコン登録

このステップでは、本機のリモコンで操作したいソース機器のリモコンコードを入力します。

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

- **はい**:
  リモコンコードの入力を行います。「リモコンコードを検索する」の手順５以降をご覧ください（➔ P.73）。
- **いいえ、とばします**:
  設定をスキップして「**ネットワーク接続**」へ進みます。

2 入力が完了したら▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

- **はい、完了しました**:
  設定を終了して「**ネットワーク接続**」へ進みます。
- **いいえ、まだ続けます**:
  他のリモコンコードを入力します。

ネットワーク接続

このステップでは、ネットワークの接続を確認します。

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

- **はい**:
  接続を確認します。
- **いいえ、とばします**:
  設定をスキップして初期設定を終了します。

2 画面の指示に従ってネットワークの接続を確認する

「**接続に成功しました。**」というメッセージが画面中央に表示されたらチェックは完了です。**ENTER**ボタンを押して初期設定を終了します。

ヒント

- 「**ワイヤレス**」を選択した場合は、無線LANの設定を行ってください。
  詳しくは「無線LANの設定をする」をご覧ください（➔ P.31）。これで初期設定は、終了します。

3 エラーメッセージが表示されたら▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

- **再試行**:
  再度、接続を確認します。
- **いいえ、後で設定します**:
  確認をスキップして初期設定を終了します。「初期設定を終了する」へ進んでください。

初期設定を終了する

初期設定を終了します。

1 ENTERボタンを押す

初期設定を再起動するには「**ハードウェア設定**」メニューで「**初期設定**」を選んでください（➔ P.71）。

自動スピーカー設定を使う

付属の測定用マイクを使って、自動的にスピーカーの数、音量レベルの調整、各スピーカーの最適なクロスオーバー周波数、および視聴位置からの距離を測定します。
また、部屋の中の様々な環境により生じる音のひずみを補正しますので、クリアでバランスのよい音になります。

Audyssey（オーディシー） MultEQ（マルチ）® 機能を使用することで、
Audyssey Dynamic（ダイナミック） EQ®機能を利用できるようになります。Audyssey Dynamic EQの働きにより、どの音量でも適切な音のバランスを保つことができます（➔ P.62）。

この機能を使用する前に、使用するすべてのスピーカーを接続してください。

自動スピーカー設定には「**Audyssey簡単測定**」と「**Audyssey MultEQ通常測定**」の２種類の測定方法があります。

- 「**Audyssey簡単測定**」は１ヶ所の測定位置から視聴環境を構築します。
- 「**Audyssey MultEQ通常測定**」は最大６ヶ所の測定位置から視聴環境を構築します。

測定箇所が多いほど、よりよい視聴環境を構築できます。

最適な視聴環境を構築するためには、６ヶ所での測定をお勧めします。

設定に必要な時間は１ヶ所で約２分、６ケ所で約15分かかります。

スピーカーの数によって時間は変わります。

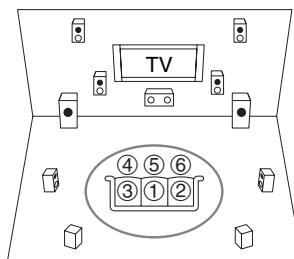
測定手順

ホームシアターで、すべての視聴者が楽しめる視聴環境を構築するために、視聴エリア内で最大６ヶ所の測定を行います。お手持ちの三脚台などを使用して視聴者が座った状態の耳の高さに測定用マイクを設置し、マイクの先端が天井を向くように固定してください。測定中に、マイクを直接手で握っていると、正確に測定できません。

■最初に測定する位置

視聴エリアの中心、または１人で視聴するときに座る位置です。Audyssey MultEQでは、この位置の測定値に基づいて、スピーカーの距離、音量、最適なクロスオーバー値を計算します。

■２～６番目に測定する位置

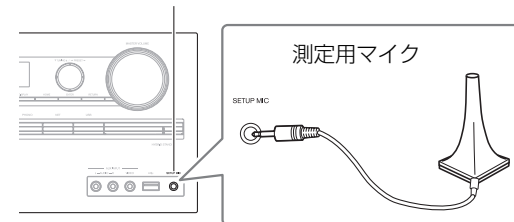
１回目の中心位置以外の視聴位置を最高５ヶ所まで測定します。

◯：視聴エリア　　①～⑥：マイク測定位置

ご注意

- 測定中は、部屋をできるだけ静かにしてください。周囲の雑音や無線周波妨害（RFI）があると、部屋の測定が中断される場合があります。窓を閉めて、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯、家電機器、調光器、その他の機器を停止してください。携帯電話は（使用中でなくても）電源を切るか、すべてのオーディオ機器から離れた場所に置いてください。
- 自動スピーカー設定が実行されると、各スピーカーから再生されるテスト音をマイクが拾います。
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。

1 **本機の電源と、接続しているテレビの電源を入れる**

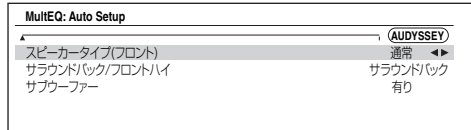
テレビの入力を、本機に接続した入力へ切り換えてください。

2 **付属の測定用マイクを、測定位置①に設置してから、マイクのプラグを本機のSETUP（セットアップ） MIC（マイク）端子に接続する**

スピーカー設定メニューが表示されます。

ご注意

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT（アウト） MAIN（メイン）**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

3 設定が完了したら、ENTER（エンター）ボタンを押す

MultEQ: Auto Setup
AUDYSSEY
スピーカータイプ(フロント) 通常 ◄►
サラウンドバック/フロントハイ サラウンドバック
サブウーファー 有り

スピーカーの構成に応じて「スピーカー設定」を行ってください。

- スピーカータイプ(フロント)（➔ P.59）
- サラウンドバック/フロントハイ（➔ P.59）
- サブウーファー（➔ P.59）

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合は手順4へ、そうで無い場合は手順5へ進んでください。

4 サブウーファーの音量レベルを75dBに調整し、ENTERボタンを押す

サブウーファーからテスト音が出ます。サブウーファーの音量を調整してください。

ご注意

- お使いのサブウーファーに音量調整がない場合は、画面に表示される音量レベルは無視して、**ENTER**ボタンを押して次の手順に進んでください。
- サブウーファーの音量調整を最大まで上げても、画面に表示される音量レベルが75dBよりも低い場合は、**ENTER**ボタンを押して次の手順に進んでください。

5 ▲/▼ボタンを押して「Audyssey簡単測定」または「Audyssey MultEQ通常測定」を選び、ENTERボタンを押す

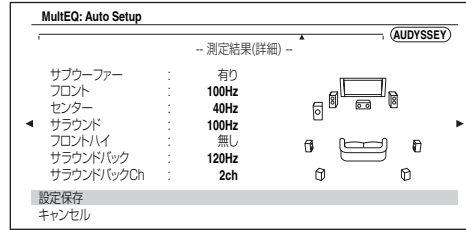
6 ENTERボタンを押す

自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながら、マイクで測定します。
完了するまで数分かかります。
自動スピーカー設定中は、話したり、スピーカーとマイクの間に立ったりしないでください。
測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。
「**Audyssey簡単測定**」を選んでいる場合、手順9に進んでください。

7 マイクを次の測定位置に設置し、ENTERボタンを押す

測定が再開されます。完了するまで数分かかります。

8 画面にしたがって、手順7をくり返す

9 ▲/▼ボタンを押して項目を選び、ENTERボタンを押す

以下の選択項目があります。

▸**設定保存**：
計算結果を保存して終了します。

▸**キャンセル**：
結果をキャンセルして終了します。

ヒント

- 詳細、距離、音量レベルの測定結果は、◄/►ボタンで表示切り換えできます。

10 ▲/▼ボタンを押して項目を選び、◄/►ボタンを押して設定を変更する

自動スピーカー設定の測定結果を保存すると、「Audyssey」（➔ P.62）、「Dynamic EQ」（➔ P.62）、「Dynamic Volume」（➔ P.62）設定がメニューに表示されます。

ご注意

- 測定方法で「**Audyssey簡単測定**」を選んだ場合、「Audyssey」は選択できません。
- これらの設定は、すべての入力セレクタに適用されます。

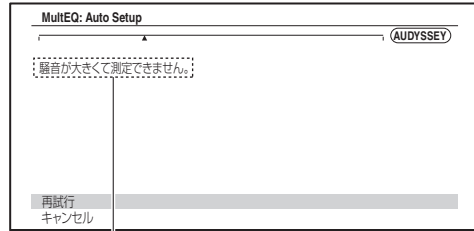
11 ENTERボタンを押す

12 マイクを取り外す

ご注意

- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中は、スピーカーを接続したり、外したりしないでください。
- ミューティング機能が設定されていると、解除されます。
- 自動スピーカー設定を行ったあとに、スピーカーの配置を変えたり、部屋のレイアウトを変更した場合は、部屋内の音域特性が変化しています。自動スピーカー設定をやり直してください。
- スピーカーの数を変更した場合は、再度自動スピーカー設定を行ってください。

エラーメッセージ

自動スピーカー設定中、以下のいずれかのエラーメッセージが表示される場合があります。

エラーメッセージ

以下の選択項目があります。

▸**再試行**：
再度測定します。
（測定していたポイントから再開します）

▸**キャンセル**：
結果をキャンセルして終了します。

- **騒音が大きくて測定できません**
  測定環境の雑音が大きすぎて、測定できません。雑音の原因を取り除いてください。
- **1周目とスピーカーの数が違います**
  検出されたスピーカーの数が、最初の測定時と異なります。スピーカーの接続を確認してください。
- **保存に失敗しました**
  測定結果の保存に失敗しました。
  2、3度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障している可能性があります。
  お買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。
- **スピーカーを検出できません**
  このメッセージは、スピーカーが検出されないときに表示されます。「**無し**」は、スピーカーが検出されなかったことを表しています。

ヒント

- 正しいスピーカー構成については、「スピーカーの配置」をご覧ください（➔ P.16）。

スピーカーの設定は手動で行うこともできます。また、各スピーカーの音量レベルの強弱も手動で設定ができます（➔ P.60）。

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。
「**測定結果（詳細）**」画面の「**サブウーファー**」が「**無し**」と表示される場合は、サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。音量を大きく設定し過ぎて音が歪む場合は、検出に関する問題が発生する可能性があります。適切な音量に設定してください。

カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、Off（オフ）あるいはDIRECT（ダイレクト）の状態にしてご使用ください。カットオフ周波数をOffにできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

無線LANの設定をする

無線LAN接続でインターネットラジオやDLNA機能などを楽しむことができます。接続には無線LANルータなどのアクセスポイントと本機との接続設定が必要です。

■事前にお調べください

設定には「自動設定」と「手動設定」があります。無線LANルータに「WPSボタン」[*1]が付いていると自動設定が可能です。付いていない場合は、手動設定を行ってください。無線LANルータが「WPS対応」でない場合は、無線LANルータのSSIDとパスワード（セキュリティキーと呼ばれることもあります）が本体ラベルに記載されている場合がありますので、メモに控えてください。なお、WPSボタンが付いている場合でも手動設定が可能です。

*1 WPSボタンはWi-Fi Allianceの規格です。ルータメーカーによって呼称が異なる場合があります。

「**初期設定**」(設定ウィザード) から設定する場合は、「手順***2***」へお進みください。セットアップメニュー（**HOME**）から設定する場合は、「手順***1***」へお進みください。

1 「ワイヤレス セットアップ」画面をテレビ画面に表示させる

① **リモコンのRECEIVER（レシーバー）ボタンを押して、HOME（ホーム）ボタンを押す**

② **◄/► ボタンまたは▲/▼ボタンで「セットアップ」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す**

③ **▲/▼ボタンで「ハードウェア設定」を選び、ENTERボタンを押す**

④ **▲/▼ボタンで「ネットワーク」[*2]を選び、ENTERボタンを押す**

⑤ **▲/▼ボタンで「ネットワーク接続」を選び、◄/►ボタンで「ワイヤレス」を選んでからENTERボタンを押す[*3]（➔ P.70）**

「**ワイヤレス セットアップ**」画面が表示されます。

*2「**ネットワーク**」の文字がグレー表示されて選べない場合は、しばらくお待ちください。ネットワークが起動すると選べるようになります。
*3 この操作の時、反応が鈍いことがあります。しばらくお待ちください。

2 自動か手動か、設定方法を選ぶ

▲/▼ボタンを押して「**自動セットアップ**」または「**手動セットアップ**」を選び、**ENTER**（エンター）ボタンを押してください。

3-A「自動セットアップ」の場合

■ プッシュボタン方式

1. ▲/▼ボタンを押して「**プッシュボタン**」を選び、**ENTER**ボタンを押す
2. 無線LANルータのWPSボタンを押す
   機器によってボタンを押す時間が異なりますので、ご注意下さい。
3. 画面で「**OK**」を選び、**ENTER**ボタンを押す

ヒント

- 「**PINコード**」を選ぶとPINコード方式による設定ができます。WPSボタンに手が届かない場合など、この方法を使用ください。この場合、8 桁のPINコードが表示されますので、表示されたPINコードを無線LANルータに登録します。登録方法は無線LANルータの取扱説明書をご覧ください。

3-B「手動セットアップ」の場合

画面に表示されたアクセスポイントの一覧から、▲/▼ボタンを押して接続するルータを選び、**ENTER**ボタンを押します。無線LANルータの設定に連動して自動的に次の３つのいずれかに進みます。

■ WEP方式

1. ▲/▼ボタンを押して「**デフォルトキー ID**」を選び、**ENTER**ボタンを押す
2. ▲/▼ボタンを押して１ のIDを選び、**ENTER**ボタンを押す
   ルータ側でWEPキーを変更した場合は、その番号を選びます。
3. ▲/▼ボタンを押して「**パスワード**」を選び、**ENTER**ボタンを押す
4. キーボード画面で、パスワードを入力*してから、「**OK**」を選び、**ENTER**ボタンを押す
5. 画面で「**OK**」を選び、**ENTER**ボタンを押す

*「**Shift**」を押せば大文字/小文字が切り換わります。

■ WPA/WPA2方式

1. ▲/▼ボタンを押して「**パスワード**」を選び、**ENTER**ボタンを押す
2. キーボード画面で、パスワードを入力*してから、「**OK**」を選び、**ENTER**ボタンを押す
3. 画面で「**OK**」を選び、**ENTER**ボタンを押す

*「**Shift**」を押せば大文字/小文字が切り換わります。

■ 暗号化設定なし

デフォルトキー ID およびパスワードの入力設定は必要ありません。
画面で「**OK**」を選び、**ENTER**ボタンを押してください。

ヒント

- 一覧に、お使いになるアクセスポイントが表示されない場合は、「**直接入力**」を選んで「**SSID**」などを手動で入力して設定することもできます。
- アクセスポイントを一覧から選択した場合、「**SSID**」と「**暗号方式**」は自動で表示されますが、手動で変更できるようになっています。

4 接続

接続が始まり、本体表示部の左にある**Wi-Fi**インジケーターが点滅します。接続が成功すると**Wi-Fi**インジケーターの点滅が点灯に変わります。**Wi-Fi** インジケーターが点灯に変わらない場合は接続ができていません。再度設定し直してください。また自動設定でうまくいかない場合は手動設定でもお試しください。いずれの場合でもうまくいかない場合は、「困ったときは」の「無線LANネットワーク」の項目をご覧ください(➔ **P.85**)。

5 インターネットラジオなどを楽しむ

リモコンの**RECEIVER**（レシーバー）ボタンを押してから**HOME**（ホーム）ボタンを押して、ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでください。さまざまなネット機能が楽しめます(➔ **P.33**)。

再生をする

再生をする

この章では基本的な再生操作、リスニングモード、その他の便利な機能について紹介しています。この章までをお読みいただければ、基本的な接続/設定/操作は、ご理解いただけます。

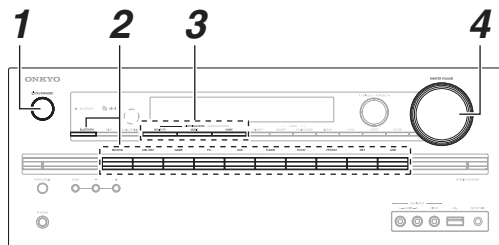
■ スクリーンセーバー

現在選んでいる入力ソースからの映像信号がない状態で、本機を操作せずに一定時間（お買い上げ時は3分）経過すると、スクリーンセーバーが起動します。

ヒント

- スクリーンセーバーが起動するまでの時間は、「**スクリーンセーバー**」設定で変更することができます（➔ P.67）。
- 本機を操作すると、もとの画面に戻ります。

以下の項目もご覧ください。

- 「Bluetooth対応機器と接続して再生する」（➔ P.35）
- 「USBストレージ内の音楽ファイルを再生する」（➔ P.36）
- 「radiko.jpを聴く」（➔ P.36）
- 「TuneInを聴く」（➔ P.37）
- 「他のインターネットラジオを登録する」（➔ P.38）
- 「ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する」（➔ P.39）
- 「共有フォルダ内の曲を再生する」（➔ P.40）
- 「リモート再生する」（➔ P.41）
- 「AM/FM放送を聴く」（➔ P.42）
- 「異なるソースの音声と映像を再生する」（➔ P.43）
- 「本機のリモコンで他の製品を操作する」（➔ P.73）
- 「オンキヨー製ドックを使う」（➔ P.77）

1 本機やテレビ、AV機器の電源を入れる

* リモコンで操作する場合は、最初に必ず**RECEIVER**（レシーバー）ボタンを押してから行ってください。

2 本機の入力切換を選び、AV機器を再生する

視聴するAV 機器を接続した入力切換ボタンを押してください。テレビの音声を再生するには、**TV/CD**ボタンを押します。テレビの入力切換えも必要です。テレビのリモコンなどを使用して、本機と接続した入力に切り換えてください。

* 本機とHDMI 接続したCEC 対応テレビやAV 機器とは入力切換が自動で行われます。その他のAV 機器については手動で入力切換を必ず行ってください。

3 お好みのリスニングモードを選ぶ

さまざまなリスニングモードをお楽しみいただけます。リモコンまたは本体のリスニングモードボタンを押すことでリスニングモードが切り換わります。

4 ボリュームを調整する

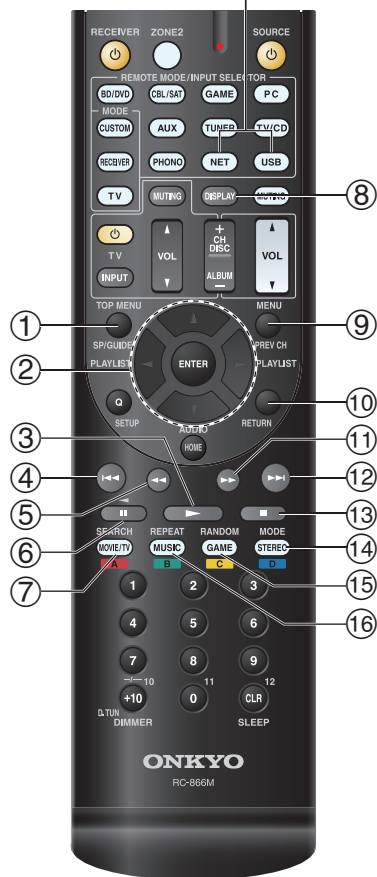
サラウンド音声をお楽しみいただけます。

ヒント

- HDMI接続した機器の音声を本機で聴く場合は、その機器の映像がテレビに映る状態にしておいてください（本機が接続されているHDMI入力をテレビ側で選んでください）。テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。

USB、ネットワーク、Bluetooth対応機器内のファイルを操作する

（➔ P.35）

最初に**USB**ボタンまたは**NET**ボタンを押してください。

Bluetooth対応機器では、►、I◄◄、◄◄、II、►►、►►I、■ボタンが操作できます。本機のリモコンで操作するには、Bluetooth対応機器がAVRCPプロファイルに対応している必要があります。機器によっては操作できない場合もあります。

①	**TOP MENUボタン** 各メディアやサーバーのトップメニューを表示します。
②	**▲/▼ボタン、ENTERボタン** 項目を選択します。
	◄/► ボタン ページを移動します。
③	**► ボタン** 再生を開始します。
④	**I◄◄ ボタン** 現在の曲の先頭を再生します。前の曲を再生するには、２回押します。
⑤	**◄◄ ボタン** 現在の曲を早戻しします。
⑥	**II ボタン** 一時停止します。
⑦	**SEARCHボタン** 再生中に再生画面とリスト画面を切り換えます。
⑧	**DISPLAYボタン** 再生中に曲情報を切り換えます。 リスト画面を表示中に**DISPLAY**ボタンを押すと再生画面に戻ります。
⑨	**MENUボタン** 各インターネットラジオサービスのメニューを表示します。
⑩	**RETURNボタン** ひとつ前の画面に戻ります。
⑪	**►► ボタン** 現在の曲を早送りします。
⑫	**►►I ボタン** 次の曲を再生します。
⑬	**■ボタン** 再生を停止します。
⑭	**MODEボタン** ネットワークサービス画面で**MODE**ボタンを押すとアイコンの配置を変更するモードに切り換わります。
⑮	**RANDOMボタン** ランダム再生します。
⑯	**REPEATボタン** リピート再生します。**REPEAT**ボタンを押すたびにリピートモードが切り換わります。

ヒント

- その他の機器の操作については「本機のリモコンで他の製品を操作する」をご覧ください（➔ **P.73**）。
- 本機はアルバムアート表示に対応しており（Bluetoothは非対応）、JPEG、PNG、BMPの画像形式を表示できます。
  ただし、以下の場合は表示できません。
  - 画像の縦横の合計画素数が2048×2048を超える。
  - 画像（JPEG/PNG）のデータサイズが４メガバイトを超える。

ご注意

- 再生するサービスやデバイスによって、動作するボタンが異なります。
- 本機で初めて**NET**入力セレクタを選んだとき、テレビに「**免責事項**」の画面が表示されます。ネットワークサービスを利用する前に必ず内容をよくお読みください。内容に同意できる場合は、「**同意する**」を選んでください。同意できない場合は、本機のネットワークサービスを利用することができません（➔ **P.88**）。

表示されるアイコンについて

このセクションでは、メディア再生中に表示部に表示されるアイコンについて説明します。

アイコン	説明
	フォルダ
	曲
	再生
	一時停止中
	早送り
	早戻し
	アーティスト
	アルバム
	1トラックリピート
	フォルダリピート（USBデバイス）
	リピート
	シャッフル

Bluetooth対応機器と接続して再生する

スマートフォンやデジタル音楽プレーヤーなどBluetooth（ブルートゥース）対応機器の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。約15メートル圏内で通信できます。

ヒント

- Bluetooth対応機器の音楽を再生するには、Bluetooth対応機器がA2DPプロファイルをサポートしている必要があります。
- SCMS-Tコンテンツ保護方式に対応しています。SCMS-Tコンテンツ保護方式に対応したBluetooth対応機器の音楽を再生できます。
- すべてのBluetooth対応機器との接続動作を保証するものではありません。

Bluetooth対応機器とペアリングする

Bluetooth対応機器の音楽を本機で楽しむときは、はじめに1回だけペアリングを行う必要があります。事前にBluetooth対応機器の「Bluetooth設定機能を有効（オン）にする方法」および「対応機器と接続する方法」の操作手順をお調べください。

1 本機をペアリングモードにする

本機フロントパネルの**BLUETOOTH**ボタンを押すと、**BLUETOOTH**インジケーターが点滅してペアリングモードになります。

2 Bluetooth対応機器を接続する

本機の**BLUETOOTH**インジケーターが点滅している間に近接した距離（1メートル程度）でBluetooth対応機器の接続操作を約2分以内に行ってください。Bluetooth対応機器の画面などで本機の名称が表示されたら、本機を選んでください。しばらくするとペアリングが完了します。

ヒント

- Bluetooth対応機器でパスワードを要求された場合、「0000」を入力してください。
- 別のBluetooth対応機器と接続する場合は、本機の**BLUETOOTH**ボタンを**BLUETOOTH**インジケーターが点滅するまで長押しするとペアリングができます。本機は最大10台のペアリング情報を記憶できます。

Bluetooth機能を使い、音楽を楽しむ

本機の電源がオンの状態のとき、Bluetooth対応機器の接続操作を行うと、自動的に「**BLUETOOTH**」入力セレクタが選ばれます。この状態で音楽ファイルを再生してください。

ヒント

- 本機の電源をオンにした状態から接続するまでは、Bluetooth機能の起動のため20秒以上かかることがあります。
- Bluetooth対応機器のボリューム設定が小さいと、本機から音声が出力されません。

ご注意

- 別室（ゾーン）に**NET**（ネット）または**USB**入力セレクタを選んでいる場合は、「**BLUETOOTH**」は選択できません。
- Bluetooth ワイヤレス技術の特性上、本機での再生音はBluetooth対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。
- 本体表示部はBluetooth対応機器名を表示する機能がありますが日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

■ リモコンでの操作

本機のリモコンで、Bluetooth対応機器を操作できます（➔ P.34）。

ヒント

- 本機のリモコンで操作するには、Bluetooth対応機器がAVRCPプロファイルに対応している必要があります。
- すべてのBluetooth対応機器に対するリモコン操作を保証するものではありません。

USBストレージ内の音楽ファイルを再生する

ヒント

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）することで、テレビに操作画面を表示できます。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。曲名などの表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

以下の手順でUSBストレージ内（USBメモリーなど）の音楽ファイルを再生します。
以下の項目もご覧ください。
- 「ネットワーク/USBについて」（➔ P.93）

1 USBボタンを押して「USB」を選ぶ

2 本機のUSB端子に音楽ファイルが入ったUSBストレージを接続する

USB表示が点灯します。点滅する場合は、USBストレージの接続をご確認ください。

3 ENTERボタンを押す

USBストレージ内のフォルダや音楽ファイルがリスト表示されます。フォルダを開くには▲/▼ボタンでフォルダを選び、**ENTER**ボタンを押してください。

4 ▲/▼ボタンを押して音楽ファイルを選び、► ボタンまたはENTERボタンを押す

選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

ご注意

- 本機の表示部に「Connecting...」が表示されているときは、本機に接続されているUSBストレージ、USBケーブルを抜かないでください。

radiko.jpを聴く

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.20、31）。

ヒント

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）することで、テレビに操作画面を表示できます。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。曲名などの表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

radiko.jpは地上波ラジオ放送をCMも含め、そのまま同時に放送エリアに準じた地域に配信するサイマルサービスです。対応（聴取可能）エリア、対応放送局について詳しくはradiko.jpのWebサイト（http://radiko.jp）をご覧ください。

1 NETボタンを押す

ネットワークサービス画面が表示され、NET表示が点灯します。点滅する場合は、ネットワークの接続が正しくされていません。有線LANで接続する設定にしている場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。無線LANで接続する設定にしている場合は、**Wi-Fi**インジケーターが点灯しているかご確認ください。

ヒント

- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

2 ▲/▼/◄/► ボタンを押して「radiko.jp」を選び、ENTERボタンを押す

本機が接続されているエリアに応じた放送局リストが表示されます。radiko.jpサービスが行われていない地域、もしくはサービス停止中の場合、エラー画面が表示されます。

3 ▲/▼ボタンを押して放送局を選び、ENTERボタンを押す

再生が開始されます。
楽曲情報を提供している放送局を選択した場合は、楽曲のアーティスト名、楽曲名が表示されます。
楽曲情報が無い放送局の場合は、番組名、出演者名が表示されます。
再生画面で、⏮/⏭ボタンを押すと、放送局が切り換わります。

以下のメニューを選択するには、放送局の再生中に**MENU**ボタンを押します。

- Today's Program：
  当日の番組一覧が表示されます。
- Tomorrow's Program：
  明日の番組一覧が表示されます。
- Program's detail：
  再生している番組の番組詳細が表示されます。
- Topics：
  番組のトピックスが表示されます。放送された楽曲のリストやおすすめ情報など、放送をより楽しむための情報が表示されます。

TuneInを聴く

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.20、31）。

ヒント

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）することで、テレビに操作画面を表示できます。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。曲名などの表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

TuneInは世界中の音楽、スポーツ、ニュースなどが聴ける新しいサービスです。TuneInが提供する7万を超えるラジオ局、そして200万を超えるオンデマンド番組が登録されており、好みのラジオ局や番組を選ぶだけで手軽に放送を楽しめます。本機ではあらかじめ、TuneInが登録されています。

1 NETボタンを押す

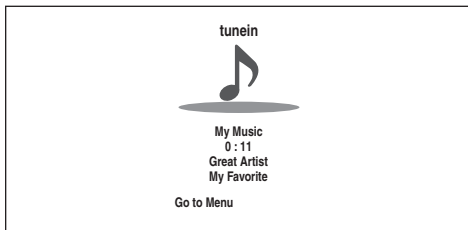
ネットワークサービス画面が表示され、NET表示が点灯します。点滅する場合は、ネットワークの接続が正しくされていません。有線LANで接続する設定にしている場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。無線LANで接続する設定にしている場合は、**Wi-Fi**インジケーターが点灯しているかご確認ください。

ヒント

- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

2 ▲/▼/◄/► ボタンを押して「TuneIn」を選び、ENTERボタンを押す

3 ▲/▼ボタンを押してラジオ局や番組を選び、ENTERボタンを押す

再生が開始されます。

リモコンの**MENU**ボタンを押す、または「Go to Menu」上で**ENTER**ボタンを押すと、以下のメニューを選択できます。

- **マイプリセットに登録**
  ラジオ局や番組を「**マイプリセット**」に登録します。
- **マイプリセットから削除**
  ラジオ局や番組を「**マイプリセット**」から削除します。
- **問題を報告する**
  TuneInサービスに関する問題を報告したり、ウィザード形式で問題の解決に活用することができます。
- **スケジュールをチェックする**
  ラジオ局や番組の番組表を表示します。
- **最近聴いたものをクリアする**
  ラジオ局や番組を「**最近聴いたもの**」から全て削除します。
- **My Favoritesに登録**
  ラジオ局や番組を「My Favorites」に登録します。

TuneInアカウントの設定

TuneIn アカウントの作成は、Internet Explorer®などのインターネットブラウザを開き、tunein.comに接続して、TuneInホームページから行うことが出来ます。
TuneInホームページではラジオ局や番組をすばやく検索、閲覧できます。
TuneInアカウントにログインしてお気に入りのラジオ局や番組を保存すれば、自動的に本機のマイプリセットに追加されて表示されます。

TuneInアカウントを持っている場合は、TuneInのトップリストから「**ログイン**」を選択し「**TuneInアカウントでログイン**」を選択して、ユーザ名とパスワードを入力してログインできます。

ヒント

- 「**登録コードでログイン**」を選択し、画面に表示される登録コードを使ってTuneInホームページのマイページからデバイスの関連付けを行うと、ユーザ名とパスワードの入力を省略してログインすることができます。

TuneInのラジオ局や番組を「My Favorites」/「マイプリセット」に登録する

TuneInの特定の番組（プログラム）を、再生しやすいようにお気に入りに登録できます。二通りの方法があります。

•「My Favorites」に登録する

NETボタンを押した後に表示されるネットワークサービス画面の「**My Favorites**」メニューに、お気に入りの番組を登録します。

1. ラジオ局または番組を選び、リモコンの**MENU**ボタンを押す
2. ▲/▼ボタンを押して「**My Favoritesに登録**」を選び、**ENTER**ボタンを押す
3. ▲/▼/◄/►ボタンを押して「OK」を選び、**ENTER**ボタンを押す

ヒント

- 「**My Favorites**」に登録したラジオ局の名前を変更することができます（➔ P.38）。

•TuneIn の「マイプリセット」に登録する

「**TuneIn**」を選び、**ENTER**ボタンを押せば、ジャンル/地域などと同じ画面に「**マイプリセット**」のフォルダが表示されます。この中にお気に入りのラジオ局や番組を登録します。

1. ラジオ局または番組を選び、リモコンの**MENU**ボタンを押す
2. ▲/▼ボタンを押して「**マイプリセットに登録**」を選び、**ENTER**ボタンを押す

ヒント

- 「**マイプリセット**」にラジオ局や番組が登録されていない場合は、「**マイプリセット**」フォルダは表示されません。

他のインターネットラジオを登録する

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.20、31）。

ヒント

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）することで、テレビに操作画面を表示できます。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。曲名などの表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。
- サービスプロバイダーがサービスを終了していると、本機でそのネットワークサービスやコンテンツを利用できなくなる場合があります。

本機は、PLS形式、M3U形式、およびPodcast（RSS）形式のインターネットラジオ局に対応しています。これらの形式のインターネットラジオ局であっても、データの種類や再生フォーマットによって、再生できないこともあります。

radiko.jpやTuneIn以外のインターネットラジオ番組を聴くには、以下の手順で番組をネットワークサービス画面の「My Favorites」メニューに登録します。

1 **セットアップ画面から「ハードウェア設定」を選び、「ネットワーク」を選んでIPアドレスを表示させる（➔ P.70）**

IPアドレスをメモに控えます。

2 **パソコンの電源を入れ、Internet Explorer®などのインターネットブラウザを開く**

3 **インターネットブラウザのURL欄に本機のIPアドレスを入力する**

Internet Explorerをご利用の場合は「ファイル」から「開く」を選び、IPアドレスを入力する方法もあります。
インターネットブラウザに本機の情報が表示されます（WEB Setup Menu）。

4 **「My Favorites」タブをクリックして、インターネットラジオ局の名前とURLを入力する**

5 **「Save」をクリックしてインターネットラジオ局を登録する**

登録したインターネットラジオ局は「My Favorites」に追加されます。再生するには**NET**ボタンを押して、ネットワークサービス画面の「My Favorites」を選んで**ENTER**ボタンを押してください。インターネットラジオ局が表示されますので、登録したインターネットラジオ局を選んで**ENTER**ボタンを押します。

ヒント

- 「My Favorites」メニューから新しいラジオ局を追加したい場合は、リスト内のブランクを選び**MENU**ボタンを押してから**ENTER**ボタンで「**新しいステーションを追加**」を選びます。再度**ENTER**ボタンを押すと、キーボード画面が表示されるので、名前とURLを入力します。
- 登録したラジオ局を削除する場合は、再生中のラジオ局またはラジオ局を選び**MENU**ボタンを押してから▲/▼ボタンで「**My Favoritesから削除**」を選び **ENTER**ボタンを押します。またWEB Setup Menuからでも削除できます。
- 登録したラジオ局の名前を変更する場合は、ラジオ局を選び**MENU**ボタンを押してから▲/▼ボタンで「**ステーション情報を変更**」を選び**ENTER**ボタンを押します。詳細は、「セレクタ名変更（名前の編集）」をご覧ください（➔ P.63）。
- インターネットラジオ局は40局まで登録できます。

ネットワークサービス画面のアイコン配置を変更する

ヒント

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら下記の設定ができます。

ネットワークサービス画面のアイコンを並べ替えて、お好みの配置にすることができます。

1 **NETボタンを押す**

ネットワークサービス画面が表示されます。

ヒント

- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

2 **リモコンのMODE/D（青色）ボタンを押す**

3 **▲/▼/◄/► ボタンで移動したいアイコンを選択してENTERボタンを押す**

4 **▲/▼/◄/► ボタンで入れ替えたいアイコンを選択してENTERボタンを押す**

アイコンが入れ替わり「**完了しました**」というメッセージが表示されます。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

本機は以下のネットワークサーバーに対応しています。

- Windows Media Player 11
- Windows Media Player 12
- DLNA準拠サーバー

詳細は「サーバーについて」をご覧ください（➔ P.93）。

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.20、31）。

ヒント

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）することで、テレビに操作画面を表示できます。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。曲名などの表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

以下の手順でネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生します。

Windows Media Playerの設定をする

■Windows Media Player 11

再生したい音楽ファイルが入っているネットワークサーバーを設定します。
ここでは、Windows Media Player 11を例として説明します。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player 11を開く**

2 **「ライブラリ」メニューから「メディアの共有」を選ぶ**
ダイアログが開きます。

3 **「メディアを共有する」チェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックする**
対応機器が表示されます。

4 **本機を選んで、「許可」をクリックする**
本機のアイコンがチェックの付いたものになります。

5 **「OK」をクリックして、ダイアログボックスを閉じる**
これで音楽ファイルを再生する準備が整いました。

■Windows Media Player 12の設定をする

ネットワークサーバーやPCに保存された音楽ファイルを本機で再生するためにWindows Media Player 12を設定します。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player12を開く**

2 **「ストリーム」メニューを開き、「メディア ストリーミングを有効にする」を選ぶ**
ダイアログが開きます。

ヒント

- メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューを開き「その他のストリーミング オプション」をクリックすると、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので手順4へ進んでください。

3 **「メディア ストリーミングを有効にする」をクリックする**
ネットワーク内の再生機器一覧が表示されます。

4 **「メディア ストリーミング オプション」で本機を選び、「許可」になっていることを確認する**

5 **「OK」をクリックして、ダイアログを閉じる**
これでWindows Media Player 12を使って本機でリモート再生をする準備が整いました。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

1 **パソコンまたはネットワークサーバーを起動する**

2 **NETボタンを押す**
ネットワークサービス画面が表示され、NET表示が点灯します。点滅する場合は、ネットワークの接続が正しくされていません。有線LANで接続する設定にしている場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。無線LANで接続する設定にしている場合は、**Wi-Fi**インジケーターが点灯しているかご確認ください。

ヒント

- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

3 **▲/▼/◄/►ボタンを押して「DLNA」を選び、ENTERボタンを押す**

4 **▲/▼ボタンを押して、ネットワークサーバーを選び、ENTERボタンを押す**
ネットワークサーバーの項目がリスト表示されます。

ご注意

- サーチ機能に対応していないネットワークサーバーでは、サーチ機能は働きません。
- 本機はネットワークサーバーにある写真や動画にアクセスすることはできません。
- ネットワークサーバーの共有設定によっては、内容を表示できない場合があります。ネットワークサーバーの取扱説明書をご覧ください。

5 ▲/▼ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、ENTER(エンター)ボタンまたは ► ボタンを押す

ご注意
- メディアサーバーによっては、早送り/早戻り/一時停止の操作が機能しない場合があります。
- 「No Item.」というメッセージが出る場合は、サーバーから情報が取得できなかったことを意味しています。この場合、サーバー、ネットワーク、接続を確認してください。

共有フォルダ内の曲を再生する

以下の手順で、本機と同じネットワークに接続されたパソコンまたは、NAS(Network(ネットワーク) Attached(アタッチド) Storage(ストレージ))の共有フォルダ内の曲を再生します。

Windows(ウィンドウズ) 8/Windows 7の設定をする

■共有オプションの設定をする

1 「コントロールパネル」の 「ホームグループと共有に関するオプションの選択」を選ぶ

ヒント
- メニューが表示されない場合、「表示方法」が「カテゴリ」になってるか確認してください。

2 「共有の詳細設定の変更」を選ぶ

3 「ホームまたは社内」で以下のチェックボックスにチェックが入っているか確認する

「ネットワーク探索を有効にする」/「ファイルとプリンターの共有を有効にする」/ 「共有を有効にしてネットワークアクセスがあるフォルダ内のファイルを読み書きできるようにする」/「パスワード保護の共有を無効にする」

4 「変更の保存」を選び、確認画面で「OK」をクリックする

■共有フォルダの作成をする

1 共有したいフォルダを選び、右クリックする

2 「プロパティ」を選ぶ

3 「共有」タブから「詳細な共有」を選ぶ

4 「このフォルダを共有する」にチェックを入れ、「OK」をクリックする

5 「ネットワークのファイルとフォルダーの共有」から「共有」を選ぶ

6 プルダウンメニューから「Everyone」を選び、「追加」をクリックしてから、「共有」をクリックする

ヒント
- この設定では誰でもフォルダにアクセスが出来る状態になります。フォルダにユーザーとパスワードを設定する場合は、「共有」タブの 「詳細な共有」にある「アクセス許可」を設定してください。
- 「ワークグループ」が設定されているかを確認してください。

ご注意
- NAS(Network Attached Storage)をお使いの場合は、お手持ちのNASの取扱説明書をご確認ください。

共有フォルダ内の曲を再生する

Home(ホーム) Media(メディア)を楽しむには、あらかじめパソコン内で共有フォルダを作成する必要があります。

1 NET(ネット)ボタンを押す

ネットワークサービス画面が表示され、NET表示が点灯します。点滅する場合は、ネットワークの接続が正しくされていません。有線LANで接続する設定にしている場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。無線LANで接続する設定にしている場合は、**Wi-Fi**インジケーターが点灯しているかご確認ください。

ヒント
- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

2 ▲/▼/◄/► ボタンを押して「Home Media」を選び、ENTER(エンター)ボタンを押す

3 ▲/▼ボタンを押して、サーバーを選び、ENTERボタンを押す

ヒント
- お使いのパソコンのサーバー名は、パソコンのプロパティから確認できます。

4 ▲/▼ボタンを押して、共有フォルダを選び、ENTERボタンを押す

5 ユーザー名とパスワードを要求されたら、必要なアカウント情報を入力する

ヒント
- 一度入力されたアカウント情報は保存され、次回からの入力が不要になります。
- アカウント情報については、共有フォルダの作成時に設定したアカウント情報を使用してください。

6 ▲/▼ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、ENTERボタンまたは ► ボタンを押す

再生が開始されます。

リモート再生する

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.20、31）。

ヒント

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）することで、テレビに操作画面を表示できます。

リモート再生は、Windows Media Player 12に対応しています。
リモート再生とは、ホームネットワーク内のDLNA 準拠のコントローラー機器やPC を操作することによりそれぞれの機器に保存された音楽ファイルを本機で再生する機能です。

Windows Media Player 12の設定をする

ネットワークサーバーやPCに保存された音楽ファイルを本機で再生するためにWindows Media Player 12を設定します。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player12を開く**

2 **「ストリーム」メニューを開き、「メディア ストリーミングを有効にする」を選ぶ**
ダイアログが開きます。

ヒント

- メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューを開き「その他のストリーミング オプション」をクリックすると、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので手順4へ進んでください。

3 **「メディア ストリーミングを有効にする」をクリックする**
ネットワーク内の再生機器一覧が表示されます。

4 **「メディア ストリーミング オプション」で本機を選び、「許可」になっていることを確認する**

5 **「OK」をクリックして、ダイアログを閉じる**
これでWindows Media Player 12を使って本機でリモート再生をする準備が整いました。

ヒント

- 「ストリーム」メニューを開き、「プレーヤーのリモート制御を許可」にチェックが入っていることも確認してください。

リモート再生する

1 **本機の電源を入れる**

2 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player12を開く**
あらかじめ、Windows Media Player 12の設定をしておく必要があります。

3 **Windows Media Player 12で再生したい音楽ファイルを選び、右クリックする**
右クリックメニューが表示されます。

ヒント

- 別のネットワークサーバー内の音楽ファイルをリモート再生するには、「その他のライブラリ」からネットワークサーバーを開き、再生したい音楽ファイルを選びます。

4 **「リモート再生」から本機を選ぶ**
Windows Media Player 12の「リモート再生」ウィンドウが開き、本機で再生が開始されます。
リモート再生中の操作は、お使いのWindows 8/Windows 7の「リモート再生」ウィンドウで行います。
再生画面はHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）されたテレビに表示されます。

ヒント

- Windows 8をお使いの場合は、「Play to」をクリックしてから、本機を選んでください。

5 **音量を調整する**
「リモート再生」ウィンドウの音量バーを操作して、本機の音量を調整できます。標準の最大音量は64です。この設定を変更したい場合はWebセットアップ（WEB Setup Menu）から最大音量値（DMR最大ボリューム）を入力します。「他のインターネットラジオを登録する」に記載しているWEB Setup Menuの項目をご覧ください。（➔ P.38）
リモート再生ウィンドウと本機の音量値は一致しない場合があります。
本機で変更した音量は、「リモート再生」ウィンドウには反映されません。

ご注意

- 以下のいずれかの場合、本機はリモート再生できません。
  - ネットワークサービスを使っている。
  - USBデバイスの音楽ファイルを再生している。
  - 本機で初めて**NET**入力セレクタを選んだときにテレビに表示される「**免責事項**」の画面で「**同意する**」を選んでいない。

AM/FM放送を聴く

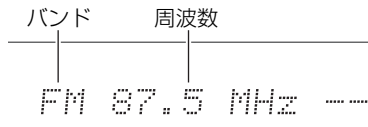
この項目では、特に指定のない限り、本機前面パネルを使用する手順で説明しています。

内蔵チューナーを使う

内蔵チューナーでAM/FM放送を聴くことができます。放送局をあらかじめ登録しておけば、周波数で合わせなくてもすばやく選局ができます。

■ラジオを聴く

1 TUNERボタンをくり返し押して、「AM」もしくは「FM」を選ぶ

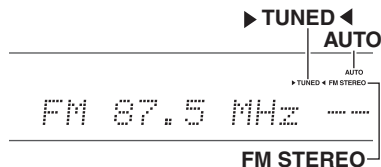
下図はFM放送局を選んだ時の表示例です。
TUNERボタンを押すとAM/FMが切り換わります。

聴きたい放送局を選択する

■自動選択（オートチューニング）

1 TUNING MODEボタンを押して、AUTO表示を点灯させる

2 TUNING ▲/▼ボタンを押す

放送局があると自動的に停止します。
放送局を受信するとチューンド表示（ ►TUNED◄ ）が点灯します。FMステレオ局を受信すると、**FM STEREO**表示が点灯します。

ご注意

- TUNED表示が消灯している間は無音になります。

■手動選択（マニュアルチューニング）

1 TUNING MODEボタンを押して、AUTO表示を消灯させる

2 TUNING▲/▼ボタンを押して希望の放送局を受信する

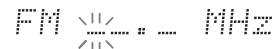
一回押すごとに周波数が1ステップずつ変わります。
本機ではFMは0.1 MHz、AMでは9 kHz ずつ変わります。ボタンを押し続けると、連続して周波数が変わり、ボタンを離すと止まります。表示部を見ながら周波数を合わせてください。

FM放送を受信しにくいときは

電波の弱い所や雑音の多い所では、本機の**TUNING MODE**ボタンを押し、**AUTO**表示を消してモノラル受信にしてください。雑音や音切れを軽減できます。
AUTO表示に戻すときは、同じボタンを再度押します。
通常は**AUTO**表示にしておいてください。自動的にFMステレオ受信になります。

■直接周波数を入力して受信する（ダイレクトチューニング）

お聴きになりたい放送局の周波数を直接入力できます。

1 リモコンのTUNERボタンをくり返し押して「AM」または「FM」を選択し、リモコンのD.TUNボタンを押す

2 リモコンの数字ボタンを使って、8秒以内に放送局の周波数を入力する

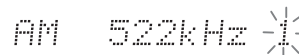
例えば、87.5（FM）と入力する場合は**8**、**7**、**5**と押します。

AM/FM放送局を登録する

お好きなAM/FM放送局を最大40局まで登録できます。

1 登録したいAM/FM放送局を受信する

2 MEMORYボタンを押す

プリセット番号が点滅します。

3 プリセット番号が点灯している間（約8秒間）に、1から40の数字をPRESET◄/►ボタンで選ぶ

4 もう一度MEMORYボタンを押す

登録されると、プリセット番号の点滅が止まります。
この手順をくり返して、お好きなAM/FM放送局を登録します。

ご注意

- 登録したプリセット局にお好きな名前をつけることができます（➔ P.63）。登録した名前はバンドと周波数の代わりに表示部に表示されます。

■登録したプリセット局を選ぶ

1 PRESET◄/► ボタンまたはリモコンのCH +/ーボタンで、プリセット番号を選ぶ

ヒント

- リモコンの数字ボタンでも直接プリセット番号を入力して選べます。

■登録したプリセット局を削除する

1 削除したいプリセット番号を選ぶ

2 MEMORY ボタンを押しながら、TUNING MODE ボタンを押す

プリセット番号が削除され、表示部から番号が消えます。

異なるソースの音声と映像を再生する

あるソースの音声を別のソースの映像に合わせて、再生することができます。この機能は、音声のみの入力セレクタ（**PHONO**、**TV/CD**、**TUNER**）を選んだ場合は、映像ソースが変わらないことを利用しています。次の手順は**TV/CD IN**端子に接続したCDプレーヤーの音声と**BD/DVD IN**端子に接続したブルーレイディスク/DVDプレーヤーの映像を合わせて再生する例です。

ヒント

- 音声のみの入力セレクタとして使用する場合は、映像入力端子の割り当てをすべて「- - - - -」に設定してください（➔ P.57、58）。

1 BD/DVD ボタンを押す

2 TV/CD ボタンを押す

音声出力は**TV/CD**セレクタに変わりますが、映像出力は**BD/DVD**セレクタのまま変わりません。

3 ブルーレイディスク/DVD プレーヤーとCDプレーヤーを再生する

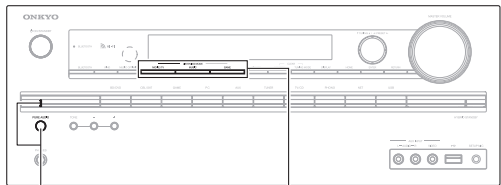
CDプレーヤーの音声に合わせてブルーレイディスク/DVD プレーヤーの映像をお楽しみいただけます。

リスニングモードを使う

リスニングモードについて

さまざまなリスニングモードを使うと、高度な再現性とすばらしいサラウンド効果で、あなたの部屋が劇場やコンサートホールに生まれ変わります。

リスニングモードを選ぶ

■ リスニングモードのボタン

PURE AUDIOボタン、インジケーター

MOVIE/TV、**MUSIC**、**GAME**ボタン

MOVIE（ムービー）/TVボタン

映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSIC（ミュージック）ボタン

音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAME（ゲーム）ボタン

ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

STEREO（ステレオ）ボタン

ステレオ及びオールチャンネルステレオのリスニングモードに切り換えます。

PURE（ピュア） AUDIO（オーディオ）ボタン、インジケーター

リスニングモードをPure Audioにします。
このモードでは、表示部とアナログビデオ回路の電源がオフになりますが、HDMI入力端子から入力された映像信号のみをHDMI出力端子から出力できます。このモードを選択すると、**PURE AUDIO**インジケーターが点灯します。もう1度押すと、1つ前に選んでいたリスニングモードに戻ります。

ご注意

- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）やDTSリスニングモードは選べません。
- 選択できるリスニングモードは、入力信号のフォーマットによって決まります。入力信号のフォーマットを確認する方法については、「表示を確認する」をご覧ください（➔ **P.49**）。
- ヘッドホン接続時は、Pure Audio、Mono（モノ）、Direct（ダイレクト）またはStereoの各リスニングモードが選択できます。

入力信号のチャンネル数について

ここでは、代表的な入力信号について説明しています。

モノラル	モノラル音声です。AACフォーマットなどにおける多重音声（Multiplex（マルチプレックス））も含みます。
ステレオ	ステレオ音声です。2つの独立した音声信号チャンネルが、左右フロントスピーカーから再生されます。音声フォーマットは、PCM、AAC、Dolby（ドルビー） Digital（デジタル）などがあります。
5.1ch	5.1チャンネルのサラウンドサウンドです。このサラウンドシステムでは、5つのメインサウンドチャンネルと、6番目のサブウーファーチャンネル（0.1チャンネルと呼ばれます）を使います。音声フォーマットは、AAC、Dolby Digital、DTSなどがあります。
7.1ch	7.1チャンネルのサラウンドサウンドです。5.1チャンネルサウンドを音響的にさらに改良したもので、2つのスピーカーを追加することによって、サラウンド感と音場の正確性を向上しています。音声フォーマットは、Dolby Digital、DTSなどがあります。

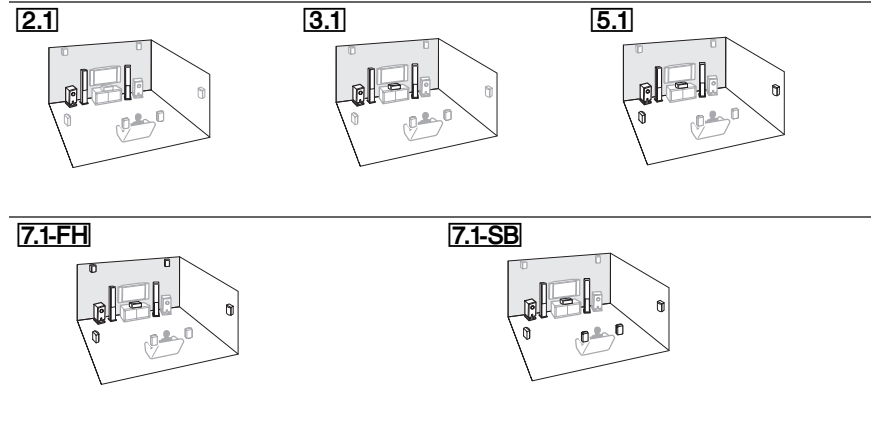
スピーカーの配置

以下の図は、各チャンネル構成で、どのスピーカーが有効になるかを示した代表的なスピーカーの配置例です。スピーカーの設定については「スピーカー詳細設定」をご覧ください（➔ P.59）。

3.1

5.1

7.1-FH

7.1-SB

■ オンキヨー独自のDSPリスニングモード

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Orchestra（オーケストラ） Orchestra	クラシックやオペラに適したモードです。音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調する効果があります。大ホールで聴いているような自然な響きが楽しめます。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 *1 3.1 *1 5.1 7.1
Unplugged（アンプラグド） Unplugged	アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージを作ります。		
Studio-Mix（スタジオ ミックス） Studio–Mix	ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。		
TV Logic（ロジック） TV Logic	放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。		
Stage（ステージ）*1 Stage	「演劇/ドラマ」系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
Action（アクション）*1 Action	「アニメ/特撮」系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
Music（ミュージック）*1 Music	音楽系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
Sports（スポーツ）*1 Sports	スポーツ系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
Game-RPG（ゲーム） Game–RPG	RPG（ロールプレイングゲーム）を楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Action Game–Action	アクションゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Game-Rock Game−Rock	ロックゲームを楽しんでいるときに適したモードです。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1[1] 3.1[1] 5.1 7.1
Game-Sports Game−Sports	スポーツゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
All Ch Stereo All Ch Stereo	BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。		3.1 5.1 7.1
Full Mono Full Mono	すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聴くことができます。		
T-D（Theater-Dimensional） T−D	2つまたは3つのスピーカーで、あたかもマルチチャンネルサラウンド再生しているような、バーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を、制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。		2.1 3.1 5.1 7.1

■ リスニングモード

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Pure Audio[2] Pure Audio	このモードは原音を忠実に再生します。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。Quick Setupメニューで設定した処理の多くが無効になります。詳しくは「設定をする」をご覧ください（➔ P.52）。また表示部とアナログビデオ回路の電源がオフになりますのでノイズ源が最小限に抑えられ、臨場感あふれるサウンド再生が実現します。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1 7.1[3]
Direct Direct	このモードに合わせておくと、入力された信号がそのまま再生されます。たとえば音楽CDの2chの信号が入力されればステレオで再生、地上波デジタル放送のAACの5.1ch信号が入力されれば5.1chで（2ch信号入力ではステレオで）再生、ブルーレイディスクやDVDのDolby Digital信号が入力されればそのチャンネル数に応じたDolby Digital音場が再生される便利なモードです。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1 7.1[3]
Stereo Stereo	左右フロントスピーカーとサブウーファーから音声が出力されます。		2.1 3.1 5.1 7.1
Mono Mono	モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを、左右のチャンネルで独立して再生するモードです。DVDなどに記録された、音声多重のサウンドトラックに適しています。		
Multichannel Multich	マルチチャンネルPCMソース再生時に使用できるモードです。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1
DSD[4] DSD	DSDソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
Dolby Digital Dolby D	Dolby Digitalソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。		
Dolby Digital Plus[5] Dolby D +	Dolby Digital Plusソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
		7.1ch	3.1 5.1 7.1[3]
Dolby TrueHD Dolby TrueHD	Dolby TrueHDソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
		7.1ch	3.1 5.1 7.1[3]
DTS DTS	DTSソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
DTS-HD High Resolution Audio DTS−HD HR	DTS-HD High Resolution Audioソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
		7.1ch	3.1 5.1 7.1*3
DTS-HD Master Audio DTS−HD MSTR	DTS-HD Master Audioソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
		7.1ch	3.1 5.1 7.1*3
DTS Express DTS Express	DTS Expressソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
DTS 96/24*6 DTS 96/24	DTS 96/24ソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。96kHzのサンプリングレートと、24ビットの解像度を使った高解像度DTSとして、きめ細やかな再現性を実現します。DTS 96/24ロゴのついたCD、DVD、LDなどにご使用ください。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
DTS-ES Discrete*7 ES Discrete	サラウンドバックチャンネルを利用して、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの再生を実現するDTS-ESディスクリートサウンドトラック用のモードです。完全に独立した7つのチャンネルで、空間イメージの向上と、360度の音像定位が実現し、サラウンドチャンネル間を飛び交うようなサウンドに最適なモードです。DTS-ESロゴのついたDVD、特にDTS-ESディスクリートサウンドトラックを使った収録ソフトにご使用ください。	6.1ch 7.1ch	7.1-SB
DTS-ES Matrix*7 ES Matrix	マトリックスエンコードされたバックチャンネルを使って、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの再生を実現するDTS-ESマトリックスサウンドトラック用のモードです。DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなど、特にDTS-ESマトリックスサウンドトラックを使った収録ソフトにご使用ください。		

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
AAC AAC	AACソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。	5.1ch	3.1 5.1 7.1
Dolby Pro Logic IIx*8 Dolby Pro Logic II PLⅡ Movie PLⅡ Music PLⅡ Game PLⅡx Movie PLⅡx Music PLⅡx Game	Dolby Pro Logic IIxでは、すべての2チャンネルソースを7.1チャンネルで再生します。明瞭なサウンドはそのままに、かつてないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。		
	サラウンドバックスピーカーを接続していない5.1チャンネルのときは、Dolby Pro Logic IIxの代わりに、Dolby Pro Logic IIになります。 • **Dolby PLIIx Movie** Dolby Surround（Pro Logic）の映画（テレビ番組、DVD、VHSなど）を鑑賞するときに使います。 • **Dolby PLIIx Music** Dolby Surround（Pro Logic）の音楽ソース（CD、ラジオ、カセットテープ、テレビ、VHS、DVDなど）を聴くときに使います。 • **Dolby PLIIx Game** テレビゲーム、特にDolby Pro Logic IIのロゴのついたゲームディスクを楽しむときに使います。	ステレオ	3.1 5.1 7.1
	• **Dolby PLIIx Movie** • **Dolby PLIIx Music** Dolby Pro Logic IIxで、5.1チャンネルのソースを7.1チャンネルで再生します。	5.1ch	7.1-SB

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Dolby Pro Logic IIz Height PLⅡz Height	ハイチャンネルスピーカーを接続しているとき、より効果的に既存のプログラムを使えるように設計されています。Dolby Pro Logic IIz Heightは、映画や音楽のさまざまなソースをミキシングできますが、特にゲームのコンテンツをミキシングするのに適したモードです。	ステレオ 5.1ch 7.1ch	7.1-FH
Dolby EX Dolby EX Dolby D EX	5.1チャンネルで収録された音楽や映画を、サラウンドバックチャンネルも利用した6.1/7.1チャンネルで再生できます。特に、マトリックスエンコードされたサラウンドバックチャンネルが使われているDolby EXのサウンドトラックに適したモードです。5.1チャンネルにサラウンドバックチャンネルを追加することで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。	5.1ch	7.1-SB
DTS Neo:6	2チャンネルソースを7.1チャンネルで再生します。2チャンネルで収録されたソースを、マルチチャンネルサラウンド再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。 映画に最適なCinemaモードと、音楽再生に最適なMusicモードが選択できます。		
Neo:6 Cinema Neo:6 Music	• DTS Neo:6 Cinema 2チャンネルの映画（テレビ、DVD、VHSなど）に適しています。 • DTS Neo:6 Music 2チャンネルの音楽（CD、ラジオ、カセットテープ、テレビ、VHS、DVDなど）に適しています。	ステレオ	3.1 5.1 7.1
Neo:6	• DTS Neo:6 このモードでは、Neo:6を使って5.1チャンネルソースを6.1チャンネルまたは7.1チャンネルで再生します。	5.1ch	7.1-SB

ご注意

*1 「**ジャンル連動**」設定を「**自動**」に設定していないと選択できません。（➔ **P.69**）
*2 ゾーン2がオンのとき、Pure Audioは選択できません。Pure Audioを選択中にゾーン2をオンにすると、自動的にDirectに変更されます。
*3 ソースに含まれる音声チャンネルに対応したスピーカーから音声が出ます。
*4 本機は**HDMI**入力端子からのDSD信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定をPCMに設定したほうが、よい音声を得られることがあります。その場合は、プレーヤー側の設定をPCM出力にしてください。
*5 ブルーレイディスクの場合は、3.1チャンネルまたは5.1チャネルのスピーカー構成でDolby Digitalになります。
*6 本機の設定によってはDTSになります。
*7 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTSになります。
*8 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby Pro Logic IIになります。

リスニングモードは入力する信号によって、選べないことがあります。外部のAV機器から本機に入力している信号は次のページの機能で表示部に表示することができます。

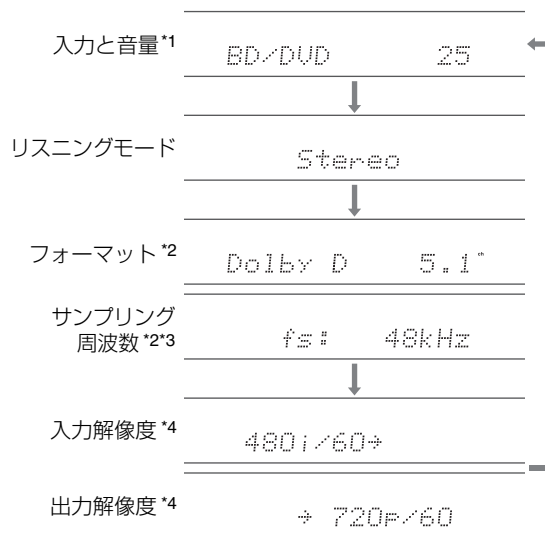
表示を確認する

入力信号の様々な情報を表示することができます。

1 RECEIVERボタンを押して、DISPLAYボタンをくり返し押す

ヒント

- 本体の**DISPLAY**ボタンでも操作できます。

以下の情報を表示できます。

*1 AM/FM放送を聴いているとき、バンド、周波数、プリセット番号が表示されます。
*2 入力信号がデジタルの場合は、フォーマットが表示されます。情報は約3秒間表示されたあと、元の表示に戻ります。
*3 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）の場合は、表示されません。音声の数が表示されます。
*4 情報は約3秒間表示されたあと、元の表示に戻ります。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態へ移行します。

1 RECEIVERボタンを押して、SLEEPボタンをくり返し押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。
スリープタイマー設定中はSLEEP表示が点灯します。残り時間を約5秒間表示したあと、元の表示に戻ります。

ヒント

- スリープタイマーを解除するには、SLEEP表示が消えるまで、くり返し**SLEEP**ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから、再度電源を入れます。
- **SLEEP**ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。残り時間が10分以下のときにもう一度**SLEEP**ボタンを押した場合、スリープタイマーは解除されます。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを調節することができます。

1 RECEIVERボタンを押して、DIMMERボタンをくり返し押して明るさを選ぶ

▸やや暗い、暗い、通常

ヒント

- 本体の**DIMMER**ボタンでも操作できます。

入力表示を切り換える

オンキヨー製のRI端子付きRIドックを、本機の**TV/CD IN**端子または**GAME IN**端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。
この設定は、前面パネル以外で行うことはできません。

1 TV/CDまたはGAMEボタンを押して、表示部に「TV/CD」または「GAME」を表示させる

2 TV/CDまたはGAMEボタンを約3秒間押し続けて、表示を切り換える

この手順をくり返すと、以下のように表示が切り換わります。

■TV/CDボタン

「TV/CD」→「DOCK」→「TAPE」→「TV/CD」

■GAMEボタン

「GAME」→「DOCK」→「GAME」

ご注意

- **TV/CD**、**GAME**の各入力切換ボタンで「DOCK」を選べますが、同時には選べません。
- 本機付属のリモコンで操作する前に、まずRI専用リモコンコードを登録してください（➔ P.74）。

一時的に音量を小さくする

出力を一時的に小さくできます。

1 RECEIVERボタンを押して、MUTINGボタンを押す

MUTING表示が点滅します。

ヒント

- 解除するには、**MUTING**ボタンをもう一度押すか音量調整をします。
- 本機がスタンバイ状態になった場合にも、解除されます。

RIHDを使う

本機とHDMI接続したCEC対応機器や、RIHD対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

1 前面パネルのRIHDボタンをくり返し押して「オン」、「オフ」を切り換える

ヒント

- 詳細については「HDMI CEC (RIHD)」をご覧ください（➔ P.67）。

ホームメニューを使う

ホームメニューを使うと、よく利用するメニューにすばやくアクセスできます。

ヒント

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。

1 RECEIVERボタンを押して、HOMEボタンを押す

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

ヒント

- 本体の**HOME**ボタンでも操作できます。

2 ◄/► または▲/▼ボタンを押して目的の項目を選び、ENTERボタンを押す

HOMEボタンを押すとメニューが閉じます。

■ セットアップ

▸この項目は、セットアップメニューで各種の設定をするときに選択します。

ENTERボタンを押して、セットアップメニューを開きます（➔ **P.56**）。

ヒント

- よく使用する項目は、Quick Setupメニューからも設定することができます（➔ **P.52**）。

■ InstaPrevue

▸この項目は、HDMI入力端子（**HDMI IN 1**/**2**/**3**/**4**/**5**）からの映像/音声をプレビュー表示したいときに選択します。各入力映像をひとつの画面にまとめてプレビュー表示できるので、複数の機器をHDMI接続している場合でも、簡単に入力を切り換えることができます。

ENTERボタンを押して、親画面（現在の入力映像）と子画面（その他の入力映像）を表示します。▲/▼または◄/► ボタンを使用して子画面を選び、**ENTER**ボタンを押すとその入力に切り換わります。

ヒント

- 入力映像がない場合は、黒の子画面が表示されます。
- 子画面の表示数と表示場所はお好みで設定できます（➔ **P.69**）。

ご注意

- 以下の場合、この項目は選択できません。
  - **HDMI IN 6**からの映像を入力している。
  - 選択中の入力ソースからの信号がない。
- 映像の信号方式によっては、子画面に正しく表示されないことがあります。

■ ファームウェアアップデート

▸この項目は、ファームウェアの更新をするときに選択します。本項目がグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

ENTERボタンを押して、ファームウェアの更新手順に進みます（➔ **P.89**）。

■ ネットワークサービス

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ **P.20**、**31**）。

▸この項目は、各種のインターネットラジオサービスやDLNAなどを利用するときに選択します（➔ **P.36**）。

本項目がグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

ENTERボタンを押してネットワークサービス画面を表示します。

▲/▼/◄/► ボタンでインターネットラジオサービスを選び**ENTER**ボタンを押すと、選んだインターネットラジオサービスに切り換わります。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生したいときは▲/▼/◄/► ボタンで「**DLNA**」を選び**ENTER**ボタンを押します。

本機と同じネットワークに接続されたパソコンまたはNAS（Network Attached Storage）の共有フォルダ内の曲を再生したいときは▲/▼/◄/► ボタンで「**Home Media**」を選び**ENTER**ボタンを押します。

■ USB

▸この項目は、デジタルオーディオプレーヤーやUSBデバイスを本機の**USB**端子に接続して再生するときに選択します（➔ **P.36**）。

本項目がグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

ENTERボタンを押して接続したデバイスのコンテンツを表示した後に▲/▼ボタンで希望するフォルダや曲を選びます。**ENTER**ボタンをもう一度押すと、選んだ曲を再生します。

設定をする

設定をする

この項目では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

OSDセットアップメニュー

接続したテレビで本機の各種設定を変更するには、以下の二通りの方法があります：Quick Setupメニュー、セットアップメニュー（**HOME**）。

■Quick Setupメニュー

Quick Setupメニューを使うと、よく利用するメニューにすばやくアクセスできます。このメニューを利用して、設定を変更したり、現在の情報を確認したりできます。

■セットアップメニュー（HOME）

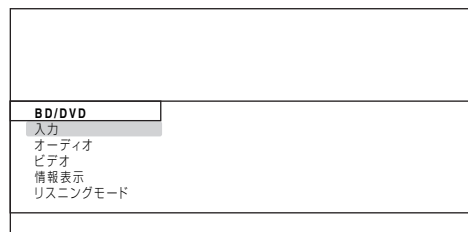
セットアップメニュー（**HOME**）は、本機の各種設定を変更できる、便利なメニューです。設定項目は、9カテゴリーに分けられています。

ヒント

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。

Quick Setupメニューを使う

1 **RECEIVERボタンを押したあと、Q SETUPボタンを押す**

接続したテレビ画面にQuick Setupメニューが表示されます。

2 **▲/▼ボタンを押して目的の項目を選び、ENTERボタンを押す**

Q SETUPボタンを押すと、設定を終了します。

RETURNボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

■入力*1

▸入力ソースを選択したり、以下の情報を確認することができます：入力セレクタ名、入力割り当て設定、Bluetoothで接続している機器名、ラジオ情報、ARC機能設定。

HDMI入力（**HDMI IN 1**/**2**/**3**/**4**/**5**）のプレビューが表示されます。*2

▲/▼ボタンを押して、入力ソースの情報を確認しながら入力ソースを選択できます。**ENTER**ボタンを押すと、選択されている入力ソースに切り換わります。

■オーディオ（➔ P.53）

▸変更できる項目は、「**低域**」、「**高域**」、「Phase Matching Bass」、「**サブウーファー**」、「**センター**」、「Audyssey」、「Dynamic EQ」、「Dynamic Volume」、「**レイトナイト**」、「Music Optimizer」、「**シネマフィルター**」です。

■ビデオ*3

▸変更できる項目は、「**ワイドモード**」と「**ピクチャーモード***4」です。

以下の項目もご覧ください。

- 「画質調整」（➔ P.64）

■情報表示*5

▸情報を表示できる項目は、「**オーディオ**」、「**ビデオ**」、「**チューナー**」です。

■リスニングモード*6

▸「MOVIE/TV」、「MUSIC」、「GAME」のカテゴリーに分類されたリスニングモードを選ぶことができます。

▲/▼ボタンを使ってカテゴリーを選び、◄/►ボタンでリスニングモードを選びます。**ENTER**ボタンを押すと、選んだリスニングモードに切り換わります。

ご注意

*1　別室（ゾーン）に**NET**または**USB**入力セレクタを選んでいる場合は、「BLUETOOTH」は選択できません。

*2　• 以下の場合、プレビュー画面は表示されません。
- **HDMI IN 6**からの映像を出力している。
- 選択中の入力ソースから信号が入力されていない。

• 現在選択している入力セレクタは、親画面に表示され、子画面には表示されません。

*3　•「**モニター出力設定**」を「**サブ**」に設定している場合、「**ビデオ**」は選べません（➔ P.57）。

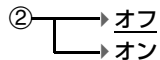
•「NET」、「USB」および「BLUETOOTH」入力セレクタでは使用できません。

*4　「**ピクチャーモード**」で「**カスタム設定**」を選んでいる場合のみ（➔ P.64）、**ENTER**ボタンを押すと、「**明るさ**」、「**コントラスト**」、「**色合い**」、「**彩度**」といった項目を調整できます。**RETURN**ボタンを押すと、「**ピクチャーモード**」に戻ります。

*5　入力ソースとリスニングモードによっては、表示された出力チャンネルの一部しか音声が出ないことがあります。

*6　• 以下の場合は設定できません。
-「**テレビオーディオ出力 (メイン)**」設定を「**オン**」にしている（➔ P.68）、または「**テレビオーディオ出力 (サブ)**」を「**オン**」にして（➔ P.68）、テレビのスピーカーで聴いている。
-「**HDMI CEC (RIHD)**」を「**オン**」にして（➔ P.67）、テレビのスピーカーで聴いている。

Quick Setupメニューのみかた

①――■Phase Matching Bass
②――▸ <u>オフ</u>
　　　▸ オン

①　設定項目
②　設定オプション（下線付きで表示されている設定オプションは、お買い上げ時の設定です。）

音声設定を使う

Quick Setupメニューからさまざまな音声設定を変更できます。（➔ P.52）

ご注意

• 以下の場合は設定できません。
-「**テレビオーディオ出力 (メイン)**」設定を「**オン**」にしている（➔ P.68）、または「**テレビオーディオ出力 (サブ)**」を「**オン**」にして（➔ P.68）、テレビのスピーカーで聴いている。
-「**HDMI CEC (RIHD)**」を「**オン**」にして（➔ P.67）、テレビのスピーカーで聴いている。

トーンコントロール設定

■低域（Bass）

▸ −10 dB～<u>0 dB</u>～+10 dB：
フロントスピーカーの低音の音質を、2dBずつ調整できます。

■高域（Treble）

▸ −10 dB～<u>0 dB</u>～+10 dB：
フロントスピーカーの高音の音質を、2dBずつ調整できます。

「Direct」、「Pure Audio」以外のリスニングモード時に、左右フロントスピーカーの音質を調整することができます。

本機で操作する

1　**TONEボタンをくり返し押して、「Bass」または「Treble」を選ぶ**

2　**−/+ボタンを使って、調整を行う**

フェーズ マッチング バス

■Phase Matching Bass

▸ <u>**オフ**</u>
▸ **オン**

チェロの暖かみのある低域から、エレクトロ・ミュージックのディープな重低音まで、優れたオーディオシステムは多種多様な低音の響きを再生できなければなりません。従来の低音増強技術は効率的に低域を増強しますが、それが中域の周波数に位相ずれを起こし、しばしば音をこもらせる原因となっています。
オンキヨーのPhase Matching Bassブーストテクノロジーは、その中音域での位相ずれを抑えることに成功した低音増強技術で、どんな音量でも滑らかで、かつパワフルな低音域再生を実現しながら、同時にリアリティ溢れるボーカルや弦楽器の美しい響きを実現しています。

ご注意

• リスニングモードが 「Pure Audio」または「Direct」のときは、効果がありません。
•「**サブウーファー**」が「**無し**」に設定されている場合、この設定は「**オフ**」に固定されます。

本機で操作する

1　**TONEボタンをくり返し押して、「PM Bass」を選ぶ**

2　**−/+ボタンを使って、設定を変更する**

Quick Setupメニューの操作手順
（➔ P.52）

スピーカーの音量

■ サブウーファー

▸ 1dB単位で、－15 dB～0 dB～+12 dB

■ センター

▸ 1dB単位で、－12 dB～0 dB～+12 dB

音声を聴きながら、スピーカーレベルを調整することができます。調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると、設定前の内容に戻ります。
設定を記憶するには、「スピーカー音量レベル」（➔ P.60）の設定画面を表示させてから、本機をスタンバイ状態にしてください。

ご注意

- ミューティング機能が働いているときは調整できません。
- 「スピーカー詳細設定」で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ P.59）は調整できません。
- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。

Audyssey®の設定

■ Audyssey

「4.入力ソースの設定」の「**Audyssey**」をご覧ください（➔ P.62）。

■ Dynamic EQ

「4.入力ソースの設定」の「**Dynamic EQ**」をご覧ください（➔ P.62）。

■ Dynamic Volume

「4.入力ソースの設定」の「**Dynamic Volume**」をご覧ください（➔ P.62）。

ご注意

- 以下の項目すべてに該当する場合、この機能を使用できます。
  - 「**Audyssey MultEQ 通常測定**」を行っている。
  - Pure AudioまたはDirectリスニングモード以外のリスニングモードを選択している。
  - ヘッドホンを接続していない。
- この設定は、各入力セレクタごとに設定できます。

レイトナイト

■ レイトナイト

Dolby Digital、Dolby Digital Plusを再生するときは、以下の項目から選びます。

▸ **オフ**

▸ **弱**：
音量幅を小さくします。

▸ **高**：
音量幅をさらに小さくします。

Dolby TrueHDを再生するときは、以下の項目から選びます。

▸ **自動**：
レイトナイト機能は、自動で「**オン**」か「**オフ**」に設定されます。

▸ **オフ**

▸ **オン**

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD再生時のみに効果があります。

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聴くには、音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聴こえます。夜中などに、音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、音声信号が入力されているときに設定されます。また、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

ご注意

- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。
- レイトナイト機能は、本機をスタンバイ状態にすると「**オフ**」に設定されます。Dolby TrueHDソースの場合は、「**自動**」に設定されます。
- 「**TrueHD Loudness Management**」を「**オフ**」に設定している場合、Dolby TrueHD再生時のレイトナイト機能は効果がありません（➔ P.61）。

ミュージックオプティマイザー

■ Music Optimizer

▸ **オフ**

▸ **オン**

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。入力ソースごとに設定を記憶します。「**オン**」に設定した場合、**M.Opt**表示が点灯します。

ヒント

- 本体の**MUSIC OPTIMIZER**ボタンでも操作できます。

ご注意

- この機能は、サンプリング周波数が48 kHz 以下のPCM信号とアナログ信号に働きます。
- リスニングモードが「Pure Audio」と「Direct」のときは、効果がありません。
- この設定は、各入力セレクタごとに設定されます。

Quick Setupメニューの操作手順
（➔ P.52）

シネマフィルター

この機能は、高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

■ シネマフィルター

- **オフ**
- **オン**

この機能が使用できるリスニングモードは、Dolby Digital、Dolby Digital EX、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby PL IIx Movie、Dolby PL II Movie、Dolby PL IIz Height、Multichannel、DTS、DTS-ES、Neo:6 Cinema、DTS 96/24、DTS Neo:6、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio、DTS Expressです。

ご注意

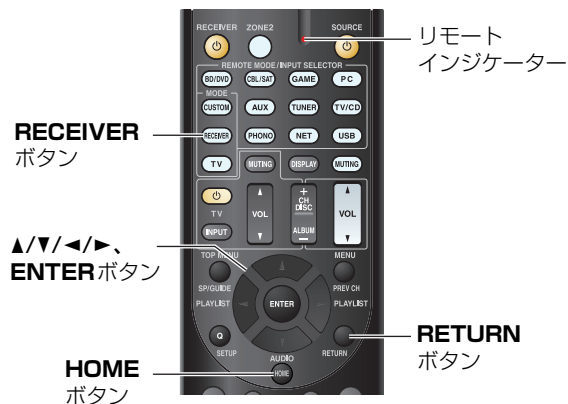
• シネマフィルター機能は、ある特定の入力ソースを使用した場合機能しないことがあります。

メモ：

本機をリセットすると設定内容が初期設定に戻ります(➔ P.82)。このメモ欄を利用して設定内容を詳しくご記入ください。再度の設定のときに役立ちます。

Quick Setupメニューの操作手順
(➔ P.52)

セットアップメニュー（HOME）を使う

この項目では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明していますが、本体のHOME(ホーム)ボタン、カーソルボタン、ENTER(エンター)ボタンでも設定できます。

1 **RECEIVER(レシーバー)ボタンを押したあと、HOME(ホーム)ボタンを押す**

2 **◄/►ボタンまたは▲/▼ボタンを押して「セットアップ」を選び、ENTERボタンを押す**

3 **▲/▼ボタンを押してメインメニュー項目を選び、ENTERボタンを押す**

4 **▲/▼ボタンを押してサブメニュー項目を選び、ENTERボタンを押す**

5 **▲/▼ボタンを押して設定項目を選び、◄/►ボタンで設定オプションを変更する**

HOMEボタンを押すと、設定を終了します。

RETURN(リターン)ボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

セットアップメニュー項目

メインメニュー項目	サブメニュー項目
1.入力/出力端子の割り当て (➔ P.57)	モニター映像出力
	HDMI入力
	コンポーネント映像入力
	デジタル音声入力
2.スピーカー設定 (➔ P.59)	スピーカーセッティング
	スピーカー詳細設定
	スピーカー距離
	スピーカー音量レベル
3.音の設定・調整 (➔ P.61)	多重音声/モノラル
	Dolby
	DTS
	Theater-Dimensional
4.入力ソースの設定 (➔ P.62)	Audyssey
	インテリボリューム
	A/Vシンク
	セレクタ名変更
	画質調整
	音声入力
5.リスニングモードプリセット (➔ P.66)	BD/DVD
	CBL/SAT
	GAME
	PC
	AUX
	TUNER
	TV/CD
	PHONO
	NET
	USB
	BLUETOOTH
6.その他 (➔ P.67)	ボリューム設定
	OSD設定
7.ハードウェア設定 (➔ P.67)	HDMI
	自動スタンバイ
	ネットワーク
	初期設定
8.リモコン設定 (➔ P.71)	リモコンID
	リモコン登録
9.ロック設定 (➔ P.71)	セットアップ

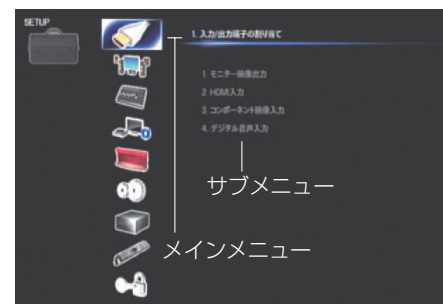
セットアップメニューのみかた

①── 2.スピーカー設定

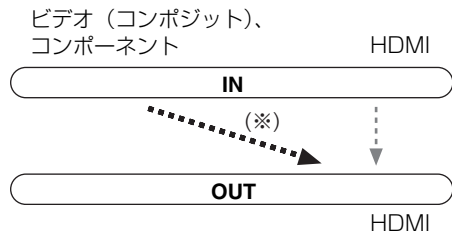
②── スピーカー詳細設定

③── ■サブウーファー

④── ▸有り / ▸無し

①メインメニュー項目
②サブメニュー項目
③設定項目
④設定オプション（下線付きで表示されている設定オプションは、お買い上げ時の設定です。）

1.入力/出力端子の割り当て

モニター映像出力

HDMI出力の出力設定を行います。ご使用になるテレビの解像度にあわせ、出力解像度を本機で変換する設定です。コンポジット映像入力端子、コンポーネント映像入力端子への各映像入力信号は変換（※）されてHDMI出力端子から出力されます。

ご注意

- 本機が「**モニター出力設定**」、「**解像度**」設定の映像信号を処理する流れについては「映像と音声信号の流れ」をご覧ください（➔ P.21）。

■ モニター出力設定

▸ 主（メイン）：Main

テレビを**HDMI OUT**（アウト）**MAIN**端子に接続した場合に選びます。

▸ サブ（サブ）：Sub

テレビを**HDMI OUT SUB**端子に接続した場合に選びます。

▸ 両方（ボース）：Both

HDMI OUT MAIN、**HDMI OUT SUB**端子の両方に接続する場合に選びます。
映像信号は両方のHDMI出力端子から、両方のテレビで対応している解像度で出力されます。

ご注意

- 「HDMIスルー」は**HDMI OUT MAIN**端子にのみ有効です（➔ P.68）。

■ 解像度

▸ **スルー**：

入力信号の解像度とおなじ解像度で、本機で変換しないでそのまま出力する場合に選択します。

▸ **自動**：

テレビに対応した解像度に合わせて、自動で変換する場合に選択します。

▸ 480p、720p、1080i、1080p*1：

お好みの出力解像度を選択します。

▸ 4K：

1080pの約4倍の高解像度で出力されます。接続したモニターの対応解像度により、3840 × 2160または4096 × 2160ピクセルで出力されます。

HDMI OUT MAIN端子の出力解像度を指定することができます。お使いのテレビで対応している解像度に一致するように、本機の画像解像度を変換します。

ヒント

- **HDMI OUT MAIN**端子に出力しているとき、設定しながらテレビの映像を確認するには、**ENTER**ボタンを押します（**NET**（ネット）、**USB**および**BLUETOOTH**（ブルートゥース）入力セレクタは除く）。

ご注意

- 「4K」を選んだ場合、お使いのテレビによっては映像信号が出力されない場合があります。
- 「**モニター出力設定**」を「**サブ**」に設定している場合、「**解像度**」の設定は「**スルー**」に固定されます。
- 「**モニター出力設定**」を「**両方**」に設定している場合、「**解像度**」の設定は「**自動**」に固定されます。

*1 1080p/24の解像度で入力があった場合、1080p/24の解像度のまま出力されます。

HDMI入力

HDMI入力端子には、お買い上げ時の設定で「**BD/DVD**」、「**CBL/SAT**」などの入力切換が割り当てられています。たとえば、ブルーレイディスク/DVDプレーヤーを、お買い上げ時の設定どおりに本機の**HDMI IN**（イン）**2**端子に接続すると、入力切換で「**BD/DVD**」を選択するだけで、接続した機器の映像や音声を簡単に本機で再生することができます。お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換	HDMI入力端子の割り当て
BD/DVD	HDMI2
CBL/SAT	HDMI3
GAME	HDMI4
PC	HDMI5
AUX	HDMI1/MHL
TV/CD	- - - - -
PHONO	- - - - -

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえばブルーレイディスク/DVDプレーヤーを本機の**HDMI IN 1** 端子に接続したときは、「**BD/DVD**」の割り当てを「**HDMI1/MHL**」に変更してください。

■ BD/DVD、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TV/CD、PHONO

▸ HDMI1/MHL、HDMI2、HDMI3、HDMI4、HDMI5、HDMI6：

映像機器を**HDMI IN 1**～**6**端子に接続した場合に選びます。

▸ - - - - -：

コンポジット映像入力端子、コンポーネント映像入力端子に入力された各映像信号を、変換してHDMI出力端子から出力するときに選びます。また、コンポジット映像入力端子からの映像信号を変換する場合に、コンポーネント映像入力端子の設定も「- - - - -」にする必要があります（➔ **P.58**）。

HDMI IN(イン)の各入力端子に割り当てできる入力は1つまでです。すでにHDMI1～HDMI6まで割り当てられているときは、他の入力に割り当てることはできません。
そのうちの使わない入力に「- - - - -」を設定してから、割り当ててください。

ご注意

- 映像機器がHDMI端子に接続されていない場合は（「**HDMI入力**」が割り当てられていても）、「**コンポーネント映像入力**」の設定で出力されます。
- **HDMI IN** を設定した入力には、自動的に同じ**HDMI IN**のデジタル音声入力が割り当てられます。デジタル音声入力を使用したい場合は、「**音声入力**」で設定を変更してください（➔ **P.65**）。
- 「HDMI CEC (RIHD)」の設定が「**オン**」のとき、**HDMI IN**端子に接続された機器を、**TV/CD**入力に割り当てた場合（➔ **P.67**）、適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。
- コンポジット映像入力端子、コンポーネント映像入力端子に入力された各映像信号をHDMIに変換する場合の映像信号の流れや、変換に関する詳細は「映像と音声信号の流れ」をご覧ください（➔ **P.21**）。
- 「**HDMIスルー**」で選択されている入力に「- - - - -」が割り当てられている場合、「**HDMIスルー**」の設定は自動的に「**オフ**」になります（➔ **P.68**）。
- **COMPONENT(コンポーネント) VIDEO(ビデオ) IN**端子に入力された映像信号を、変換してHDMI出力端子から出力するには、再生機器の出力解像度を480iに設定してください。480p以上の解像度で入力があった場合は、エラーメッセージが表示されます。

コンポーネント映像入力

コンポーネント（色差）映像入力端子には、お買い上げ時の設定で、「**CBL/SAT**」の入力切換が割り当てられています。お買い上げ時の設定どおりに接続を行うと、入力切換を選択するだけで、接続した機器の映像を簡単に本機で再生することができます。
お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換	映像入力端子の割り当て
BD/DVD	- - - - -
CBL/SAT	IN1
GAME	- - - - -
PC	- - - - -
AUX	- - - - -
TV/CD	- - - - -
PHONO	- - - - -

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえばブルーレイディスク/DVDプレーヤーを本機の**COMPONENT VIDEO IN**端子に接続したときは、「BD/DVD」の割り当てを「IN1」に変更してください。

■BD/DVD、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TV/CD、PHONO

▶IN1：
映像機器を**COMPONENT VIDEO IN**端子に接続した場合に選びます。

▶- - - - -:
コンポジット映像入力端子に入力された映像信号を、変換してHDMI出力端子から出力するときに選びます。
コンポジット映像入力端子接続のみお使いの場合は、「- - - - -」に設定してください。

ご注意

- 「**モニター出力設定**」が「**サブ**」に設定されている場合、解像度が480iのコンポジットおよびコンポーネント信号のみ、そのままの解像度で出力されます。解像度に対応していないテレビでは映像は表示されません。

デジタル音声入力

デジタル音声入力端子には、お買い上げ時の設定で「**BD/DVD**」などの入力切換が割り当てられています。
お買い上げ時の設定どおりに接続を行うと、入力切換を選択するだけで、接続した機器の音声を簡単に本機で再生することができます。
お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換	デジタル入力端子の割り当て
BD/DVD	COAXIAL1（同軸入力）
CBL/SAT	COAXIAL2（同軸入力）
GAME	- - - - -
PC	- - - - -
AUX	- - - - -
TV/CD	OPTICAL（光入力）
PHONO	- - - - -

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえば、**COAXIAL(コアキシャル) IN1**端子に、CDプレーヤーなどを接続したときは、「**TV/CD**」の割り当てを「**COAXIAL1（同軸入力）**」に変更してください。

■BD/DVD、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TV/CD、PHONO

▶COAXIAL1（同軸入力）、COAXIAL2（同軸入力）、OPTICAL(オプティカル)（光入力）:
機器を接続しているデジタル音声入力端子に対応するデジタル音声入力を選びます。

▶- - - - -:
機器が、アナログ音声入力に接続されている場合に選びます。

ご注意

- HDMI端子を割り当てた入力（➔ **P.57**）には、本項目の設定も自動的にHDMI端子が割り当てられますが、お好みで他のデジタル音声入力端子も割り当てることができます。（➔ **P.65**）
- デジタル入力（光および同軸）から入力されるPCM信号（ステレオ/モノラル）のサンプリングレートは、32/44.1/48/88.2/96kHz/16、20、24ビットです。

セットアップメニュー（**HOME**）の操作手順
（➔ P.56）

2.スピーカー設定

自動スピーカー設定のあとに、使用するスピーカーを変更した場合や、手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で設定された内容を確認するときに使用します
(➔ P.29)。

- 以下の場合は設定できません。
  - ヘッドホンを接続している。
  - 「**テレビオーディオ出力 (メイン)**」設定を「**オン**」にしている（➔ P.68）、または「**テレビオーディオ出力 (サブ)**」を「**オン**」にして（➔ P.68）、テレビのスピーカーで聴いている。
  - 「**HDMI CEC (RIHD)**」を「**オン**」にして（➔ P.67）、テレビのスピーカーで聴いている。

スピーカーセッティング

設定を変更した場合は、再度自動スピーカー設定を行ってください。(➔ P.29)

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω(オーム)）を設定します。接続したスピーカーの中に、１台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合は、ここで設定してください。ご使用になるスピーカーの背面や、取扱説明書で、インピーダンス（Ω）をご確認ください。
フロントスピーカーをバイアンプ接続している場合は、「**スピーカータイプ(フロント)**」を「**バイアンプ**」にしてください。
接続については、「バイアンプ接続をする」(➔ P.18）をご覧ください。

ご注意
- バイアンプ接続では最大5.1 ch(チャンネル) 再生になります。
- 設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

■ **インピーダンス**

▸ **4オーム**：
接続したスピーカーの中に、１台でも４Ω以上６Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

▸ **6オーム**：
接続したスピーカーが、すべて６Ω以上の場合に選択します。

■ **スピーカータイプ(フロント)**

▸ **通常**：
フロントスピーカーを、通常の方法で接続している場合に選びます。

▸ **バイアンプ**：
フロントスピーカーを、バイアンプ接続している場合に選びます。

スピーカー詳細設定

自動スピーカー設定（➔ P.29）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーの有り/無しや、クロスオーバー周波数などを設定します。
クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を、何Hz(ヘルツ)からサブウーファーで出力するかを設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「**フルレンジ**」に設定され、他のチャンネルの低音域が、フロントスピーカーから出力されます。
お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

■ **サブウーファー**

▸ **有り**

▸ **無し**

■ **フロント**

▸ **フルレンジ**

▸ **40Hz～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz**

ご注意
- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」に設定している場合は、「**フロント**」設定は「**フルレンジ**」に固定されます。

■ **センター** [*1]**、サラウンド** [*1]

▸ **フルレンジ**

▸ **40Hz～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz**

▸ **無し**

■ **フロントハイ** [*1*2*3*4]

▸ **フルレンジ**

▸ **40Hz～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz**

▸ **無し**

■ **サラウンドバック** [*1*2*3*5]

▸ **フルレンジ**

▸ **40Hz～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz**

▸ **無し**

ご注意

*1 「**フルレンジ**」は、「**フロント**」設定で「**フルレンジ**」を選んでいるときしか選ぶことができません。
*2 「**サラウンド**」設定を「**無し**」に設定しているときは、この設定を選ぶことはできません。
*3 「**スピーカータイプ(フロント)**」設定が「**バイアンプ**」に設定されている場合は、この設定を選ぶことはできません。
*4 「**サラウンドバック**」設定を「**無し**」以外に設定した場合、「**フロントハイ**」設定は「**無し**」に設定されます。
*5 「**フロントハイ**」設定を「**無し**」以外に設定した場合、「**サラウンドバック**」設定は「**無し**」に設定されます。

■ **サラウンドバック Ch(チャンネル)**

▸ **1ch**：
接続したサラウンドバックスピーカーが１つの場合に選びます。(**SURROUND(サラウンド) BACK(バック) or FRONT(フロント) HIGH(ハイ) L**端子に接続してください。)

▸ **2ch**：
サラウンドバックスピーカーを２台（左右）接続している場合に選びます。

ご注意

- 「**サラウンドバック**」設定を「**無し**」に設定している場合は、この設定を選ぶことはできません。

■ LFEローパスフィルタ（LFEチャンネルの低域フィルター）

- 80Hz、90Hz、100Hz、120Hz
- **オフ**：
  ローパスフィルターを適用しません。

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。ローパスフィルターは、LFEチャンネルを使っているソースにしか適用されません。

■ ダブルバス

自動スピーカー設定を行っても、自動で設定されません（➔ P.29）。

- **オン**
- **オフ**

ダブルバス機能を利用すると、左右フロントチャンネル、センターチャンネルの低音がサブウーファーに送られ、低音の出力が強調されます。
お買い上げ時の設定：「- - - - -」

ご注意

- 「**サブウーファー**」設定が「**無し**」、または「**フロント**」設定が「**フルレンジ**」以外に設定されている場合、この設定は「- - - - -」に固定されます。
- 初めて「**サブウーファー**」設定を「**有り**」、「**フロント**」設定を「**フルレンジ**」に設定した場合、この設定は「**オン**」に切り換わります。

スピーカー距離

自動スピーカー設定（➔ **P.29**）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの、音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

■ 単位

- **メートル**：
  距離をメートルで設定できます。指定可能な範囲：0.30 メートル単位で、**0.30m～9.00m**
- **フィート**：
  距離をフィートで設定できます。指定可能な範囲：1.0 フィート単位で、**1.0ft～30.0ft**

■ フロント左、フロントハイ左、センター、フロントハイ右、フロント右、サラウンド右、サラウンドバック右、サラウンドバック左、サラウンド左、サブウーファー

- 各スピーカーと視聴位置の距離を指定します。

ご注意

- スピーカーの設定で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ **P.59**）は選ぶことができません。

スピーカー音量レベル

自動スピーカー設定（➔ **P.29**）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が、同じに聴こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

■ フロント左、フロントハイ左、センター[*1]、フロントハイ右、フロント右、サラウンド右、サラウンドバック右、サラウンドバック左、サラウンド左

- 1dB単位で**－12 dB～0 dB～+12 dB**

■ サブウーファー[*1]

- 1dB単位で**－15 dB～0 dB～+12 dB**

ご注意

- ミューティング中は、設定できません。
- スピーカーの設定で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ **P.59**）は選ぶことができません。

*1 センタースピーカーとサブウーファーについては、Quick Setup（クイック セットアップ）メニューで設定した音量がこの設定で保存されます（➔ **P.54**）。

セットアップメニュー（**HOME**）の操作手順（➔ P.56）

3.音の設定・調整

リスニングモードや接続した機器によって、音響効果をお好みに調整しておくことができます。

多重音声/モノラル

■多重音声

入力チャンネル

- **主**
- **副**
- **主/副**

多重音声や多重言語の放送などで、音声や言語を選択します。**DISPLAY**ボタンを押して、表示部に音声の数が「1+1」と表示されたら、音声多重放送です。

■モノラル

入力チャンネル

- **左+右**
- **左**
- **右**

2チャンネルで収録された、Dolby Digitalなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、Monoリスニングモードで再生するときに使用する、信号チャンネルを設定します。

Dolby

■PL IIx Music(2ch入力)

2チャンネルで記録された、Dolby Digitalなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「**PLIIx Music**」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「**PLIIx**」は「**PLII**」と表示されます。

Panorama

- **オン**
- **オフ**

音場を横方向に広げることができます。

Dimension

- **−3～0～+3**

音場を前方または後方へ移動させせることができます。
「**0**」を中心に、「**−1**」、「**−2**」、「**−3**」にすると前方へ、「**+1**」、「**+2**」、「**+3**」にすると後方へ移動します。広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整すると、バランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整すると、バランスが良くなります。

Center Width

- **0～3～7**

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic IIx Musicでは、センタースピーカーがある場合は、センターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。(センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。)この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。

■PL IIz Height Gain

- **低**
- **中**
- **高**

Dolby Pro Logic IIz Heightリスニングモード使用時の、フロントハイスピーカーからの出力レベルを調整することができます。「**低**」「**中**」「**高**」の3つの設定値があり、順にフロントハイスピーカーからの出力が強調されます。

ご注意

- 「**フロントハイ**」設定を「**無し**」に設定している場合、この設定を選ぶことはできません(➔ P.59)。

■Dolby EX

- **自動**:
  Dolby EX識別信号があるときは、Dolbyのリスニングモードは Dolby Digital EXを選びます。
- **手動**:
  使用可能な任意のリスニングモードを選ぶことができます。

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。この設定は、Dolby DigitalとDolby Digital Plus、Dolby TrueHDにのみ効果があります。

ご注意

- 「**サラウンドバック**」設定を「**無し**」に設定している場合は(➔ P.59)、この設定を選ぶことはできません。
- フロントハイスピーカーが有効な場合、この設定は「**手動**」に固定されます。

■TrueHD Loudness Management

- **オフ**
- **オン**

「**TrueHD Loudness Management**」を「**オン**」に設定すると、Dolby TrueHD再生時のレイトナイト機能を有効にします。

ご注意

- 「**TrueHD Loudness Management**」を「**オフ**」に設定した場合、Dolby TrueHD再生時のレイトナイト機能は「**オフ**」に固定されます。

DTS

■Neo:6 Music

Center Image

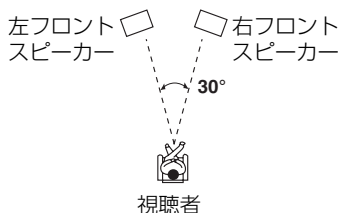
- **0～2～5**

DTS Neo:6 Musicは、2チャンネルで収録されたソースを、6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使って、センターチャンネルの音声を作り出します。
フロント音場の広がり感を調整することができます。
「**0**」に設定すると、フロント音場が中央寄りになり、「**5**」に設定するとフロント音場が左右に広がります。

Theater-Dimensional（シアター ディメンショナル）

■ リスニングアングル

- **広い**：
  リスニング角度が30°より広い場合に選びます。
- **狭い**：
  リスニング角度が30°より狭い場合に選びます。

Theater-Dimensionalリスニングモードでの最適な視聴角度を設定します。視聴位置からの左右スピーカーの角度を設定します。

ヒント

- スピーカーの設置角度は20°（狭い）/40°（広い）を推奨します。

4.入力ソースの設定

本機に接続した複数の機器間で、音量差の調整、あるいは映像が音声より遅れる場合の補正ができます。
項目は、入力セレクタごとに個別に設定できます。
調整したい入力を選び、接続機器を再生してください。

Audyssey®（オーディシー）

自動スピーカー設定を行った後に設定してください
（➔ P.29）。

- ヘッドホンを接続している場合、この機能は使用できません。

■ Audyssey

- **オフ**
- **Movie**（ムービー）：
  映画鑑賞に適しています。
  Audyssey表示が点灯します。
- **Music**（ミュージック）：
  音楽鑑賞に適しています。
  Audyssey表示が点灯します。

ご注意

- 自動スピーカー設定を「**Audyssey簡単測定**」で測定した場合、「**Audyssey**」は選べません。
- DSDソースにはこの機能は働きません。

■ Dynamic EQ（ダイナミック）

- **オフ**
- **オン**：
  Audyssey Dynamic EQ®機能が適用されます。
  Dynamic EQ表示が点灯します。

小音量再生のときでも充分な音声を楽しむことができます。部屋の特性やソースの音量、人間の聴覚特性などを考慮しながら、周波数特性の補正を行います。

■ Reference Level（リファレンス レベル）

- **0dB**：
  映画鑑賞に適しています。
- **5dB**：
  クラシック音楽など、とても広いダイナミックレンジを持つソースに適しています。
- **10dB**：
  ジャズや様々な音楽など、広いダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。また、通常基準レベルより10dB低くミックスされた、テレビ番組にも適しています。
- **15dB**：
  ポップス/ロック音楽など、高いリスニングレベルでミックスされた音源や、圧縮されたダイナミックレンジを持つソースに適しています。

映画は、音響の影響を考慮して調整された環境で、基準レベルでミキシングされます。
ホームシアターで同じ基準レベルで楽しむためには、スピーカーの音量レベル（Level Cal設定値（レベル キャリブレーション））を－30dB FSの帯域制限（500Hz～2000Hz）されたピンクノイズで、75dBの音圧が視聴位置で聴こえるように調整する必要があります。
Audyssey MultEQ®は、音量が64のときに基準レベルで再生されるように、自動的にスピーカーレベルを調整します。
Audyssey Dynamic EQは、映画の標準ミキシングレベルを基準にしていますので、音量を64よりも下げたときでもオリジナルの周波数特性と、サラウンド感が得られるように、自動的に調整することができます。
しかし、音楽またはフィルム以外のソースの場合は、映画の基準レベルが適切というわけではありません。
Reference Levelは映画の基準レベルが使われていないソースにも対応できるように、3種類のオフセットモードを用意しています。

ご注意

- 「**Dynamic EQ**」設定を「**オフ**」に設定している場合は、この設定は選べません。

■ Dynamic Volume（ボリューム）

- **オフ**
- **ライト**：
  低圧縮モードが適用されます。
- **ミディアム**：
  標準圧縮モードが適用されます。
- **ヘビー**：
  高圧縮モードが適用されます。この設定がボリュームに一番大きな影響を与えます。爆発シーンなど音量が大きいパートでは音量を下げ、静かなパートでは聴き取りやすいように音量を上げます。

ヒント

- Dynamic Volumeを有効に設定すると「**Dynamic EQ**」は「**オン**」に設定され**Dynamic Vol**表示が点灯します。

ご注意

- 「**Dynamic EQ**」を「**オフ**」に設定すると「**Dynamic Volume**」も連動して「**オフ**」になります。

Audyssey Dynamic EQ®について

Audyssey Dynamic EQは、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQは、すべての音量変化に応じて自動的に最適な周波数特性とサラウンドレベルに補正します。その結果、どのように音量レベルを変更しても、常に最適な低域特性や音質バランス、サラウンド効果を維持することができます。正しい補正を行うために、入力されるソースの情報と、リスニングルームに出力される音圧レベル情報とを組み合わせています。
Audyssey Dynamic EQはAudyssey MultEQ®と連動し、音量レベルに関係なくバランスのとれたサウンドを提供します。

Audyssey Dynamic Volume®について

Audyssey Dynamic Volumeは、テレビ番組やコマーシャル、映画などのコンテンツにおける静かな音のシーンと大きな音のシーンの間における、音量レベルの違いによって発生する問題を解決する技術です。
Dynamic Volumeは、入力されるソースを常にモニターし、リスナーが設定した好みの音量レベルに常に自動的に調整することで、リスナーを音量調整の煩わしさから解放します。再生中のソースの中に含まれる特徴を正確にモニターし、音量の変化が急激であっても、緩やかな変化であってもソースの特徴に忠実に最適な音量値（リスナー設定値）に自動調整を行います。また、Dynamic Volumeは単独でも有効に機能しますが、Audyssey Dynamic EQを取り込むことにより、音量レベルの調整時やテレビチャンネルの切り換え時、ステレオソースからサラウンドソースなどの切り換え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、台詞の明瞭さを維持しています。

インテリボリューム（機器間の音量差調整）

■インテリボリューム

▶1 dB単位で、－12dB～0dB～+12dB

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも、機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。◄/► ボタンで調整してください。他の機器と比べて、音量が大きい場合は◄ボタン、小さい場合は►ボタンを押して調整します。

ご注意

- インテリボリューム機能は、ゾーン2には効果がありません。

A/Vシンク（映像遅延補正）

■A/Vシンク

▶10 msec単位で、0msec～800msec

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で音声の遅延を調整することができます。**HDMI OUT（アウト） MAIN（メイン）**端子に出力しているとき、再生される映像を見ながら調整するには、**ENTER（エンター）**ボタンを押してください。前の画面に戻るには**RETURN（リターン）**ボタンを押してください。

調整できる範囲はHDMIの「**リップシンク**」設定が「**オン**」の場合、またはお使いのテレビがHDMIリップシンク機能に対応している場合で異なります。

ご注意

- 以下の場合は設定できません。
  - 「**テレビオーディオ出力 (メイン)**」設定を「**オン**」にしている（➔ P.68）、または「**テレビオーディオ出力 (サブ)**」を「**オン**」にして（➔ P.68）、テレビのスピーカーで聴いている。
  - 「**HDMI CEC (RIHD)**」を「**オン**」にして（➔ P.67）、テレビのスピーカーで聴いている。
- A/Vシンク機能はPure Audio（ピュア オーディオ）リスニングモードでは効果がありません。またアナログ入力信号をDirect（ダイレクト）リスニングモードで再生する場合、効果がありません。
- 「**NET**」、「**USB**」および「**BLUETOOTH**」入力セレクタでは使用できません。

セレクタ名変更（名前の編集）

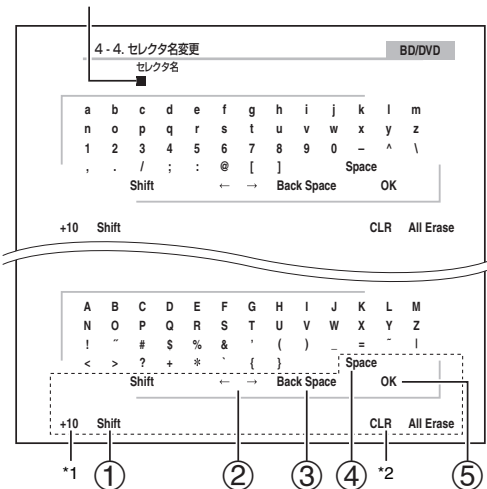
各入力切換に好きな名前を入力して、識別しやすいようにできます。入力した名前が表示部に表示されます。
指定した名前は文字入力画面で編集します。

■セレクタ名

1 **▲/▼/◄/► ボタンを使って文字・記号を選び、ENTERボタンを押す**

この操作をくり返して、最大10文字まで入力します。

2 **入力が終わったら、忘れずに名前を保存する（▲/▼/◄/► ボタンを使って「OK」を選び、ENTERボタンを押す）**

この操作を行わないと名前は保存されません。

① **表示する文字が切り換わります**[*1]。
② **名前入力エリア内でカーソルを移動するときに選びます。**
③ **カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動きます**[*2]。
④ **1文字分空白のスペースを入力します。**
⑤ **入力が完了したときに押します。**

ヒント

- 放送局に名前をつける場合は、**TUNER**ボタンでAM/FMを選び、プリセット番号を選んでください（➔ P.42）。
- 名前を初期値に戻す場合、**CLR**ボタンを押して入力されているすべての文字を削除し、「OK」を選んで**ENTER**ボタンを押してください。

*1 リモコンの**+10**ボタンを押すことでも切り換わります。
*2 リモコンの**CLR**ボタンを押すと、入力したすべての文字を削除できます。

ご注意

- 「NET」、「USB」および「BLUETOOTH」入力セレクタでは使用できません。

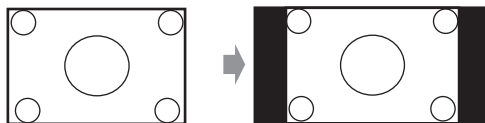
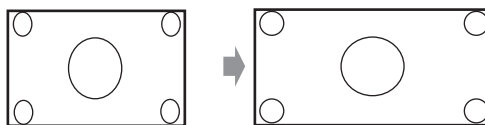
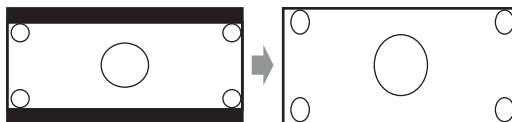
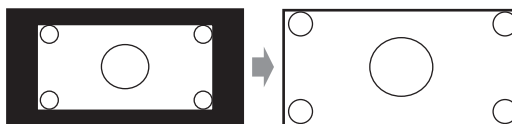
画質調整

画質調整を使うと、画質を調整したり、画面上のノイズを減らすことができます。

HDMI OUT MAIN端子に出力しているとき、設定しながらテレビの映像を確認するには、**ENTER**ボタンを押します。前の画面に戻るには、**RETURN**ボタンを押します。

■ ワイドモード*1*2

この設定で、アスペクト比（縦横比）を設定します。

- 4：3：

- フル：

- ズーム：

- ワイドズーム：

- 自動：
  入力信号とモニター映像出力設定に従って、自動的に「**4：3**」、「**フル**」、「**ズーム**」、「**ワイドズーム**」のいずれかを選びます。モニター映像出力設定については「モニター映像出力」（➔ P.57）をご覧ください。

■ ピクチャーモード*1

- **カスタム設定**：
  すべての項目を、好みに応じて、設定できます。
- Cinema：
  映像ソースが映画などの場合に選びます。
- Game：
  映像ソースがゲームの場合に選びます。
- **スタンダード**：
  画質調整をしない（解像度は変更する）場合に選びます。
- **バイパス**：
  画質調整をしない（解像度を変更しない）場合に選びます。

ピクチャーモードでは、「**ゲームモード**」、「**フィルムモード**」、「**エッジエンハンスメント**」、「**ノイズ低減**」、「**明るさ**」、「**コントラスト**」、「**色合い**」、「**彩度**」、「**色温度**」といった設定を、ワンタッチで映画やゲームの画面に適した設定に変更できます。

■ ゲームモード*3*4*5

- **オフ**
- **オン**

ゲーム機など、本機に接続したビデオ機器の再生中に、ビデオ信号の遅延が発生する場合は、機器に接続した入力で、「**ゲームモード**」を選択して、「**オン**」に設定してください。遅延は改善しますが、画質は劣化します。

■ フィルムモード*3*5

- **ビデオ**：
  「**フィルムモード**」を適用せず、ビデオソースとして入力信号を処理します。
- **自動**：
  ビデオソースかムービーソースを判別します。ムービーソースの場合、最適な処理を行います。

本機は自動的に映像ソースを判別し、映像ソースに合わせて最適な処理を行い、映像ソースが持つ自然な質感を再現することができます。

■ エッジエンハンスメント*3*5*6

- **オフ**
- **弱**
- **中**
- **強**

この設定で縁の鋭さを調整できます。

■ ノイズ低減*3*5*6

- **オフ**
- **弱**
- **中**
- **強**

この設定で画面に現れるノイズを低減することができます。

■ 明るさ*1*3*5

- －50～0～+50

  この設定で画面の明るさを調整できます。
  「－50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ コントラスト*1*3*5

- －50～0～+50

  この設定で明暗の差を調整できます。
  「－50」は最もコントラストが弱くなります。
  「+50」は最もコントラストが強くなります。

■ 色合い*1*3*5

- －50～0～+50

  この設定で元の色に対して色合いを補正することができます。
  「－50」から「+50」の範囲で調整できます。

■ 彩度*1*3*5

- －50～0～+50

  この設定で濃さを調整できます。
  「－50」は最も淡い色になります。「+50」は最も鮮やかな色になります。

■ 色温度*3*5

- **暖色**
- **通常**
- **寒色**

この設定で色温度を調整できます。

ご注意

- 以下の場合、「**画質調整**」は使用できません。
  - 「NET」、「USB」または「BLUETOOTH」入力セレクタを選んでいる。
  - 「**モニター出力設定**」を「**サブ**」に設定している。

*1 この操作は、Quick Setupメニューを使って行うこともできます（➔ P.52）。
*2 3D映像を入力している場合、「**ワイドモード**」設定は「**フル**」に固定されます。
*3 「**ピクチャーモード**」設定を「**カスタム設定**」以外に設定している場合、この設定は使えません。
*4 「**解像度**」設定を「**4K**」に設定している場合（➔ P.57）、この設定は「**オフ**」に固定されます。
*5 初期設定値に戻したい場合は、リモコンの**CLR**ボタンを押してください。
*6 「**ゲームモード**」設定を「**オン**」に設定している場合は、この設定は「**オフ**」に固定されます。

音声入力

■ 音声入力

- ARC：

  テレビチューナーの音声信号を、本機の**HDMI OUT MAIN**端子に送ることができます。*1
  この設定で、テレビの音声をほかの設定よりも、優先的に自動選択できます。

- HDMI：

  これは、**HDMI IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。HDMI（**HDMI IN**端子）とデジタル音声入力（**COAXIAL IN**端子または**OPTICAL IN**端子）の両方を割り当てた場合は、HDMIが優先的に自動選択されます。

- COAXIAL（**同軸入力**）：

  これは、**COAXIAL IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。同軸入力とHDMI入力の両方を割り当てた場合は、同軸入力が優先的に自動選択されます。

- OPTICAL（**光入力**）：

  これは、**OPTICAL IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。HDMI入力と光入力の両方を割り当てた場合は、光入力が優先的に自動選択されます。

- **アナログ**：

  常に、アナログ音声が出力されます。

デジタルとアナログの両方の入力がある場合は、音声出力の優先順位を設定できます。

ご注意

- この設定は、入力ソースが**HDMI IN**端子、**COAXIAL IN**端子、または**OPTICAL IN**端子に設定されている場合しか設定できません。
- 「**音声入力**」設定は「NET」、「USB」および「BLUETOOTH」入力セレクタでは使用できません。

*1 「TV/CD」入力セレクタを選んでいる場合に「ARC」を選ぶことができます。「Audio Return Channel」設定で「オフ」を選んでいる場合は、選ぶことができません（➔ P.69）。

■固定モード

▶ オフ：
デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

▶ PCM：
PCMの2チャンネル入力信号のみ聴こえます。PCM以外の音声が入力された場合、PCM表示が点滅し、ノイズが生じます。

▶ DTS：
DTS（DTS-HDは除く）の入力信号のみ聴こえます。DTS以外の音声が入力された場合、dts表示が点滅し、音が出ません。

「**音声入力**」で「**HDMI**」、「**COAXIAL（同軸入力）**」、「**OPTICAL（光入力）**」を選択した場合、「**固定モード**」で入力信号を指定することができます。
DTSやPCM信号の再生中に、ノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

- PCMソースのトラックの冒頭が切れる場合は、PCMに設定してみてください。
- DTS CDを早送りまたは巻き戻しすると、ノイズが発生する場合は、DTSに設定してみてください。

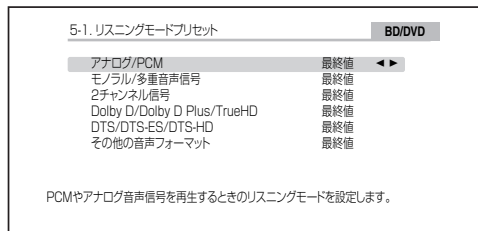
ご注意

- 「**音声入力**」の設定を変更すると、設定が「**オフ**」に戻ります。

5. リスニングモードプリセット

入力される信号によって、お好みのリスニングモードを初期設定しておくことができます。
たとえば、音楽CDのPCM信号を再生するときは、常にステレオモードで再生したり、ブルーレイディスクのDolby TrueHD信号を再生するときは、「**ストレートデコード**」を選択して、常にそのままの音場で再生できる機能です。
再生中にリスニングモードを切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると、設定されたリスニングモードに戻ります。

1 **▲/▼ボタンを押して設定したい入力ソースを選び、ENTERボタンを押す**

以下のメニューが表示されます。

2 **▲/▼ボタンを押して、設定したい信号の種類を選び、◄/► ボタンを押してリスニングモードを選ぶ**

選択できるリスニングモードは、設定する入力信号によって異なります（➔ P.44〜48）。
「**最終値**」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。
「**ストレートデコード**」はDolbyやDTSなどのストレートデコードのリスニングモードを選びます。

ご注意

- 「**TUNER**」入力セレクタには「**アナログ**」のみ割り当てることができます。
- 「**NET**」、「**USB**」入力セレクタには「**デジタル**」および「**TrueHD**」を割り当てることができます。
- 「**BLUETOOTH**」入力セレクタには「**デジタル**」のみ割り当てることができます。

■アナログ/PCM（デジタル）

CDなどのPCM信号や、レコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■モノラル/多重音声信号

モノラル/多重音声信号で記録されたDolby Digital、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■2チャンネル信号

2チャンネルで記録されたDolby Digitalなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■Dolby D/Dolby D Plus/TrueHD

Dolby Digital、Dolby Digital PlusおよびDolby TrueHD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■DTS/DTS-ES/DTS-HD

DTS形式やDTS-HD High Resolution形式のデジタル音声信号（DVD、LD、CDなど）を再生するときに、使用するリスニングモードを指定できます。ブルーレイやハイビジョンDVD（HDMIで入力）などの、DTS-HD Master Audioソース用の既定のリスニングモードを指定します。

■その他の音声フォーマット

AAC、DVD-Audioなど、**HDMI IN**端子から入力される多重チャンネルPCMソース用の、既定のリスニングモードを指定します。スーパーオーディオCDのDSD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

セットアップメニュー（**HOME**）の操作手順
（➔ P.56）

6.その他

ボリューム設定

■最大ボリューム値

▸オフ、30～79

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大値を設定することができます。
この設定を無効にするには、「**オフ**」を選びます。

■電源オン時ボリューム値

▸**最終値**、**最小**、1～79または**最大**

本機の電源を入れたときの音量を、一定に設定しておくことができます。
本機をスタンバイ状態にする前の音量を、そのまま残したい場合は「**最終値**」を選びます。
「**電源オン時ボリューム値**」には、「**最大ボリューム値**」で設定した値より高く設定することはできません。

■ヘッドホン音量レベル

▸－12dB～0dB～+12dB

スピーカーで聴くときとヘッドホンで聴くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。

OSD設定

■オンスクリーンディスプレイ

▸**オン**
▸**オフ**

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。
「**オン**」に設定しても、再生機器をHDMI入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されない場合があります。

■言語（Language）

▸**日本語**、**English**（英語）、**Deutsch**（ドイツ語）、**Français**（フランス語）、**Español**（スペイン語）、**Italiano**（イタリア語）、**Nederlands**（オランダ語）、**Svenska**（スウェーデン語）

操作内容の表示言語を選択して設定できます。

■スクリーンセーバー

▸3min、5min、10min
▸**オフ**

この設定では、スクリーンセーバーの起動時間を設定します。スクリーンセーバー起動中に本機の操作を行った場合、スクリーンセーバーへ移行する直前の画面が表示されます。

7.ハードウェア設定

HDMI

■HDMI CEC (RIHD)

▸**オフ**
▸**オン**

ヒント

- 本体の**RIHD**ボタンでも操作できます。

本機とHDMI接続したCEC対応テレビや、RIHD対応機器と連動動作するかどうかを設定します。
ご使用のテレビによっては、テレビ側でリンク設定などを行う必要があります。
詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 「**オン**」に設定してメニューを閉じると、本機の表示部に、接続したRIHD対応機器名称と、「RIHD On」を表示します。
  表示例：“Search（サーチ）…”→“**（機器名称）**”→“RIHD On”
  接続した機器の名称が取得できないときは、「Player（プレーヤー）＊」または「Recorder（レコーダー）＊」などを表示します。
  （＊は機器を複数台接続したときの台数を表します。）
- RIHD対応機器が本機とHDMI接続されたとき、本機の表示部に、接続機器の名称が表示されます。例えば、テレビ番組を見ているとき、本機のリモコンを使用してブルーレイディスク/DVD操作を行ったなら、本機の表示部にブルーレイディスク/DVDプレーヤーの名称が表示されます。
- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「**オフ**」に設定してください。
- 「**オン**」に設定して、おかしな動作をする場合は「**オフ**」にしてください。

セットアップメニュー（**HOME**）の操作手順
（➔ P.56）

- 「HDMI CEC (RIHD)」を「**オン**」に設定した場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。（ただし、テレビの状態により通常の待機時消費電力モードになります。）
- RIHD コントロールは**HDMI OUT SUB**端子では動作しません。**HDMI OUT MAIN**端子に接続してください。
- 「HDMI CEC (RIHD)」を「**オン**」に設定した場合、接続機器はRI接続しないでください。機器が故障する場合があります。

■HDMIスルー

- **オフ**
- BD/DVD、CBL/SAT、GAME、PC、AUX、TV/CD、PHONO：
  HDMIスルー機能を有効にする入力ソースを選択します。
- **最終値**：
  本機をスタンバイ状態にする前に選択していた入力ソースにHDMIスルー機能を有効にします。

「**HDMI CEC (RIHD)**」設定を「**オン**」に設定したときに、この設定は「**自動**」に固定されます。
HDMIスルー機能は、本機がスタンバイ状態においても、HDMI入力端子から入力された映像信号を、HDMI接続したテレビや他機器に出力します。
詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
スタンバイモードでHDMIスルー機能が有効になると、**HDMI**表示がうす暗く点灯します。使用状況によっては点灯しない場合があります（➔ P.27）。

ご注意

- 「**HDMI入力**」に割り当てられている入力ソースのみに有効です（➔ P.57）。
- HDMIスルー機能の使用中は、本機がスタンバイ状態でも電力消費が増大しますが、CECに対応したテレビを使っていて、以下の場合は電力消費を低減できます。
  - テレビがスタンバイ状態になっている。
  - テレビ番組を視聴している。
- 「**自動**」に設定されている場合、接続した機器によっては正しい入力ソースを選択しない場合もあります。
- 「HDMI CEC (RIHD)」設定を「**オフ**」にした場合、この設定は連動して「**オフ**」に設定されます。
- この機能は**HDMI OUT MAIN**端子にのみ有効です。

■テレビオーディオ出力（メイン）

- **オフ**
- **オン**

HDMI OUT MAIN端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機の**HDMI OUT MAIN**端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、本機の電源がオンの状態でテレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「**オフ**」にしておいてください。
「HDMI CEC (RIHD)」の設定が「**オン**」の場合、自動的に「**自動**」となり「**オン**」、「**オフ**」の設定は出来ません（➔ P.67）。

ご注意

- 「**テレビオーディオ出力（メイン）**」が「**オン**」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。その場合、**DISPLAY**ボタンを押すと、表示部に「TV Speaker」が表示されます。
- 「**モニター出力設定**」を「**サブ**」に設定している場合は（➔ P.57）、この設定は「**オフ**」に固定されます。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「**オン**」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- 「**テレビオーディオ出力（メイン）**」または、「**HDMI CEC (RIHD)**」の設定が「**オン**」になっていて、ご利用のテレビのスピーカーを通してお聴きになっているときに、本機の**MASTER VOLUME**つまみを操作すると、本機の左右フロントスピーカーから音声が出力されます。音声を出力させたくないときは、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。
- 「**オン**」に設定してTVから音声が出力されているときは、リスニングモードを変更できません。
- この設定を有効にした場合でも、プレーヤーからTVが対応していない音声信号が出力された場合には、TVから音声出力されません。
  TVから音声出力できない（「**モニター出力設定**」を「**両方**」に設定しているときは、**HDMI OUT MAIN/SUB**端子の両方に接続しているTVから音声出力できない）場合には、本機のスピーカーから音声が出力されます。

■テレビオーディオ出力（サブ）

- **オフ**
- **オン**

HDMI OUT SUB端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機の**HDMI OUT SUB**端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、本機の電源がオンの状態でテレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「**オフ**」にしておいてください。

ご注意

- 「**テレビオーディオ出力（サブ）**」が「**オン**」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。その場合、**DISPLAY**ボタンを押すと、表示部に「TV Speaker」が表示されます。
- 「**モニター出力設定**」を「**主**」に設定している場合は（➔ P.57）、この設定は「**オフ**」に固定されます。
- 「**モニター出力設定**」を「**両方**」に設定していて（➔ P.57）、この設定を有効にしている場合は、ソース機器の音声出力を2ch PCM に設定してください。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「**オン**」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- 「**テレビオーディオ出力（サブ）**」の設定が「**オン**」になっていて、ご利用のテレビのスピーカーを通してお聴きになっているときに、本機の**MASTER VOLUME**つまみを操作すると、本機の左右フロントスピーカーから音声が出力されます。音声を出力させたくないときは、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。
- 「**オン**」に設定してTVから音声が出力されているときは、リスニングモードを変更できません。
- 「**モニター出力設定**」を「**両方**」に設定していて（➔ P.57）、「**テレビオーディオ出力（サブ）**」のみ「**オン**」に設定している場合、音声入力がHDMI以外のときは、**HDMI OUT SUB**端子に接続しているTVからの音声は、出力されません。
- この設定を有効にした場合でも、プレーヤーからTVが対応していない音声信号が出力された場合には、TVから音声出力されません。
  TVから音声出力できない（「**モニター出力設定**」を「**両方**」に設定しているときは、**HDMI OUT MAIN/SUB**端子の両方に接続しているTVから音声出力できない）場合には、本機のスピーカーから音声が出力されます。

セットアップメニュー (**HOME**)の操作手順
(➔ P.56)

■ Audio Return Channel（オーディオ リターン チャンネル）
- ▸**オフ**
- ▸**自動**：

  テレビチューナーの音声信号を本機の**HDMI OUT**（アウト）**MAIN**（メイン）端子に送ることができます。

オーディオリターンチャンネル（ARC）は、HDMIで接続したテレビの音声信号を、本機の**HDMI OUT MAIN**端子に送る機能です。この機能を使用するには、お使いのテレビがARC機能に対応している必要があります。
HDMIケーブルでテレビと本機を接続するだけで、本機でテレビの音を楽しんだり、本機に接続したAV機器の映像や音をテレビに出力することができます。
ARC機能を使用するには、まず入力切換で「TV/CD」を選択します。次に「HDMI CEC (RIHD)」を「**オン**」に設定し、「Audio Return Channel」設定を「**自動**」に設定してください。音声信号が入力されるとARC表示が点灯します。
「HDMI CEC (RIHD)」設定を初めて「**オン**」に設定したときに、この設定は自動的に「**自動**」に設定されます。お買い上げ時の設定：「- - - - -」

ご注意
- 「Audio Return Channel」設定を「**自動**」に設定した場合、「TV/CD」入力セレクタの「**音声入力**」は「ARC」に切り換わります（➔ P.65）。
- 「Audio Return Channel」設定は、「HDMI CEC (RIHD)」設定を「**オン**」に設定しているときしか設定できません。

ヒント
- 「HDMI CEC (RIHD)」、「HDMIスルー」、「Audio Return Channel」、の設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、電源を入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。

■ ジャンル連動
- ▸**オフ**
- ▸**自動**

HDMI接続しているテレビのジャンル情報に応じて、リスニングモードを自動的に切り換えることができます。
「HDMI CEC (RIHD)」設定を初めて「**オン**」に設定したときに、この設定は自動的に「**自動**」に設定されます。

ご注意
- 「**ジャンル連動**」設定は、「HDMI CEC (RIHD)」設定を「**オン**」に設定しているときしか設定できません。
- リスニングモードは手動で切り換えることができますが、ジャンル情報が変わると、自動的に対応するリスニングモードに切り換わります。
- 本機能の対応テレビは、東芝製のレグザリンク対応テレビの一部、日立製Woooリンク対応テレビの一部です。詳しくはオンキヨーホームページでご確認ください。
- ヘッドホンを接続している場合、設定できません。

■ リップシンク
- ▸**オフ**
- ▸**オン**

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

ご注意
- リップシンク機能はHDMI Lip Sync（リップ シンク）対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。

■ InstaPrevue（インスタプレビュー）

この設定では、ホームメニューの「InstaPrevue」で表示される、HDMI入力映像のプレビュー表示を設定します。

子画面の表示方法
- ▸**すべて表示**：

  HDMI IN 1/**2**/**3**/**4**/**5**のプレビュー画面を一括して表示します。
- ▸**一つ表示**：

  HDMI IN 1/**2**/**3**/**4**/**5**のプレビュー画面を個別に表示します。

子画面で表示するプレビュー画面の数を設定します。

子画面の表示位置

（「**子画面の表示方法**」を「**すべて表示**」に設定している場合）
- ▸**上**、下、**左**、**右**

（「**子画面の表示方法**」を「**一つ表示**」に設定している場合）
- ▸**左上**、**右上**、**左下**、**右下**

子画面で表示するプレビュー画面の位置を設定します。

ご注意
- 映像の信号方式によっては、子画面に正しく表示されないことがあります。

自動スタンバイ

■ 自動スタンバイ
- ▸**オフ**
- ▸**オン**

「**オン**」に設定した場合、Asb表示が点灯し、映像/音声入力がない状態で本機を30分間操作しないでいると、自動的にスタンバイ状態へ移行します。
スタンバイ状態へ移行する30秒前に、本機表示部とメニュー画面に「Auto Standby」と表示されます。

ご注意
- この設定を「**オン**」にした場合、ソースによっては、再生中にスタンバイ状態に移行することがあります。
- 別室（ゾーン）への出力をオンにしている場合、自動スタンバイは、作動しません。

■ HDMIスルー
- ▸**オフ**
- ▸**オン**

HDMIスルー設定中の映像/音声入力信号検出による自動スタンバイの有効/無効を設定します。
この設定を「**オン**」に設定した場合、HDMI スルー状態で映像/音声入力がない状態が30分間続くと自動的にスタンバイ状態に移行します。
「**オフ**」に設定した場合、映像/音声入力にかかわらずHDMIスルー状態が継続されます。

セットアップメニュー (**HOME**)の操作手順
(➔ P.56)

ヒント

- 「**HDMI CEC (RIHD)**」を「**オン**」に設定して、CEC対応機器と組み合わせた場合は、上記設定にかかわらずスタンバイ状態へ移行することができます。連動動作について詳しくは、「7.ハードウェア設定」の「**HDMI CEC (RIHD)**」をご覧ください（➔ **P.67**）。
- HDMIスルー状態では、消費電力が少し増加します。

ご注意

- 「**自動スタンバイ**」を「**オフ**」に設定していると、この設定は「**オフ**」に固定されます。

ネットワーク

本機をホームネットワーク（LAN）に接続して使えるようにするためにネットワーク設定をする必要があります。
ネットワーク設定を変更する場合は、変更後に「**設定保存**」を実施する必要があります。
DHCPでホームネットワーク（LAN）を構築している場合は、「**DHCP**」を「**有効**」にすれば、ホームネットワーク（LAN）で使用できるようになります。（初期設定では、この状態になっています。）
各機器に固定IPアドレスを割り当てている場合は、「**IPアドレス**」で本機にIPアドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなどお使いのホームネットワーク（LAN）に関する情報を入力する必要があります。

■ネットワーク接続

- **有線**
- **ワイヤレス**

本機を有線LANでネットワークに接続するか、無線LANでネットワークに接続するかを設定します。無線LAN でネットワークに接続したい場合は、「**ワイヤレス**」を選んでください。設定方法は「無線LANの設定をする」をご覧ください（➔ **P.31**）。

ヒント

- 初期設定の「**ネットワーク接続**」で 「**ワイヤレス**」を選んだ場合でも、同様の設定を行うことができます（➔ **P.28**）。

■MACアドレス

本機のMACアドレスを確認できます。この値は機器固有のもののため、変更することはできません。

■DHCP

- **有効**
- **無効**

この設定で本機のIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーを自動で設定するかどうかを設定します。

ご注意

- 「**無効**」を選んだ場合、「**IPアドレス**」、「**サブネットマスク**」、「**ゲートウェイ**」、「**DNSサーバー**」を手動で設定してください。

■IPアドレス

- Class A：
  「**10.0.0.0**」～「**10.255.255.255**」
- Class B：
  「**172.16.0.0**」～「**172.31.255.255**」
- Class C：
  「**192.168.0.0**」～「**192.168.255.255**」

ISPから提供されたIPアドレスを入力してください。
ほとんどのルータはClass Cを使用します。

■サブネットマスク

ホームネットワーク（LAN）のサブネットマスクを表示または設定します。

■ゲートウェイ

ホームネットワーク（LAN）のゲートウェイアドレスを表示または設定します。

■DNSサーバー

ホームネットワーク（LAN）のDNSサーバー（プライマリ）を表示または設定します。

■プロキシURL

プロキシサーバーのURLを入力します。URLが不明な場合は、ご使用のISPにお問い合わせください。

■プロキシポート

この設定は上記「**プロキシURL**」設定が入力されているときだけ機能します。プロキシサーバーのポート番号を入力します。ポート番号が不明な場合は、ご使用のISPにお問い合わせください。

■ネットワークスタンバイ

- **オン**
- **オフ**

ネットワークを通じて本機をコントロールできるかどうかを設定します。

ご注意

- 「**オン**」に設定している場合、スタンバイ状態時に**NET**表示がうす暗く点灯します。この場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。使用状況によっては点灯しない場合があります（➔ **P.27**）。

■アップデート通知

- **有効**
- **無効**

この設定を有効にすると、ネットワーク経由で重要度の高いファームウェアの更新がある場合に通知します。

ご注意

- アップデート通知画面で「**アップデートしません**」を選んだ場合、この設定は「**無効**」に切り換わります。
- ファームウェアの更新通知メッセージについて詳しくは、「ファームウェアアップデート通知」をご覧ください（➔ **P.26**）。

■Bluetooth（ブルートゥース）

Bluetooth対応機器とのペアリングができます。

ステータス

ENTER（エンター）ボタンを押すと「**ペアリング中**」と表示され、ペアリングが開始されます。

ヒント

- ペアリングされていないときは、「**待機中**」と表示されます。ペアリングされている機器がある場合は、その機器名が表示されます。
- Bluetooth接続を行う手順については、その機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本体の**BLUETOOTH**ボタンを**BLUETOOTH**インジケーターが点滅するまで長押しした場合でも、ペアリングができます。

ご注意

- 別室（ゾーン）に**NET**（ネット）または**USB**入力セレクタを選んでいる場合は、この設定は、選択できません。

初期設定

初回起動時に設定する「**初期設定**」を行います。詳しくは、「初期設定（設定ウィザード）」をご覧ください（➔ **P.27**）。

ご注意

- 「**モニター出力設定**」を「**サブ**」に設定している場合は（➔ **P.57**）、この設定は、選択できません。

8. リモコン設定

リモコンID

■リモコンID

▸ 1、2、3

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコンIDを変更することができます。「**1**」、「**2**」、「**3**」から選べます。お買い上げ時は、本機、リモコンともに「**1**」に設定されています。設定したら、次にリモコン側の設定をします。

ご注意

- リモコン、本機共に同じリモコンIDに設定する必要があります。

リモコン本体のIDを変更する

1. **RECEIVER（レシーバー）ボタンを押しながら、リモートインジケーターが点灯するまでQ SETUP（セットアップ）ボタンを長押しする（約3秒間）**
2. **数字ボタンで、1、2、3のいずれかのIDを入力する**
   リモートインジケーターが2回点滅します。

リモコン登録

「リモコンコードを検索する」をご覧ください（➔ **P.73**）。

9. ロック設定

お好みで、セットアップメニューのロックで設定を保護することができます。

■セットアップ

▸ **ロック**
▸ **解除**

「**ロック**」を選択した場合、すべての設定が変更できなくなります。

セットアップメニュー（**HOME**）の操作手順（➔ P.56）

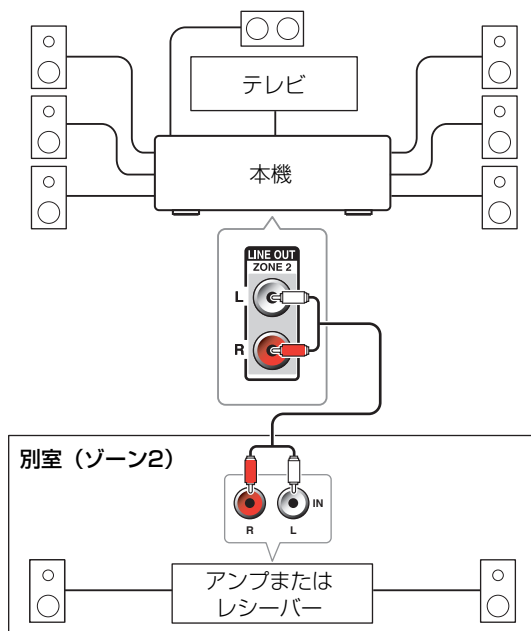
別室（ゾーン）で音楽を鑑賞する

別室用のアンプを接続して異なるソースをお楽しみいただくことができます。

ゾーンの接続をする

アンプまたはレシーバーを接続する場合

メインルームで7.1チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。

メインルーム

ヒント

- 音量は別室で使用するアンプまたはレシーバーで調整してください。

別室（ゾーン）で音楽を鑑賞する

ここでは、ゾーン2のオン・オフの方法、入力ソースの設定の方法を説明しています。

リモコンで操作する

⏻ **RECEIVER** ボタン

ZONE2ボタン

INPUT SELECTOR ボタン

1 **ZONE2ボタンを押してから、⏻ RECEIVERボタンを押す**

ゾーン2がオンになり、**Z2**表示が点灯します。

2 **ZONE2ボタンを押してから、INPUT SELECTORボタンを押して入力を選ぶ**

3 **ゾーン2をオフにするには、ZONE2ボタンを押してから、⏻ RECEIVERボタンを押す**

ゾーン2がオフになり、**Z2**表示が消灯します。

ご注意

- **ZONE 2 LINE OUT**端子はアナログ信号と「**NET**」、「**USB**」入力セレクタの信号のみ出力します。
- AM/FM放送をお聴きになる場合、メインルームとゾーン2で違う放送局を選べません。同じ放送局をそれぞれの部屋でお聴きいただけます。
- ゾーン2への出力がオンになっているときは、RI連動機能は働きません。
- メインルームとゾーン2とでは、「**NET**」、「**USB**」入力セレクタをそれぞれ別々に選択することはできません。例えば、メインルームで「**NET**」入力セレクタを選択している場合に、ゾーン2の入力セレクタに「**USB**」を選択すると、メインルームも「**USB**」入力セレクタに切り換わります。
- 別室（ゾーン）の入力セレクタに「**BLUETOOTH**」を選ぶことはできません。
- ゾーン2を選択時は、待機時の消費電力が増加します。
- ゾーン2への出力中に、本機がスタンバイ状態になると、**Z2**表示がうす暗く点灯します。
- メインルームでPure Audioリスニングモードを選択しているときに、ゾーン2の出力をオンにすると、自動的にDirectに変更されます。

本機のリモコンで他の製品を操作する

本機のリモコンを使って、他社製の機器も含め、お手持ちのAV機器を操作できます。ここでは、DVDプレーヤー、テレビ、CDプレーヤーなど、操作したい機器のリモコンコードの入力方法について説明します。

すでに登録されているコードについて

REMOTE MODEボタンには、あらかじめ下記機器のコードが登録されていますので、これらの機器が操作できます。該当する機器の操作についてはリモコンコードを登録する必要はありません。
これらの機器の操作方法については、該当ページをご覧ください。

BD/DVDボタン：オンキヨー製DVDプレーヤー（➔ **P.75**）
TV/CDボタン：オンキヨー製CDプレーヤー（➔ **P.74**）

リモコンコードを検索する

OSDセットアップメニューから、最適なリモコンコードを検索することができます。

ご注意
- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら下記の設定ができます。

1 RECEIVERボタンを押して、HOMEボタンを押す

2 ◄/►ボタンまたは▲/▼ボタンで「セットアップ」を選び、ENTERボタンを押す

3 ▲/▼ボタンで「リモコン設定」を選び、ENTERボタンを押す

4 ▲/▼ボタンで「リモコン登録」を選び、ENTERボタンを押す

5 ▲/▼ボタンでリモートモードを選び、ENTERボタンを押す
カテゴリーの選択画面が表示されます。

6 ▲/▼ボタンでカテゴリーを選び、ENTERボタンを押す
ブランド名の入力画面が表示されます。

7 ▲/▼/◄/►ボタンで文字を選び、ENTERボタンを押す
ブランド名の入力を、1文字目から3文字目までくり返してください。

3文字目を入力したあと「Search」を選び、**ENTER**ボタンを押します。
検索後、ブランド名のリストが表示されます。

ブランド名が表示されなかった場合は►ボタンを押して「Not Listed」を選び、ENTERボタンを押す
ブランド名入力画面が表示されます。

8 ▲/▼ボタンでブランド名を選び、ENTERボタンを押す
検索が終わると、リモコンモードと登録手順が表示されます。試してみてください。

9 機器を操作できる場合は、▲/▼ボタンで「OK」を選び、ENTERボタンを押す
「**リモコン登録**」メニューが表示されます。

機器を操作できない場合は、▲/▼ボタンで「次のコードを試す」を選び、ENTERボタンを押す
次のコードが表示されます。

リモコンコードを登録する

操作したい機器ごとにコードを入力する必要があります。

1 リモコンコード表で、該当するリモコンコードを探す（➔ P.79）
コードはカテゴリー別に分類されています（DVDプレーヤー、テレビなど）。

2 コードを登録したいREMOTE MODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを3秒以上押す
リモートインジケーターが点灯します。

ご注意
- **RECEIVER**ボタンとマルチゾーンボタンには、リモコンコードを入力できません。
- **TV**ボタンには、テレビのリモコンコードしか入力できません。
- **RECEIVER**ボタン、**TV**ボタン、マルチゾーンボタンを除き、**REMOTE MODE**ボタンはどのカテゴリーのリモコンモードでも登録できます。ただし、**REMOTE MODE**ボタンは、入力切換ボタンも兼ねています。**REMOTE MODE**ボタンにコードを登録するときは、操作したい機器を接続している端子と同じモードにコードを登録してください。たとえば、CDプレーヤーをCD入力端子に接続しているときは、**TV/CD**ボタンにそのCDプレーヤーのコードを登録してください。

3 30秒以内に、数字ボタンで、5桁のリモコンコードを入力する
リモートインジケーターが2回点滅し、登録が完了します。
正しく登録できなかったときは、リモートインジケーターがゆっくりと1回点滅します。

ご注意
- リモコンコード表は制作時点のものであり、変更される可能性もあります（➔ **P.79**）。

セットアップメニュー（**HOME**）の操作手順（➔ P.56）

カラーボタンの割り当てを変更する

ご使用の機器のリモコンコードがあらかじめ登録された**REMOTE MODE**ボタンに、カラーボタンの割り当てを変更できます。

1 設定を行いたいREMOTE MODEボタンとA（赤）ボタンをリモートインジケーターが点灯するまで同時に押す（約3秒間）

リモコンコードのカテゴリーに属するコードに対してのみ割り当てを変更できます。（DVDプレーヤー、テレビ、ケーブルテレビチューナーなど）

2 30秒以内にカラーボタンを割り当てたい順番に押す

押したカラーボタンは、それぞれ左から右に順に割り当てられます。リモートインジケーターが2回点滅し、登録が完了します。正しく登録できなかったときは、インジケーターがゆっくりと1回点滅します。

ヒント

- リセットする場合は、「REMOTE MODEボタンをリセットする」をご覧ください。

ご注意

- カラーボタン以外の無効なボタンを押すと、登録がキャンセルされます。
- RECEIVERモード、またはゾーン2を選んでいる場合は、変更できません。

オンキヨー製品のRI専用リモコンコードを登録する

RI接続しているオンキヨー製機器を操作する場合は、リモコンをその機器ではなく、本機に向けて操作します。したがって、ラックなどに設置している見えない機器でも操作できます。

1 本機とオンキヨー製機器がRIケーブルとオーディオ用ピンコードでアナログ（RCA）接続されていることを確認する

詳しくは「オンキヨー製品と連動させる接続」をご覧ください（➔ P.25）。

2 各REMOTE MODEボタンにRI専用リモコンコードを登録する

- **42157**：
  オンキヨー製カセットテープデッキのRI専用リモコンコード
- **81993**：
  オンキヨー製ドックのRI専用リモコンコード

3 REMOTE MODEボタンを押し、リモコンを本機に向けて機器を操作する

ご注意

- 掲載しているリモコンコードは印刷時点のものです。機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

RI接続していないオンキヨー製機器を操作する場合

オンキヨー製機器に直接リモコンを向けて操作したい場合や、RI接続していないオンキヨー製機器を操作したい場合は、以下のリモコンコードを使ってください。

- **30627**：
  オンキヨー製DVDプレーヤー
- **71817**：
  オンキヨー製CDプレーヤー
- **70868**：
  オンキヨー製MDレコーダー
- **71323**：
  オンキヨー製CDレコーダー
- **82990**：
  オンキヨー製ドック

REMOTE MODEボタンをリセットする

特定の**REMOTE MODE**ボタンを初期設定（お買い上げ時の状態）のリモコンコードにリセットできます。

1 リセットしたいREMOTE MODEボタンを押しながら、リモートインジケーターが点灯するまで、HOMEボタンを3秒以上押す

2 30秒以内にREMOTE MODEボタンをもう一度押す

リモートインジケーターが2回点滅すると、ボタンのリセットは完了です。
各**REMOTE MODE**ボタンには、あらかじめリモコンコードが設定されています。ボタンをリセットすると、あらかじめ設定されていたコードが再度設定されます。

リモコンをリセットする

リモコンをリセットして、初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すことができます。

1 RECEIVERボタンを押しながら、リモートインジケーターが点灯するまで、HOMEボタンを3秒以上押す

2 30秒以内にRECEIVERボタンをもう一度押す

リモートインジケーターが2回点滅すると、リモコンのリセットは完了です。

その他の機器を操作する

ご使用の機器のリモコンコードがあらかじめ登録された**REMOTE MODE**ボタンを押すと、以下のように操作できます。
他の機器のリモコンコードを入力する方法については「リモコンコードを登録する」をご覧ください（➔ P.73）。

テレビを操作する

TVボタンには、あらかじめRIHD[*1]対応テレビ（一部モデルに限る）を連動操作するリモコンコードが登録されています。RIHDでリモコンコマンドを受信できるテレビを、本機にHDMI接続してください。RIHDでテレビを正常に操作できない場合は、お手持ちのテレビのリモコンコードを**TV**ボタンに設定し、テレビを操作してください。

- 11807/13100/13500：
  RIHD対応テレビ

MHL対応モバイル機器を操作する

MHLのコードを本機のリモコンに登録すると、MHL対応モバイル機器を本機のリモコンで操作することができます。

MHL対応機器は**HDMI IN 1**端子に接続してください。リモコンコードは**AUX**ボタンにプリセットすることをお勧めします。

- 33501：
  MHL対応モバイル機器

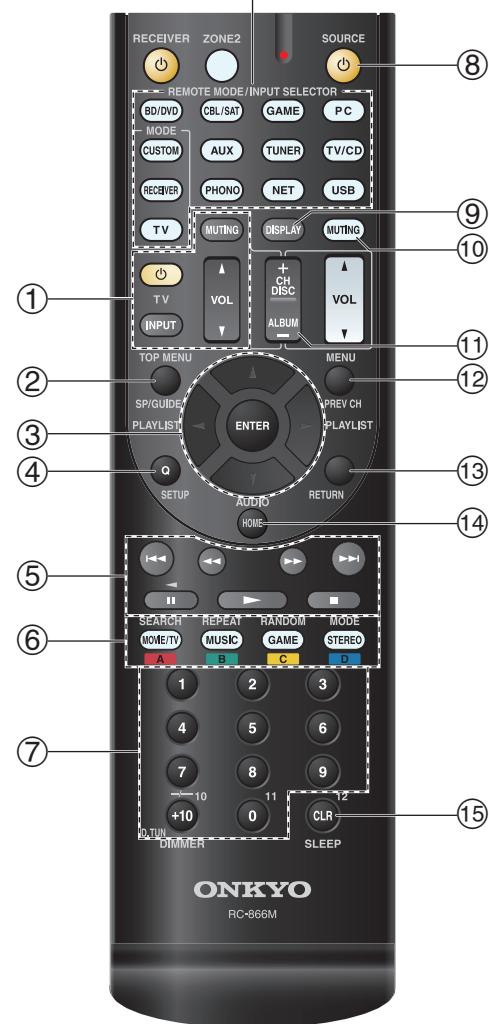
ヒント

- ご使用のモバイル機器によっては、動作が不安定だったり正しく動作しない場合があります。

ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、HD DVDプレーヤー、DVDレコーダーを操作する

BD/DVDボタンには、あらかじめRIHD[*1]対応機器（一部モデルに限る）を連動操作するリモコンコードが登録されています。RIHDでリモコンコマンドを受信できる機器を、本機にHDMI接続してください。

- 32910/33101/33501/31612：
  RIHD対応ブルーレイディスク/DVDプレーヤー

*1 本機が提供するRIHD機能は、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）システム制御機能を使用して、CECに対応した機器と連動する機能です。
RIHD対応機器以外での動作は保証いたしません。

■テレビの操作

使用できるボタン			
①	⏻、INPUT、VOL ▲/▼、MUTING	⑦	数字 1～9、0、+10*1
		⑨	DISPLAY
②	GUIDE	⑪	CH +/–
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑫	PREV CH
④	SETUP	⑬	RETURN
⑤	►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙*1	⑭	AUDIO*1
		⑮	CLR
⑥	A（赤）*1		
	B（緑）*1		
	C（黄）*1		
	D（青）*1		

■ブルーレイディスクプレーヤー / HD DVDプレーヤーの操作

使用できるボタン			
②	TOP MENU	⑧	⏻SOURCE
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑨	DISPLAY
④	SETUP	⑩	MUTING
⑤	►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙	⑪	CH +/–
			DISC +/–
⑥	A（赤）	⑫	MENU
	B（緑）	⑬	RETURN
	C（黄）	⑭	AUDIO*1
	D（青）	⑮	CLR
⑦	数字 1～9、0、+10*1		

■DVDプレーヤー /DVDレコーダーの操作

使用できるボタン			
②	TOP MENU	⑧	⏻SOURCE
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑨	DISPLAY
④	SETUP	⑩	MUTING
⑤	►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙	⑪	CH +/–
			DISC +/–
⑥	A（赤）*1	⑫	MENU
	B（緑）	⑬	RETURN
	C（黄）*1	⑭	AUDIO*1
	D（青）*1	⑮	CLR
⑦	数字 1～9、0、+10*1		

■ビデオデッキテレビとの複合機などの操作

使用できるボタン			
②	GUIDE	⑨	DISPLAY
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑩	MUTING
④	SETUP	⑪	CH +/–
⑤	►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙	⑫	PREV CH
		⑬	RETURN
⑦	数字 1～9、0、+10	⑮	CLR
⑧	⏻SOURCE		

■衛星放送チューナー /ケーブルテレビチューナーの操作

使用できるボタン			
②	GUIDE	⑦	数字 1～9、0、+10
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑧	⏻SOURCE
④	SETUP	⑨	DISPLAY
⑤	►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙	⑩	MUTING
		⑪	CH +/–
⑥	A（赤）	⑫	PREV CH
	B（緑）	⑬	RETURN
	C（黄）	⑭	AUDIO
	D（青）	⑮	CLR

■CDプレーヤー /CDレコーダー /MDレコーダーの操作

使用できるボタン			
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑦	数字 1～9、0、+10
④	SETUP	⑧	⏻SOURCE
⑤	►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙	⑨	DISPLAY
		⑩	MUTING
⑥	SEARCH	⑪	DISC +/–
	REPEAT	⑮	CLR
	RANDOM		
	MODE		

■カセットテープデッキの操作

使用できるボタン	
⑤	►、◄（リバース再生）、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙
⑧	⏻SOURCE
⑩	MUTING

ご注意

- iPod/iPhoneの操作については「iPod/iPhoneを操作する」をご覧ください（➔ P.78）。
- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

*1 RIHD 機能には対応していません。本機が提供する RIHD 機能は、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）システム制御機能を使用して、CECに対応した機器と連動する機能です。

オンキヨー製ドックを使う

RI ドック

RI ドックを使うと、簡単な操作で、iPod/iPhoneに保存した音楽をすばらしいサウンドで再生したり、iPod/iPhoneのスライドショーや画像をテレビ画面で楽しめます。また、画面表示（OSD）を見ながら、iPod/iPhoneのコンテンツをテレビ画面で確認・検索・選択でき、付属のリモコンで、ソファにゆったり座ったままiPod/iPhoneを操作することが可能です。本機のリモコンでも操作できます。

■操作をはじめる前に

1. 本機のリモコンを初めて使う場合は、該当するリモコンコードを登録してからご使用ください（➔ **P.73**）。
2. RI ドックは、RIケーブルで本機に接続してください（➔ **P.25**）。
3. RI ドックのRI MODE（モード）切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に切り換えてください。
4. 本機の入力表示を「**DOCK**」にしてください（➔ **P.49**）。

■システム機能

システムオン

本機の電源を入れると、自動的にRI ドック、iPod/iPhoneの電源が入ります。また、RI ドック、iPod/iPhoneの電源が入っている場合は、⏻**SOURCE**（ソース）ボタンを押すと本機の電源が入ります。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のときにiPod/iPhoneを再生すると、本機はiPod/iPhoneを接続した入力に切り換わり、iPod/iPhoneの再生が始まります。

ダイレクトチェンジ動作

本機が他の入力のとき、リモコンでiPod/iPhoneを再生すると、iPod/iPhoneを接続した入力に自動的に切り換わり、iPod/iPhoneの再生をします。

本機リモコン操作

本機のリモコンで、iPod/iPhoneの基本的な操作を行うことができます。

ご注意

- iPod/iPhoneに他のアクセサリーが接続されていた場合、本機は適切に入力を選べないことがあります。
- システムオン機能は、ドックが対応していない場合があります。

iPodアラーム機能

iPodのアラーム機能を利用して再生を開始すると、指定した時刻に本機の電源が入り、iPodが入力ソースに選ばれます。

ご注意

- iPod/iPhoneとの連動動作は、iPod/iPhoneの機種や世代により対応していないものがあります。
- 映像の再生中や音楽以外のiPod内蔵の効果音（ビープ音）をアラーム音として設定している場合は、連動操作は機能しません。
- 音楽（楽曲）をアラーム音として設定できない機種はこの機能を使用できません。

■操作に関するご注意

- 本機のボリュームつまみで、再生音量を調整してください。
- iPod/iPhoneがRI ドックにセットされている間は、音量操作は効果がありません。
- ドックにセットされたiPod/iPhoneの音量調整を行ったときは、ヘッドホンを再び接続する前に、音量が高くないか確かめてください。

ドックは別売りです。
ドックの最新情報については、弊社ホームページをご覧ください。
http://www.jp.onkyo.com
ご使用になる前に、必ずご使用のiPod/iPhoneをiTunes経由で最新のバージョンにアップデートしてください。
対応しているiPod/iPhoneのモデルについては、オンキヨー製ドックの取扱説明書をご覧ください。

iPod/iPhoneを操作する

iPod/iPhoneドックのリモコンコードを登録した**REMOTE MODE**ボタンを押すことで、iPod/iPhoneドックにセットされたiPod/iPhoneを操作することができます。
リモコンコードの入力方法については、「リモコンコードを登録する」をご覧ください（→ **P.73**）。
詳しくは、ドックの取扱説明書をご覧ください。

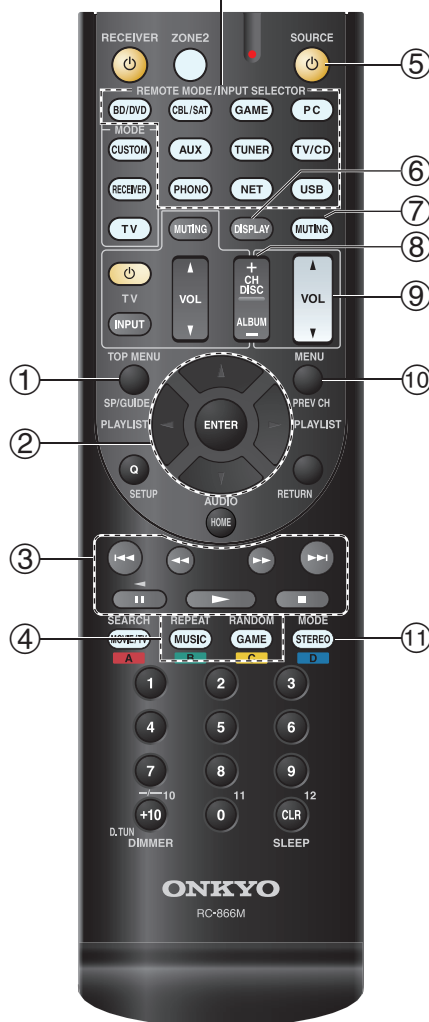
RIドック

- RIドックのRI MODEスイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に設定してください。
- ⏻**SOURCE**ボタンは、（RI連動なし）リモコンコードでは機能しない場合があります。この場合は、RI接続を行い、（RI専用）リモコンコード**81993**を入力します。

■RI連動を使う場合

この場合は、RI接続を行い、リモコンコード**81993**（RI専用）を入力します。
- 本機の入力表示を「**DOCK**」に設定してください（→ **P.49**）。

■RI連動を使わない場合

まず、リモコンコード**82990**を入力してください（→ **P.74**）。

■RIドックの操作

使用できるボタン			
①	**TOP MENU**[*1]	⑤	⏻**SOURCE**
②	**▲/▼/◄/►、ENTER**	⑥	**DISPLAY**[*2]
	PLAYLIST ◄/►	⑦	**MUTING**
③	**►、II、■、◄◄、►►、I◄◄、►►I**	⑧	**ALBUM +/−**
		⑨	**VOL ▲/▼**
④	**REPEAT**	⑩	**MENU**
	RANDOM	⑪	**MODE**

- iPod/iPhoneの機種・世代またはRIドックによっては、特定のボタンが意図したとおりに機能しない場合もあります。
- iPod/iPhoneおよびRIドックの操作の詳細については、RIドックに付属の取扱説明書をご覧ください。

*1 DS-A1 RIドックの場合、**TOP MENU**ボタンはModeボタンとして機能します。

*2 **DISPLAY**ボタンを押すと、バックライトが数秒間点灯します。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、１つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。
- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

■衛星放送チューナー / ケーブルテレビチューナー / 地上デジタルチューナー

ブランド名	コード番号
Arris	02187
DXアンテナ	01500
富士通ゼネラル	01497
日立	01284
ヒューマックス	00660, 02142, 02447, 03051, 03053, 01377, 01176, 01427, 01675, 01808, 01882, 01915, 02144, 02408, 02616
J:COM	03051, 03053
ビクター /JVC	00775
ケンウッド	00853
マスプロ	00173
NEC	01496
パナソニック	01488, 00847, 01304, 01404, 01982, 03099
フィリップス	00817, 01582, 02294, 02767, 00099, 00853, 00173, 01114, 00887, 00133, 02211
パイオニア	00853, 01308, 01500, 01877
サムスン	01877, 01060, 01666, 02015, 02774, 01377, 00853, 01175, 01206, 01458, 01662, 02986
Scientific Atlanta	01877, 00858, 01982, 02345
ソニー	01460, 00847, 00853, 01558, 02299
住友電工	01500
ティアック	01251
東芝	01284, 01509
ビデオトロン	01877

■IPテレビ

ブランド名	コード番号
Scientific Atlanta	00858, 02345

■IPテレビ/PVR一体型

ブランド名	コード番号
フィリップス	02294
Scientific Atlanta	00858

■CD/カセットデッキ

ブランド名	コード番号
タスカム	73095

■CDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	70157
デノン	70626, 70766
日立	70032
インテグラ	70101, 71817
ビクター /JVC	70072
ケンウッド	70036, 70157, 70626
マランツ	70029, 70157, 70626
オンキヨー	71817
パナソニック	70029, 70303
フィリップス	70157, 70626
パイオニア	70032, 70101
サンスイ	70157
ソニー	70000, 70490
タスカム	73533, 73095
ティアック	73531, 73551, 73532
テクニクス	70029, 70303
ヤマハ	70032, 70036, 70490

■CDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	70626, 70766
ビクター /JVC	70072
ケンウッド	70626
マランツ	70626
オンキヨー	71323
フィリップス	70626
ソニー	70000
タスカム	71830, 72304

■CDレコーダー /MDレコーダー

ブランド名	コード番号
タスカム	73511

■MDレコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	70868
ソニー	70000, 70490
ティアック	72977
ヤマハ	70490

■カセットデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	40029
デノン	40076
ビクター /JVC	40244
ケンウッド	40070
マランツ	40029
オンキヨー	42157
フィリップス	40029
パイオニア	40027
サンスイ	40029
ソニー	40243
ヤマハ	40097

■アクセサリ

ブランド名	コード番号
Apple	81115
Jamo	82228
Logitech	82182
オンキヨー	81993, 82351, 82990
Polk Audio	82228

■ビデオアクセサリ

ブランド名	コード番号
Apple	02615
フィリップス	02294
Scientific Atlanta	00858, 02345

■レシーバー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	52503

■テレビ

ブランド名	コード番号
バイ・デザイン	12140, 12209
DXアンテナ	11817, 13817
富士通ゼネラル	10809
フナイ	11817, 10171, 10668, 10714, 11037, 11394, 11666, 13817
日立	10150, 10178, 10037, 10634, 11037, 10508, 10499, 10578, 11576, 11585, 11643, 11667, 11691, 12433
ヒューマックス	11295
Hyundai	11037, 10698
ビクター /JVC	11428, 10508, 10650, 10653, 11601, 12271
LG	10178, 10556, 10037, 10714, 10715, 10698, 11423, 11768, 11840, 12182, 12358, 12424, 12834
マランツ	11454, 10556, 10037
三菱	11171, 10037, 10150, 10178, 10512, 10556, 11037, 11250
ナショナル	10208, 10508
NEC	10178, 10499, 10508, 10653
オリオン	10037, 10556, 10714, 11037, 12001
パナソニック	11480, 10037, 10650, 10508, 10208, 11636, 12170
フィリップス	10178, 10171, 11454, 10556, 10037, 10512, 10605, 10690, 11394, 11506, 11867, 12372
パイオニア	10037, 10698, 10512, 11457, 11636, 12171
サムスン	10178, 10556, 10037, 10618, 10650, 10208, 12051
サンヨー	11037, 10508, 10208, 11142, 11585, 11667, 11974
シャープ	11165, 10650, 10818, 11423, 11659
ソニー	10810, 11505, 11167, 11651, 11825
ティアック	10178, 10171, 10037, 10714, 10668, 11037, 10698, 10512, 11248, 11363, 11709, 11755
テクニクス	10556, 10650
Teco	10178, 10653
東芝	10195, 11037, 10618, 10650, 10508, 11169, 11508, 11524, 11652, 12203
ユニデン	12122
ウェスティング ハウス	11755
ヤマハ	10650, 11576

■ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
ヒューマックス	20739
パナソニック	20616
フィリップス	20739

■DVDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	30533
デノン	30490, 30634, 31634, 32258, 32748
フナイ	30675
日立	30573, 30713, 31664
ヒューマックス	30646
インテグラ	30503, 30571, 30627, 31612, 31634, 32147
ビクター /JVC	30503, 30539, 30623, 30867, 31597, 31602, 32855
ケンウッド	30490, 30534
LG	30741, 31602
ラックスマン	30573
マランツ	30539, 32414, 32432, 33444
三菱	30713
NEC	30741, 31602
オンキヨー	30503, 30627, 31612, 32147, 30571, 31634
オリオン	30713
パナソニック	30503, 30490, 31579, 31641, 32523, 32710, 32859
フィリップス	30503, 30539, 30646, 30675, 30713, 31340, 31354, 32056, 32084, 32434, 32689
パイオニア	30571, 30142, 30631, 31571, 32442, 32860
サムスン	30490, 30573, 30199, 30820, 31635, 32069, 32329, 32489, 33195
サンヨー	30713
シャープ	30630, 30675, 30713, 32250, 32474, 32652, 32869
ソニー	30533, 30864, 31033, 31070, 31431, 31516, 31633, 32180

ブランド名	コード番号
ティアック	34004, 30571, 30741, 30675, 31394
テクニクス	30490
東芝	30503, 31639, 32277, 32551, 32705, 33157
ヤマハ	30490, 30539, 30646, 30817, 31354, 32298, 32299

■ ブルーレイディスクプレーヤー

ブランド名	コード番号
デノン	32258, 32748
LG	30741, 31602
マランツ	32414, 32432, 33444
パナソニック	31641, 32523, 32859
フィリップス	32084, 32434, 32689
パイオニア	30142, 32442
サムスン	30199, 33195
フナイ	30675
シャープ	32250, 32474, 32652
ソニー	31516, 32180
タスカム	34004
東芝	32551, 32705, 33157
ヤマハ	32298, 32299

■ DVDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	30490
フナイ	30675
日立	31664
ヒューマックス	30646
ビクター /JVC	31597
LG	30741
パナソニック	30490, 31579, 32523, 32710, 32859
フィリップス	30646, 31340
パイオニア	30631, 32860
サムスン	30490, 31635
シャープ	30630, 30675, 32869
ソニー	31033, 31070, 31431, 31516, 31633, 32180
東芝	31639, 32277, 32551
ヤマハ	30646

■ テレビ/DVD一体型、テレビ/VCR一体型

ブランド名	コード番号
アイワ	21137
日立	11037, 11667, 30713
ビクター /JVC	12271
LG	10178, 11423, 20037
三菱	10556, 20081
パナソニック	12170
フィリップス	10037, 10556, 11454, 30539, 11394
シャープ	10818
ソニー	11505
ティアック	10171, 10178, 10698
テクニクス	10556
東芝	11524

ご注意

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

困ったときは

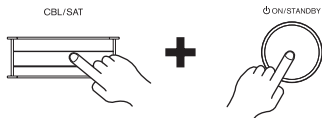
まず下記の内容を点検してみてください（文章の最後にある数字は参照ページ数です）。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

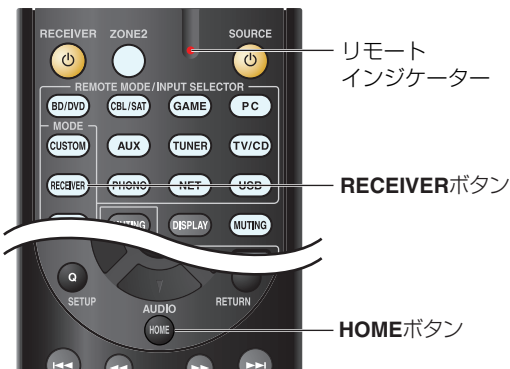
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法やFAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/

初期設定に戻す

修理を依頼される前に

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順で本機をリセットしてみてください。
電源を入れた状態で**CBL/SAT**ボタンを押したまま、⏻**ON/STANDBY**（オン/スタンバイ）ボタンを押す

表示部に「Clear（クリア）」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

初期設定に戻すと、ユーザー設定が消去されます。

リモコンを出荷時の初期設定に戻すには

RECEIVER（レシーバー）ボタンを押しながら、リモートインジケーターが点灯するまで**HOME**（ホーム）ボタンを3秒以上押します。30秒以内に**RECEIVER**ボタンをもう一度押してください。

操作画面は、本機とHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**（アウト メイン））しているテレビのみに表示されます。

電源

■電源が入らない

電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。

一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。

■本機の電源が切れる場合

自動スタンバイが作動すると、自動的にスタンバイ状態になります。（➔ P.69）

■電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

保護回路が動作しています。すぐにコンセントから電源コードを抜いてください。すべてのスピーカーコードと入力ソースの接続を確認して異常がなければ、電源コードを抜いた状態で1時間待ちます。
そのあと、電源コードを差し込んで、本機の電源を入れてください。
それでもなお電源が切れる場合は、リセット操作などは行わないで、電源コードを抜いてから、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。（➔ P.18）

ご注意：
- 表示部に「CHECK SP WIRE」が表示された場合は、スピーカーコードがショートしている可能性があります。

警告：
- 煙が出ている、変なにおいがする、異様な音がするなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

■音声が出力されない/小さい

適切なデジタル入力ソースが選ばれていることを確認してください。（➔ P.58）

接続ケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。（➔ P.19）

接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。（➔ P.19～25）

スピーカーコードの ⊕ / ⊖ は正しく接続されているか、むき出しの芯線部分がスピーカー端子の金属部分と接触していないか確認してください。（➔ P.17）

入力が正しく選択できているか確認してください。（➔ P.33）

スピーカーコードがショートしていないことを確認してください。（➔ P.18）

ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin、1…79、Max（80）まで調整できます。一般のご家庭で40前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。

表示部のMUTING表示が点滅している場合、リモコンの**MUTING**ボタンを押してミューティングを解除してください。（➔ **P.50**）

ヘッドフォンを**PHONES**端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。（➔ **P.25**）

HDMI IN端子に接続したDVDプレーヤーから音が出ない場合は、DVDプレーヤーの出力設定を確認し、対応している音声フォーマットを選んでください。

接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。

一部のDVD-Videoディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。

MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプとフォノイコライザが必要です。

接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。

リスニングモードによっては、音声が出力されないスピーカーがあります。（➔ **P.44**）

自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有/無」と「クロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。（➔ **P.29**、**59**～**60**）

測定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。

入力信号フォーマットが「**PCM**」または「**DTS**」に設定されている場合は、「**オフ**」に設定してください。（➔ **P.66**）

■ フロントスピーカーからしか音が出ない

StereoまたはMonoのリスニングモードを選んでいる場合は、フロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。（➔ **P.59**）

■ センタースピーカーからしか音が出ない

テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをDolby Pro Logic IIまたはDolby Pro Logic IIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。（➔ **P.59**）

■ サラウンドスピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereoやMono、T-D（Theater-Dimensional）のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。

入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。（➔ **P.59**）

■ センタースピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereo、Monoのときは、センタースピーカーから音が出ません。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。（➔ **P.59**）

■ フロントハイスピーカーやサラウンドバックスピーカーから音が出ない

入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。（➔ **P.59**）

■ サブウーファーから音が出ない

入力信号にサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。（➔ **P.59**）

■ 希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby Digital、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。（➔ **P.58**）

接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。（➔ **P.58**）

■ Pure Audioリスニングモードが選べない

ゾーン2がオンの場合、Pure Audioリスニングモードは選べません。

■ 希望するリスニングモードが選べない

スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「リスニングモード」でご確認ください。（➔ **P.44**）

■ 6.1/7.1再生ができない

サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーが接続されていない場合、6.1/7.1再生はできません。

接続されているスピーカーの数によっては、全てのリスニングモードを選ぶことはできません。（➔ **P.44**～**48**）

■ 音量に関する設定が希望通りにならない

付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「**スピーカー音量レベル**」、「**最大ボリューム値**」の設定を変更した場合は、最大音量値が変わる場合があります。（➔ **P.29**、**60**、**67**）

■ ノイズが聴こえる

コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。

オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。

■ レイトナイト機能が働かない

再生ソースがDolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDのいずれかになっているか確認してください。（➔ **P.54**）

「TrueHD Loudness Management」を「**オフ**」に設定している場合、Dolby TrueHD再生時のレイトナイト機能は効果がありません。（➔ **P.61**）

■DTS信号について

DTS信号を再生しているときは、本機の**dts**表示が点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても**dts**表示が点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。

一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。

DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

■HDMIに入力した音声の冒頭部分が聴こえない

HDMI信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声がすぐに出力されない場合があります。

映像

■映像が出ない/乱れる

すべての接続ケーブルのプラグがしっかり差し込まれていることを確認してください。（➔ **P.23**）

各映像機器が正しく接続されていることを確認してください。（➔ **P.19**）

テレビを本機のHDMI出力端子に接続しているときは「**モニター出力設定**」を出力端子に合わせて「**主**」または「**サブ**」に設定してください。再生ソースがビデオ（コンポジット）、コンポーネントビデオの場合、HDMI 出力端子から出力してテレビで映すには「**HDMI入力**」設定を「- - - - -」にしてください。（➔ **P.19、57**）

映像機器をコンポーネントビデオ入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を割り当て、**COMPONENT VIDEO OUT**端子またはHDMI出力端子にテレビを接続してください。（➔ **P.19、58**）

映像機器をコンポジットビデオ入力端子に接続している場合は、**MONITOR OUT V**端子またはHDMI出力端子にテレビを接続してください。（➔ **P.19**）

映像機器をHDMI入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を設定し、HDMI出力端子にテレビを接続してください。（➔ **P.19、57**）

リスニングモードがPure AudioになっているとHDMI入力端子から入力された映像以外の映像は出ません。

テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。

コンポジットビデオ入力端子から入力された映像が出ない場合は、選んでいる入力切換にコンポーネントビデオ入力端子が設定されていないか確認してください。設定されていると、その入力切換ではコンポジットビデオ入力端子から入力された映像は出力されません。コンポジットビデオ入力端子接続のみお使いの場合は、コンポーネントビデオ入力端子の設定を「- - - - -」にしてください。（➔ **P.58**）

コンポジットビデオ入力端子に接続した機器の映像を、**COMPONENT VIDEO OUT**端子に接続したテレビなどのモニターへ変換して出力することはできません。

「**モニター出力設定**」を「**両方**」に設定している場合、「**HDMIスルー**」設定は**HDMI OUT MAIN**端子にのみ有効です。（➔ **P.57、68**）

■HDMI入力端子に接続した機器の映像が出ない

HDMI-DVIアダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。（➔ **P.92**）

HDMI入力端子から入力した映像が出ないとき、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合テレビが、プレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。

■設定画面表示が出ない/操作内容が画面に表示されない

ご使用のテレビなど、モニター側の設定を確認してください。

「**OSD設定**」で「**オンスクリーンディスプレイ**」を「**オン**」にしてください。（➔ **P.67**）

操作画面は**HDMI OUT MAIN**端子に接続しているテレビまたはモニターのみに表示されます。

AM/FM放送に関して

■放送に雑音が入る/FMステレオ放送の時、サーというノイズが多い
FM放送で「FM STEREO」表示が完全に点灯しない

アンテナの接続をもう一度確認してください。（➔ **P.24**）

アンテナをスピーカーコードや電源コードから離してください。

テレビやコンピューターから離してください。

近くに自動車が走っていたり飛行機が飛んでいると雑音が入ることがあります。

電波がコンクリートの壁等で遮断されていると放送が受信しにくくなります。

モノラル受信に変更してみてください。（➔ **P.42**）

AM受信時リモコンを操作すると雑音が入る場合があります。

それでも受信状態が悪い時は市販の屋外アンテナをお薦めします。

リモコン

■リモコン操作ができない

リモコンで本機を操作する場合は、必ず**RECEIVER**ボタンを押してください。

電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。（➔ **P.15**）

新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。（➔ **P.15**）

リモコンと本機が離れ過ぎていないこと、リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がないことを確認してください。（➔ **P.15**）

本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。

本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置していると、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。

適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。(➔ P.14、75)

リモコンを使って他社製のAV機器を操作する場合は、一部のボタンが正しく動作しないことがあります。

適切なリモコンコードが入力されていることを確認してください。(➔ P.73)

本体とリモコンに同じリモートIDを設定してください。(➔ P.71)

■ RI専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンケーブルも接続してください(RIケーブルだけでは正しく連動しません)。(➔ P.25)

適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。(➔ P.14、78)

入力表示が正しく設定されているか確認してください(例:**TV/CD**端子にカセットテープデッキを接続した場合や、**GAME**(ゲーム)端子にRIドックを接続した場合)。(➔ P.49)

もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。(➔ P.74)

RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。(➔ P.74)

■ オンキヨー製機器(RI連動なし)や他メーカー機器の操作ができない

他機器との接続が正しいか確認してください。

もう一度リモコンコードを入力してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。(➔ P.73)

リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。(➔ P.14、75〜81)

リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。

製品によっては動作しない場合もあります。

RI ドック

■ 音が出ない

iPod/iPhoneが再生していることをご確認してください。

iPod/iPhoneがドックに正しく接続されているか確認してください。

本機の電源が入っているか、適切な入力が選ばれているか、音量が小さくなっていないか確認してください。

接続コードやケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。

一度iPod/iPhoneをリセットしてみてください。

■ 映像が出ない

iPod/iPhoneのテレビ出力設定が有効に設定されているか確認してください。

本機またはテレビで適切な入力が選ばれているか確認してください。

iPod/iPhoneの機種・世代によっては、映像は出力されません。

■ iPod/iPhoneが本機のリモコンで操作できない

iPod/iPhoneがドックにしっかり接続されているか確認してください。iPod/iPhoneをケースなどに入れている場合は、完全に接続できないことがありますので、必ずケースをはずして接続してください。

iPod/iPhoneの表示部にAppleロゴが表示されている間は操作できません。

適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。

本機のリモコンで操作する場合、リモコンは本機に向けて操作してください。

リモコン操作をする前に、iPod/iPhone本体で再生させてセレクタを認識させる必要のある場合があります。

一度iPod/iPhoneをリセットしてみてください。

iPod/iPhoneの機種・世代によっては、特定のボタンが意図したとおりに機能しない場合もあります。

■ 本機の入力が勝手に切り換わる

iPod/iPhoneの再生を一時停止しておいてください。iPod/iPhone再生検出機能により、再生曲が切り換わったときなどに、本機の入力が切り換わってしまいます。

■ iPod/iPhoneが正しく動作しない

一度iPod/iPhoneをドックから抜き、再度接続してみてください。

ゾーン2

■ 音が出ない

ゾーン2はアナログ信号と「**NET**」、「**USB**」入力セレクタの信号の場合のみ音が出ます。

無線LANネットワーク

■ 無線LANネットワークに接続できない。または再生音が途切れたり通信できない。

本機と無線LANルータの電源の抜き差しや、無線LANルータの電源オン状態の確認、および無線LANルータの再起動などをお試しください。

SSIDおよび暗号化設定(WEPなど)が正しくない。ネットワークの設定と本機の設定内容を合わせてください。

電波状態が悪いため、電波が届かない。無線LANルータからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しを良くしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のアクセスポイントから離して設置してください。

無線LANで使用する2.4GHz 帯の帯域が不足している可能性があります。「**ネットワーク**」の「**ネットワーク接続**」設定で「**有線**」に変更してから、本機の**ETHERNET**(イーサネット)端子とルータをイーサネットケーブルで接続してください。(➔ P.20、70)

2.4 GHz帯の電波を発する機器(電子レンジ、ゲーム機など)を離して設置してください。それでも改善されないときは、電波を発する他の機器の使用をおやめください。

他の無線LANを本機の近くで使用すると、再生音が途切れたり通信できないなど他にも色々な症状が発生する事があります。このような場合は無線LANルータのチャンネルを変更する事で回避できます。変更方法は無線LANルータの取扱説明書をご覧ください。

周囲に金属製の物があると、電波に影響を及ぼし、無線LANの接続ができない場合があります。

ネットワーク内で複数のアクセスポイントが存在している場合、アクセスポイントとアクセスポイントを離してください。

無線LANルータと本機は、同じ部屋に配置することを推奨します。

■無線LANルータのWPSボタンを押しても接続が完了しない

無線LANルータの設定が手動設定に切り換わっている場合があります。自動設定に戻してください。

手動でのセットアップをお試しください。つながる場合があります。

■テレビの設定画面のSSID一覧に、該当のSSIDが表示されない

無線LANルータがSSIDを隠す設定（ステルスモードなど）になっている場合や、ANY接続がオフになっている場合は、表示されません。設定を変えてお試しください。

Bluetooth

■Bluetooth接続しているのに音楽の再生ができない

お使いのBluetooth対応機器の特性や仕様によっては、本機で音楽を再生できない場合があります。

Bluetooth対応機器のボリューム設定が小さいと、音声が再生されないことがあります。Bluetooth対応機器のボリューム設定を大きくしてください。

Bluetooth対応機器によっては、送信/受信切換スイッチが搭載されている場合があります。送信に切り換えてお試しください。

Bluetooth対応機器で音楽ファイルを再生していても、本機と接続されていなければ、音声は再生されません。再度、接続（音声出力先に本機が選ばれている）されているか確認してください。

■音声が途切れる

Bluetooth対応機器に問題が発生している可能性があります。ホームページなどで情報を調べてみてください。

■Bluetooth対応機器との接続後、音質が低下した

受信状態がよくありません。Bluetooth対応機器を本機に近づける、またはBluetooth対応機器と本機の間にある障害物を取り除いてください。

■本機に接続できない

本機の電源抜き差しや、Bluetooth対応機器の電源オン/オフなどをお試しください。Bluetooth対応機器の再起動が効果的な場合もあります。

Bluetooth対応機器が本機に必要なプロファイルに対応していません。

Bluetooth 対応機器のBluetooth機能が有効になっていません。Bluetooth機能を有効にする方法については、Bluetooth対応機器の取扱説明書をご覧ください。

電子レンジ、コードレス電話機など2.4GHz帯の電波を使用する機器の近くでは電波干渉を起こしますので使用できないことがあります。

■Bluetooth 接続を確立できない

本機とご使用の機器との間で最初にBluetooth接続を確立する際に接続に失敗する場合は、ご使用の機器の電源を入れ直して機器名をクリアしてから、再度Bluetooth接続を確立してください。

周囲に金属製の物があると、電波に影響を及ぼし、Bluetoothの接続ができない場合があります。

無線LANとBluetoothを同時に使用している場合、「**ネットワーク**」の「**ネットワーク接続**」設定で「**有線**」に変更してから、本機の**ETHERNET**（イーサネット）端子とルータをイーサネットケーブルで接続すると、通信品質が向上する場合があります。（➔ **P.20**、**70**）

NET/USB機能

■ネットワークサーバーが使用できない

NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。

ネットワークサーバーが起動しているか確認してください。

ネットワークサーバーがホームネットワークに正しく接続されているか確認してください。

ネットワークサーバーが正しく設定されているか確認してください。

ルータのLAN側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。

本機の「**ネットワーク**」設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。（➔ **P.70**）

■ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。（➔ **P.93**～**95**）

パソコンをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア（Windows Media Player 12など）以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。

パソコンで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。

■インターネットラジオが聴けない

サービスプロバイダーがサービスを終了していると、本機でそのネットワークサービスやコンテンツを利用できなくなる場合があります。

特定のラジオ局だけが聴けない場合は、登録したURLが正しいか、またラジオ局から配信されているフォーマットが本機の対応しているものか確認してください。

NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。

モデムとルータが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。

他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。

ルータのLAN側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。

本機の「**ネットワーク**」設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。（➔ **P.70**）

ISPによってはプロキシサーバーを設定する必要があります。

お使いのISPがサポートしているルータやモデムを使用しているか確認してください。

■インターネットブラウザで本機の情報を表示できない

インターネットブラウザに本機のIPアドレスが正しく入力されているか確認してください。

IPアドレスの割り当てにDHCPを使用している場合、本機のIPアドレスが変わっている可能性があります。

本機とパソコンの両方が正しくネットワークに接続されているか確認してください。

■USBストレージが表示されない

USBメモリーやUSBケーブルが本機の**USB**端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。

USBストレージをいったん本機から外し、再度接続してみてください。

本機の**USB**端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。

コンテンツの種類によっては正常に再生できないことがあります。対応フォーマットをご確認ください。(➔ **P.94**)

セキュリティ機能付きのUSBメモリーの動作は保証できません。

その他

■待機時消費電力について

次の場合は、待機時消費電力が最大8.6Wになる場合があります。

- 「**ネットワーク**」設定の「**ネットワークスタンバイ**」設定が「**オン**」の時
- 「**HDMI CEC (RIHD)**」の設定が「**オン**」の時(ただし、テレビの状態により通常の待機時消費電力モードになります)
- 「**HDMIスルー**」設定を「**オフ**」以外に設定している時

(➔ **P.67、68、70**)

HDMI IN 1入力端子に接続しているMHL(Mobile High-definition Link)対応のモバイル機器を充電している場合、スタンバイ状態での消費電力が上記の数字より増加する場合があります。

■ヘッドホンを接続すると音が変わる

Direct、Pure Audio、Mono以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にStereoになります。(➔ **P.25**)

■表示部に表示が出ない

リスニングモードがPure Audioになっていると表示が消えます。

■多重音声の言語を切り換えたい

「**多重音声**」の「**入力チャンネル**」設定で「**主**」または「**副**」を選択します。(➔ **P.61**)

■RI連動機能が働かない

RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。(➔ **P.25**)

ゾーン2を選んでいる場合、連動機能は働きません。(➔ **P.25**)

■RI接続している機器でシステムオン、オートパワーオン、ダイレクトチェンジの機能が働かない

ゾーン2への出力をオンにしている場合、連動機能は働きません。(➔ **P.25**)

■自動スピーカー設定中に「騒音が大きすぎます。」というメッセージが出る

お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

■スピーカーの距離設定が希望通りにならない

設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

■本体表示部が暗い

Dimmer機能が働いていませんか?**DIMMER**ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。(➔ **P.49**)

■コンポジットビデオ入力に関する設定

設定する入力切換ボタンを押しながら、表示部に「Video ATT:On」が表示されるまで**HOME**ボタンを押します。設定を再開するには、上記の手順で表示部に「Video ATT:Off」が表示されるまでボタンを押してください。

- Video Attenuation

  この設定ができる入力切換ボタンは**BD/DVD**、**CBL/SAT**、**GAME**、**PC**、**AUX**です。

  ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェクターに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。

  Video ATT:Off:(お買い上げ時の設定)

  Video ATT:On:(信号を2dB減衰します)

■HDMI出力端子に接続しているテレビ/モニターの映像が安定しない場合、DeepColorの機能をオフに切り換えてみてください

DeepColor機能をオフにするには、**GAME**ボタンと⏻**ON/STANDBY**ボタンを同時に押してください。

GAMEボタンを押しながら、表示部に「Deep Color:Off」が表示されるまで⏻**ON/STANDBY**ボタンをくり返し押してください。DeepColor機能をオンするには、上記の手順で「Deep Color:On」が表示されるまでボタンを押してください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害(CDレンタル料等)については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

免責事項

外部サービスのご利用にあたって

本製品は外部の音楽配信サービスまたはウェブサイト（以下「外部サービス」とします）に接続することが可能です。この利用規約は、本製品を通じて外部サービスに接続する際の利用に関する諸条件を定めるものです（以下「本規約」とします）。

また、外部サービスをご利用の場合は、本規約に同意いただいたものとみなします。

1. 定義

（1） 「当社」とは、本製品を設計、製造、販売し、または第三者に設計、製造、販売させた会社及びその関係会社をいいます。

（2） 「コンテンツ」とは、楽曲、歌詞及びその録音物や録画物（ミュージックビデオ等の映像）、楽曲名、カバーアート、アーティスト画像、その他、外部サービスにより提供される電子データファイルの総称をいいます。

2. 非保証

（1） 外部サービスの利用に関して、本製品またはお客様が使用されている通信機器、通信ソフト等の一切のサポートならびに各種プロバイダとの接続に関する苦情等は一切受け付けないものとし、お客様の通信環境または外部サービスのサポート状況によって、外部サービスをご利用いただけない場合に関しましても、当社は保証致しかねます。

（2） お客様は、外部サービスのご利用にあたり、通信回線の接続状況または通信速度、お客様が使用する通信機器類の性質等の理由により、外部サービスの品質が影響を受ける可能性があることを事前に承諾するものとし、当社は予見可能性の有無を問わず、外部サービスの均一性、再現性、安定性、同質性ならびにお客様の期待される水準への合致等の品質または特定目的への適合性について、何らの保証を行うものではありません。

(3) 外部サービスにより提供されるコンテンツまたはサービスの内容及び権利の帰属について、当社は一切保証致しません。

3. 免責

外部サービスの提供の遅滞または不能、外部サービスにより提供される情報等の未到達その他外部サービスに関連して生じたいかなる損害についても、当社は理由の如何を問わず一切責任を負いません。

4. 権利義務の譲渡禁止

お客様は、当社の事前の書面による承諾によらず、本規約に基づく権利義務の全部または一部について、第三者に譲渡、移転等の処分または担保権の設定等をしてはならないものとします。

5. 規約の変更・改訂

（1） 当社は、お客様の承諾なくこの規約を変更または改訂できるものとします。

（2） 当該変更または改訂は、本製品にかかる当社所定のウェブサイト上に掲示するものとし、掲示された時点で効力を生じるものとします。

6. お問い合わせ

当社は外部サービスに関するいかなるお問い合わせもお受け致しかねます。

外部サービスに関するお問い合わせは、お客様が直接外部サービスの事業者に対して行うものとします。

7. 準拠法及び管轄裁判所

（1） 本規約は日本法に従って解釈されるものとします。

（2） 本規約に関して紛争が生じた場合は、当社の本店所在地を管轄する裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

映像解像度表

入力信号の種類や解像度に対して、本機が出力する映像信号の種類や解像度を調べるときは、下記映像解像度表をご覧ください。

✔：出力できます

入力 ＼ 出力		HDMI						
		4K*1	1080p/24	1080p	1080i	720p	480p	480i
HDMI	4K*2	✔*3						
	1080p/24	✔	✔*3					
	1080p	✔		✔*3				
	1080i	✔		✔	✔*3	✔		
	720p	✔		✔	✔	✔*3		
	480p	✔		✔	✔	✔	✔*3	
	480i	✔		✔	✔	✔	✔	✔*3
コンポーネント	1080p							
	1080i							
	720p							
	480p							
	480i	✔		✔	✔	✔	✔	✔*3
コンポジット	480i	✔		✔	✔	✔	✔	✔*3

入力 ＼ 出力		コンポーネント					コンポジット
		1080p	1080i	720p	480p	480i	480i
HDMI	4K*2						
	1080p/24						
	1080p						
	1080i						
	720p						
	480p/576p						
	480i/576i						
コンポーネント	1080p	✔					
	1080i		✔				
	720p			✔			
	480p/576p				✔		
	480i/576i					✔	
コンポジット	480i/576i						✔

*1 対応解像度：[3840×2160 30 Hz]、[3840 × 2160 24 Hz]、[4096 × 2160 24 Hz]

*2 **HDMI IN 1**端子から**HDMI IN 4**端子に対応していますが、4Kもしくは同等の解像度を同時に受信できるプレーヤー数は３台までとなる場合があります。

*3 **HDMI OUT SUB**端子の対応解像度

ファームウェアの更新について

ファームウェアの更新には、次のような方法があります。
ネットワーク経由で更新する、USB経由で更新する。
お客様の環境に応じて、いずれかの方法で更新してください。操作を始める前に、更新手順をよくお読みください。

■ネットワーク経由で更新する

インターネット接続が必要です。

■USB経由で更新する（➔ P.90）

USBメモリーなどのUSBストレージをご用意ください。32MB以上の容量が必要です。

ご注意

- アップデートの前に、ネットワークの接続を確認してください。
- アップデート中は絶対に本機に接続されているケーブルや機器に触らないでください。
- アップデート中は絶対に本機の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中はPCから本機にアクセスしようとしないでください。
- USBカードリーダーに挿入したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
- USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- 本機は、ハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- 本機は、セキュリティ機能付きUSBメモリーに対応していません。

免責事項
本プログラムおよび付随するオンラインドキュメンテーションは、お客様の責任においてご使用いただくために提供されます。弊社は、法理に関わらず、また不法行為や契約から生じるかを問わず、本プログラムまたは付随するオンラインドキュメンテーションの使用に際して生じたいかなる損害および請求に対して責任を負うものではなく、賠償することもありません。
弊社は、いかなる場合においても、補償、弁済、損失利益または逸失利益、データの損失その他の理由により生じた損害を含む（ただしこれらに限定されない）、特別損害、間接的損害、付随的又は派生的損害について、お客様または第三者に対して一切の責任を負いません。

最新の更新情報につきましては、弊社ウェブサイトをご覧ください。

ネットワーク経由でのファームウェア更新手順

ネットワーク接続を利用してファームウェアをアップデートできます。
* 実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

ご注意

- 本機とテレビの電源が入っていることと、インターネットに接続できていることを確認してください。
- アップデート中は絶対に本機の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中は絶対にHDMIケーブルやEthernetケーブルを抜き差ししないでください。
- アップデート中はPCから本機にアクセスしようとしないでください。
- アップデート完了まで約20分程度かかります。
- アップデート完了後も、お客様が行った諸設定は保持されます。

ファームウェアの更新を始める前に

- 「HDMI CEC (RIHD)」設定を「**オフ**」に設定してください（➔ P.67）。
- ネットワークに接続されたコントロール機器の電源をオフにしてください。
- 別室（ゾーン）をオフにしてください。
- 再生中のインターネットラジオ、USBまたは、サーバーなどを止めてください。

更新手順

1 リモコンのRECEIVER（レシーバー）ボタンを押して、HOME（ホーム）ボタンを押す
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。以降の操作は、本体のカーソル、**ENTER**（エンター）ボタンで操作することもできます。

2 「ファームウェアアップデート」を選び、ENTERボタンを押す
本メニューがグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

3 「ネットワーク経由のアップデート」を選び、ENTERボタンを押す
アップデート可能なファームウェアが存在しない場合は、この項目は選択できません。
本機をインターネットに接続してない場合は、「**ネットワーク経由のアップデート**」は表示されません。

4 「アップデート」を選び、ENTERボタンを押す
本機はアップデートを開始します。
アップデートが進むと、書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、アップデートの進行状況は本体表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。

5 アップデートが完了すると「Completed!」というメッセージが本機の表示部に表示される

6 前面パネルの⏻ON/STANDBY（オン/スタンバイ）ボタンを押すと、本機はスタンバイ状態になります

このときリモコンの⏻RECEIVER（レシーバー）ボタンは使用しないでください。
3分間何もしなかった場合も、自動的にスタンバイ状態になります。
これでアップデートは完了です。本機は最新のファームウェアに更新されました。

トラブルシューティング

ケース1：
エラー時は、本機の表示部で「**Error!! *-****」と表示されます。（アスタリスクは表示される英数字を表しています。）
以下の説明を参照し、確認してください。

■ エラーコード （ネットワーク経由のアップデート中）

エラーコード	エラー内容および対処方法
*-01, *-10	LAN（ラン）ケーブルが認識できません。 LANケーブルを正しく接続してください。 接続方法については、「ネットワーク機器の接続（任意接続）」をご覧ください（➔ **P.20**）。
*-02, *-03, *-04, *-05, *-06, *-11, *-13, *-14, *-16, *-17, *-18, *-20, *-21	インターネットに接続できません。 下記の項目を確認してください。 • IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNSサーバーが正しく設定されているか確認してください。 • ルータの電源が入っているか確認してください。 • 本機とルータがLANケーブルでつながっているか確認してください。 • ルータの設定を確認してください。設定については、ルータの取扱説明書をご覧ください。 • ネットワーク接続環境によっては、プロキシサーバーを設定する必要があります。設定については、ご利用の回線業者やプロバイダの資料をご確認ください。それでもインターネットにつながらない時は、DNSサーバーまたはプロキシサーバーが停止している可能性があります。サーバーの稼働状況をプロバイダにご確認ください。
その他	もう一度最初からやり直してください。 何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。

ケース2：
アップデート中にエラーが発生した場合、一度電源プラグを抜き、再度コンセントに差し込み、もう一度アップデートを行ってください。
ケース3：
ネットワーク環境がない場合は、巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターへご連絡ください。

USB経由でのファームウェア更新手順

USB端子を利用してファームウェアをアップデートできます。

ご注意
• アップデート中は絶対に本機の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
• アップデート中は絶対にHDMIケーブルやUSBストレージを抜き差ししないでください。
• アップデート中は絶対にファームウェア・ファイルの入ったUSBストレージや、電源コードの抜き差しをしないでください。
• アップデート中はPCから本機にアクセスしようとしないでください。
• アップデート完了まで約20分程度かかります。
• アップデート完了後も、お客様が行った諸設定は保持されます。

ファームウェアの更新を始める前に

• 「**HDMI CEC (RIHD)**」設定を「**オフ**」に設定してください（➔ **P.67**）。
• ネットワークに接続されたコントロール機器の電源をオフにしてください。
• 別室（ゾーン）をオフにしてください。
• 再生中のインターネットラジオ、USBまたは、サーバーなどを止めてください。
• USBストレージ内にデータがある場合は消去してください。

セットアップメニュー（**HOME**）の操作手順（➔ P.56）

更新手順

1 お使いのパソコンにUSBストレージを接続し、USBストレージ内にデータがある場合は消去する

2 弊社ホームページからパソコンにファームウェア・ファイルをダウンロードする

ファームウェアには、以下のようなファイル名がついています。

ONKAVR****_************.zip

パソコン上でこのファイルを解凍してください。機種により、ファイルやフォルダの数は異なります。

3 解凍したファイルやフォルダを全てUSBストレージのルートフォルダにコピーする

解凍する前のファイルはコピーしないでください。

4 上記のUSBストレージを本機のUSB端子に接続する

5 本機とテレビの電源が入っていることを確認する

本機がスタンバイ状態のときは、**ON/STANDBY**(オン/スタンバイ)ボタンを押して本機の表示部を点灯させます。

6 入力ソースをUSBにする

表示部に「Now Initializing...」と表示されたのちUSBストレージ名が表示されます。

USBストレージを認識するのに20～30秒かかります。

7 リモコンのRECEIVER(レシーバー)ボタンを押してから、HOME(ホーム)ボタンを押す

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。以降の操作は、本体のカーソル、**ENTER**(エンター)ボタンで操作することもできます。

8 「ファームウェアアップデート」を選び、ENTERボタンを押す

9 「USB経由のアップデート」を選び、ENTERボタンを押す

アップデート可能なファームウェアが存在しない場合は、この項目は選択できません。

本機にUSB ストレージを接続してない場合は、「**USB経由のアップデート**」は表示されません。

10 「アップデート」を選び、ENTERボタンを押す

本機はアップデートを開始します。

アップデートが進むと、書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、アップデートの進行状況は本体表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。

アップデート中は電源を切ったり、USBストレージを外したりしないでください。

11 アップデートが完了すると「Completed!」というメッセージが本機の表示部に表示されるので、USBストレージを抜く

12 前面パネルのON/STANDBYボタンを押すと、本機はスタンバイ状態になります

このときリモコンの**RECEIVER**ボタンは使用しないでください。

3分間何もしなかった場合も、自動的にスタンバイ状態になります。

これでアップデートは完了です。本機は最新のファームウェアに更新されました。

トラブルシューティング

ケース1：

エラー時は、本機の表示部で「Error!! *-**」と表示されます。（アスタリスクは表示される英数字を表しています。）エラーコードを参照し、確認してください。

■ エラーコード（USB経由のアップデート中）

エラーコード	エラー内容および対処方法
*-01, *-10	USBストレージが認識できません。USBメモリーやUSBケーブルが、本機のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。USBストレージで外部電源を供給できる製品は、外部電源をご使用ください。
*-05, *-13, *-20, *-21	USBストレージのルートフォルダにファームウェアファイルが存在しない、お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されている、などが考えられます。サポートページの案内に従って、もう一度ファームウェアファイルのダウンロードからやり直してください。何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。
その他	もう一度最初からやり直してください。何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。

ケース2：

アップデート中にエラーが発生した場合、一度電源プラグを抜き、再度コンセントに差し込み、もう一度アップデートを行ってください。

セットアップメニュー (**HOME**)の操作手順 (➔ P.56)

HDMIについて

放送のデジタル化に対応することを目的としたHDMI（High-Definition Multimedia Interface）は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、デジタルチューナーなどの映像機器の接続に対応した新しいデジタルインターフェイス規格です。これまで、映像機器を接続するには、さまざまな映像・音声コードが個別に必要でした。HDMIでは、1本のコードで、制御信号、デジタル映像、最大8チャンネルのデジタル音声（2チャンネルPCM、マルチチャンネルデジタル音声、マルチチャンネルPCM）を伝送できます。

HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）*1規格と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（テレビやモニターによってはこの機能が働かず、映像が出ない場合もあります。）

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しているため、HDCPに対応した映像機器のみ映像を表示できます。

本機のHDMIインターフェイスは以下の規格に基づいています。

オーディオリターンチャンネル、3D、x.v.Color、DeepColor、Lip Sync、4K（アップスケーリング、Passthrough）、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DSD、マルチチャンネルPCM

対応音声フォーマット

- 2チャンネルリニアPCM（32～192 kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1チャンネル、32～192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（DSD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio）

お使いのブルーレイディスク/DVDプレーヤーも上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権の保護について

本機は、デジタル映像信号の著作権保護技術であるHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しています。本機と接続する機器もHDCPに対応している必要があります。

*1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG*3が、1999年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

*2 HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要です。

*3 DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

ご注意

- HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（DVI接続では映像信号しか伝送されないため、別途音声接続を行う必要があります。）しかし、このようなアダプターを利用した場合の正常な動作は保証されていません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。
- HDMIの音声信号（サンプリングレート、ビット長など）は、接続した機器によって制限を受ける場合があります。HDMI接続した機器の映像の品質がよくない場合や音声が出ない場合は、機器側の設定を確認してください。詳細については、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク/USBについて

ホームネットワーク（LAN）について

複数の機器をケーブルなどで接続し、お互いに通信できるようにしたものをネットワークといいます。
家庭ではパソコンやゲーム機をインターネットに接続したり、複数のパソコンで相互にデータをやりとりしたりするために、ネットワークを作る（一般的に構築するといわれます）ケースが多いようです。
このように家庭内など比較的狭い範囲に構築されるネットワークはLAN（Local Area Network）と呼ばれます。
この取扱説明書では、このLANのことをもう少し身近に感じられるようにホームネットワーク（家庭のネットワーク）と書いています。
本機はパソコンなどのネットワークサーバーと接続することでネットワークサーバー内（パソコン内）の音楽ファイルを再生したり、インターネットと接続することでインターネットラジオを聴いたりすることができます。
このとき、本機とパソコンやインターネットを直接接続するわけではありません。
パソコンやインターネットと接続するためにいくつかの機器（ネットワーク機器）が必要になります。

ホームネットワーク（LAN）構築に必要な機器

本機のNET機能を使用するためのホームネットワーク（LAN）に必要な機器は以下の通りです。

■ルータ

本機とパソコンや、本機とインターネットの間に入って情報（データ）の流れをコントロールするのが、このルータという機器です。
ネットワークでは情報（データ）の流れをトラフィック（日本語では「交通」の意）といいます。ルータは各機器の中でトラフィックコントロールつまり情報の交通整理をする役割を担っています。

- 本機では **100Base-TXスイッチ内蔵のブロードバンドルータ**の使用を推奨します。
- また、**DHCP機能搭載**のルータであれば、ネットワークの設定を簡単にすることができます。
- ISP（インターネットサービスプロバイダ）と契約している場合（後述モデムの項参照）には、契約する**ISP業者が推奨するルータ**をご使用ください。

これらのルータについてはお買い求めの販売店または契約されているISPにご相談ください。

■イーサネットケーブル（CAT-5）

ネットワークを構成する機器同士を実際につなぎ合わせるのが、このイーサネットケーブルです。イーサネットケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルがあります。

- 本機ではCAT-5に適合したイーサネットストレートケーブルを使用します。

イーサネットケーブルについてはお買い求めの販売店にご相談ください。

■ネットワークサーバー（パソコンなど/ネットワークサーバー使用時）

音楽ファイルを入れておいて、再生時に本機に曲を提供する機器です。

- 本機で使用する際に必要な条件は、ネットワークサーバーとして使用する機器によって異なります。
- 本機で音楽ファイルを快適に再生するための条件は、使用するネットワークサーバー（パソコンの性能）に依存します。それぞれの機器使用については、各取扱説明書をご覧ください。

■モデム（インターネットラジオ使用時）

ホームネットワーク（LAN）とインターネットを接続する機器です。
モデムにはインターネットと接続する形式によってさまざまな種類があります。
また、インターネットに接続するにはISP（インターネットサービスプロバイダ）というインターネットへの接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。
インターネット接続には、契約する**ISP業者が推奨するモデム**をご使用ください。

1台でルータとモデムの機能を併せ持つ機器もあります。

以上のネットワーク機器のうち、NET機能「ネットワークサーバー」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、ネットワークサーバーが必要になります。
NET機能「インターネットラジオ」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、モデム（およびISPとの契約）が必要になります。

サーバーについて

■ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

本機は以下のネットワークサーバーに対応しています。

- Windows Media Player 11
- Windows Media Player 12
- DLNA準拠サーバー

ネットワークサーバーは本機と同じネットワークに接続していなければなりません。
1フォルダにつき20000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。

ご注意

- メディアサーバーの種類によっては、本機から認識できなかったり、サーバーに保存された音楽ファイルを再生できない場合があります。

■リモート再生する

リモート再生とは、ホームネットワーク内のDLNA準拠のコントローラー機器やPCを操作することによりそれぞれの機器に保存された音楽ファイルを本機で再生する機能です。

- Windows Media Player 12
- DLNA 1.5準拠のネットワークサーバー、コントローラー機器

※設定方法は使用するネットワークサーバーやコントローラー機器によって異なります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

Windows 8/Windows 7では、Windows Media Player 12が標準でインストールされています。詳しくは、マイクロソフト社のホームページをご覧ください。

USBデバイスについて

- 本機ではUSB Mass Storage Class規格に対応しているUSBストレージを使用できます。
- USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
- 1フォルダにつき20000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。
- 本機はハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。

ご注意

- 接続したメディアが対応していない場合、本機の表示部に「No Storage」というメッセージが表示されます。
- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- USB対応オーディオプレーヤーと本機を接続した場合、オーディオプレーヤーの画面と本機の画面が異なる場合があります。またオーディオープレーヤーに依存する管理機能（音楽ファイルの分類、ソート、付加情報など）は本機では使用できません。
- 本機の**USB**端子にパソコンを接続しないでください。本機の**USB**端子にはパソコンから音声を入力できません。
- USBカードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USBストレージに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。
- 本機の**USB**端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- 電池で動作するオーディオプレーヤーを使う場合は、電池の残量が充分にあることを確認してください。
- 本機はセキュリティ機能付きUSBメモリーに対応していません。

対応音声フォーマット

- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次の通りです。
- 下記のフォーマットであっても再生できる音楽ファイルは、ネットワークサーバーに依存します。たとえば、Windows Media® Player 12をお使いの場合、パソコンに入っているすべての音楽ファイルが再生できるわけではなく、Windows Media® Player 12のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。
- VBR（可変ビットレート）で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。

ご注意

- リモート再生では、本機は次のフォーマットには対応していません。
  - FLAC、Ogg Vorbis、DSD、Dolby TrueHD

■MP3（.mp3または.MP3）

- 対応フォーマット：MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbpsおよびVBR

■WMA（.wmaまたは.WMA）

- 著作権保護されたファイルは、再生できないことがあります。
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：5～320 kbpsおよびVBR
- WMA Pro/Voice非対応

■WMA Lossless（.wmaまたは.WMA）

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

■WAV（.wavまたは.WAV）

WAVファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

* 176.4 kHzと192 kHzは、USB再生には対応していません。

■AAC（.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GPまたは.3G2）

- 対応フォーマット：MPEG-2/MPEG-4 Audio
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbpsおよびVBR

■FLAC（.flacまたは.FLAC）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

■Ogg Vorbis（.oggまたは.OGG）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：48～500 kbpsおよびVBR
- 互換性のないファイルは再生できません。

■LPCM（Linear PCM）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

* ネットワーク経由での再生のみに対応しています。

■Apple Lossless（.m4a/.mp4/.M4A/.MP4）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

■DSD（.dsf or .DSF）

- 対応サンプリングレート：2.8224 MHz

■Dolby TrueHD（.vr/.mlp/.VR/.MLP）

- 対応サンプリングレート：48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

* USB再生は、48 kHzと64 kHzにのみ対応しています。

DLNAについて

DLNAとは、Digital Living Network Allianceの略称で、ホームネットワーク（LAN）によってパソコンやゲーム機、デジタル家電を相互に接続し、音楽や画像、動画などのデータをやりとりするための標準化を進めている団体の名称です。本機は、DLNAガイドラインV1.5に準拠しています。

ライセンスと商標について

x.v.Colorは、ソニー株式会社の商標です。

dts-HD Master Audio

米国特許：5,956,674; 5,974,380; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTSとそのシンボルはDTS社の登録商標です。また、DTS-HD、DTS-HD Master AudioおよびDTSロゴはDTS社の商標です。製品にはソフトウエアを含みます。
© DTS, Inc. All Rights Reserved.

DOLBY TRUE HD PRO LOGIC IIz

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、Pro LogicおよびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Music Optimizer™およびWRATは、オンキヨー株式会社の商標です。

HDMI HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

InstaPrevueおよびInstaPrevueロゴは、Silicon Image, Inc. の商標または登録商標です。

iPodおよびiPhoneは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の登録商標です。

AUDYSSEY MULTEQ DYNAMIC VOLUME

Audyssey Laboratories™からの実施権に基づき製造されています。米国および他の国々の特許申請中。
Audyssey MultEQ®、Audyssey Dynamic EQ®およびAudyssey Dynamic Volume®はAudyssey Laboratoriesの登録商標および商標です。

DLNA、DLNA CERTIFIEDは、Digital Living Network Allianceの商標または登録商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術とその特許に基づく許諾製品です。

この製品はMicrosoft社の特許に基づく許諾製品であり、その搭載技術をMicrosoft社の許可なく使用・販売することは禁じられています。

Microsoft、Windows、Windows Mobile、Windows Media、ActiveSync、DirectXおよびInternet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Qdeo、QuietVideoはMarvell社の商標です。

Theater-Dimensional

Theater-Dimensionalは、オンキヨー株式会社の商標です。

AACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

MHL、MHLロゴおよびMobile High-Definition Linkは、MHL LLCの商標または登録商標です。

Wi-Fi CERTIFIEDロゴは、Wi-Fi Allianceの登録商標です。
無線LANの互換性接続を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストを合格していることを示します。

BluetoothはBluetooth SIG, Inc.の登録商標です。

すべてのBluetooth機能対応製品とのワイヤレス通信を保証するものではありません。本機とBluetooth対応機器との互換性については、各Bluetooth対応機器に付属の取扱説明書を参照するか、または販売店にお問い合わせください。一部の国では、Bluetooth対応機器の使用が制限されている場合があります。Bluetooth対応機器の使用については、お住まいの各自治体にお問合せください。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力	全チャンネル 130W（6Ω、全高調波歪率0.08%以下、1ch駆動時、20Hz～20kHz、JEITA）
実用最大出力	全チャンネル 190W（6Ω、1kHz、1ch駆動時、JEITA）
ダイナミックパワー * * IEC-60268-short-term maximum output power.	240W（3Ω、Front） 210W（4Ω、Front） 120W（8Ω、Front）
総合ひずみ率	0.08%（20Hz～20kHzハーフパワー）
ダンピングファクター	60（Front、1kHz、8Ω）
入力感度/インピーダンス	LINE：200mV/47kΩ PHONO MM：2.5mV/47kΩ
RCA定格出力電圧/インピーダンス	LINE OUT：200mV/2.2kΩ
RCA最大出力電圧/インピーダンス	LINE OUT：2V/2.2kΩ
PHONO最大許容入力	70mV（MM 1kHz 0.5% Direct）
周波数特性	5Hz～100kHz/+1dB、－3dB（Direct mode）
トーンコントロール最大変化量	Bass：±10dB（30Hz時） Treble：±10dB（20kHz時）
SN比	106dB（LINE、IHF-A） 80dB（PHONO MM、IHF-A）
スピーカー適応インピーダンス	4Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス	1.0Vp-p/75Ω（コンポーネントY） 0.7Vp-p/75Ω（コンポーネントPb/Cb、Pr/Cr） 1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）
コンポーネント映像周波数特性	5Hz～100MHz/+0dB、－3dB

AM/FMチューナー部

FM受信範囲	76.0MHz～90.0MHz
AM受信範囲	522kHz～1629kHz
プリセットチャンネル数	40

ネットワーク部

イーサネットLAN	10BASE-T/100BASE-TX
無線LAN 対応規格	IEEE 802.11 b/g/n 準拠（Wi-Fi® 準拠）
セキュリティー	WEP 64 bit, WEP 128 bit, WPA/WPA2-PSK（AES), WPA/WPA2-PSK（TKIP）
伝送周波数	1 - 13または14 ch（Wi-Fi® 準拠）
ラジオ周波数	2.4 GHz

Bluetooth部

通信システム	Bluetoothバージョン 2.1 ＋ EDR（Enhanced Data Rate）
最大通信範囲	見通し線 約15 m[*1]
周波数帯域	2.4 GHz 帯域（2.4000 GHz – 2.497 GHz）
変調方式	FHSS（周波数ホッピングスペクトラム拡散）
対応プロファイル	A2DP 1.2（Advanced Audio Distribution Profile） AVRCP 1.3（Audio Video Remote Control Profile）
対応コーデック	SBC
伝送範囲（A2DP）	20 Hz – 20,000 Hz（サンプリング周波数44.1 kHz）

*1 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

総合

電源・電圧	AC100V・50/60Hz
消費電力	480W
無音時消費電力	75W
待機時電力	0.1W
最大外形寸法	435（幅）×173.5（高さ）×328（奥行）mm
質量	9.8kg

■HDMI

入力	IN 1、IN 2、IN 3、IN 4、IN 5、IN 6
出力	OUT MAIN、OUT SUB
映像解像度	4K
音声形式	Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DVD-Audio、DSD
対応	3D、オーディオリターンチャンネル、DeepColor、x.v.Color、Lip Sync、CEC（RIHD）、4K（アップスケーリング、Passthrough）

■映像入力

コンポーネント	IN 1
コンポジット	BD/DVD、CBL/SAT、GAME、PC、AUX

■映像出力

コンポーネント	OUT
コンポジット	MONITOR OUT

■音声入力

デジタル	OPTICAL：1 COAXIAL：2
アナログ	BD/DVD、CBL/SAT、GAME、PC、TV/CD、PHONO、AUX

■音声出力

アナログ	ZONE2 LINE OUT
サブウーファープリ	2
スピーカー	左右フロント、センター、左右サラウンド、左右サラウンドバック/左右フロントハイ
ヘッドフォン	1（φ6.3）

■その他

セットアップマイク	1
イーサネット	1
USB	1（前面）
RI	1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ご相談窓口・修理窓口のご案内

■販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は

保証の手続き上、お買い上げになった販売店様での受付けが必要となりますので、この場合は販売店様店頭への修理品お持込みをお願いいたします。

■「引取便サービス」による修理受付け

引取便サービスは弊社指定の配送業者が修理品を引取りに伺うサービスです。引取日時をご指定いただけます。

＜お電話でのお申込み＞

オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555
（受付時間：10:00～18:00　土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

＜メールでのお申込み＞

http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→
「修理のお手続き」で閲覧可能）

■お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。お持込みの際には営業日を確認のうえでご訪問いただくようお願いします。

http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→
「修理のお手続き」で閲覧可能）

■商品についてのご相談、リモコン等付属パーツ、その他ご不明な点は

下記のオンキヨーオーディオコールセンターへご相談ください

オンキヨーオーディオコールセンター　050-3161-9555
（受付時間：10:00～18:00　土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます）

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より１年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。ONKYOホームページにサポート情報
（http://www.jp.onkyo.com/support/audiovisual/index.htm）がございますので、そちらもあわせてご確認ください。また、本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品等もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。修理を依頼されるときは、次の事項をオンキヨーオーディオコールセンター、または「ご相談窓口・修理窓口のご案内」記載の他の修理窓口までお知らせください。

- ▶ 製品の型番
- ▶ 接続している他機器
- ▶ できるだけ詳しい故障状況
- ▶ ご購入店名
- ▶ ご購入年月日

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、保証書をご用意のうえ、オンキヨー修理窓口またはお買い上げの販売店へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は、販売店様店頭への修理品お持込みをお願いいたします。

■保証期間経過後の修理は

オンキヨー修理窓口またはお買い上げ店へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後、最大８年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでオンキヨー修理窓口等へご相談ください。

2013年２月現在　電話番号、受付時間などは変更になることがございます。